

平成27-29年度

府中市 美術館 年報

ANNUAL
REPORTS
OF
FUCHU
ART
MUSEUM

April 2015-March 2018

府中市美術館年報 — 平成27—29年度 —

ANNUAL REPORTS OF FUCHU ART MUSEUM April 2015-March 2018

平成27-29年度

府中市 美術館 年報

ANNUAL
REPORTS
OF
FUCHU
ART
MUSEUM

April 2015-March 2018

目次

年報の発行にあたって…………… 3

沿革…………… 4

1. 展覧会事業

1 | 企画展広報物・図録及び出版物 …………… 5

2 | 企画展一覧 ……………14

3 | 常設展一覧 ……………63

2. 作品及び資料

1 | 新収蔵作品 ……………64

2 | 美術資料の修復 ……………67

3 | 作品貸出状況 ……………67

4 | 図書及びその他の資料 ……………69

3. 教育普及事業

1 | 公開制作 ……………70

2 | アートスタジオ ……………77

3 | ワークショップ ……………80

4 | 美術鑑賞教室 ……………81

5 | 教員研修会 ……………81

6 | 団体鑑賞支援 ……………82

7 | 大学等連携事業 ……………83

4. ボランティア活動 ……………85

5. 市民文化の日 ……………85

6. 市民ギャラリー

1 | 利用一覧 ……………86

2 | 市民ギャラリーにおける主催・共催事業 ……………87

7. 出版・広報

1 | 出版物 ……………88

2 | ホームページ ……………88

8. 調査研究……………88

9. 利用者数一覧 ……………89

10. 関係法規等

1 | 関係法規 ……………90

2 | 組織 ……………94

3 | 各種委員会 ……………94

11. 利用案内

1 | 開館時間、休館日、観覧料など ……………95

2 | 館内設備 ……………95

3 | 交通案内 ……………95

4 | 所在地 ……………95

年報の発行にあたって

府中市美術館は平成12年に開館し、来年には20周年を迎える。この「年報」4号は平成27年4月から平成30年3月までの3年間の事業内容の記録である。

美術館には「見える」場面と「見えない」部分がある。一つは展示空間で、企画展、常設展、市民ギャラリーでの展覧会がそれにあたる。作品が来館者に語りかけるいわば表舞台である。それにアートスタジオ、ワークショップ、美術館講座、研修会・実習、市民文化の日等のイベント、小中学校美術鑑賞教室も、美術館の「見える」部分であるとともに、美術館のメンバーが来館者と会話を交わす機会でもある。公開制作では作家の日常に出会い、制作の進捗状況を知ることができる。

そうした美術館活動を支えるのは「見えない」部分である。企画、広報、調査研究を含むアーカイブ形成、作品の収集、修復、貸出等がある。美術館の管理を担う事務とともにバックヤードの部分である。美術館機能は「見える」、「見えない」部分それぞれをいかに一体化するかに拠っている。年報はこうした府中市美術館の多岐にわたる活動を振り返るものである。

平成31年3月には耐震補強工事等が終了した。府中市美術館は府中市民によって支えられている美術館として、地域の特性を生かした美術館を目指している。表現が生活の中で生かされる、強い発信の場となることを願いたい。

新たな出発を期して、日頃ご協力をいただいている関係各位に一層、ご理解をいただき、次世代への提言や指針の一助とさせていただけたら幸いである。

平成31年3月

藪野 健
府中市美術館館長

3. マリー・ローランサン [平成27年9月12日－12月20日]



[チラシ]

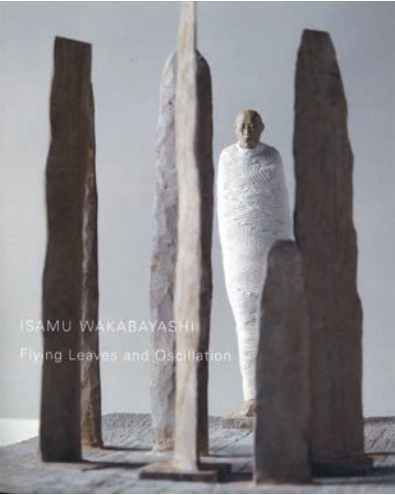


[図録]
編集:府中市美術館、碧南市藤井達吉現代美術館、
浜松市美術館、中日新聞社
発行:中日新聞社

4. 若林奮 飛葉と振動 [平成28年1月9日－2月28日]



[チラシ]



[図録]
編集:名古屋美術館、足利市立美術館、神奈川県立近代美術館、
府中市美術館、うらわ美術館
発行:読売新聞社、美術館連絡協議会

5. ファンタスティック 江戸絵画の夢と空想 [平成28年3月12日－5月8日]



[チラシ]



[図録]
編集・発行:府中市美術館



[ワークシート]
編集・発行:府中市美術館

6. 麗しき故郷「台湾」に捧ぐー立石鐵臣展 [平成28年5月21日－7月3日]



[チラシ]



[図録]
編集・発行:府中市美術館

7. とことん!夏のびじゅつ(じ)かん [平成28年7月16日－9月11日]



[チラシ]



[展示記録集]
編集・発行:府中市美術館

[ワークシート]
編集・発行:府中市美術館

8. 生誕130年記念 藤田嗣治展—東と西を結ぶ絵画 [平成28年10月1日－12月11日]



[チラシ]



[図録]
編集:名古屋市美術館、兵庫県立美術館、府中市美術館、
中日新聞社
発行:中日新聞社

9. ガラス絵 幻惑の200年史 [平成28年12月23日－平成29年2月26日]



[チラシ]



[図録]
編集・発行:府中市美術館

10. 歌川国芳 21世紀の絵画力 [平成29年3月11日－5月7日]



[チラシ]



[図録]
編集:府中市美術館
発行:講談社



[ワークシート]
編集・発行:府中市美術館



[バインダールガイドブック]
編集・発行:府中市美術館

11. 浅野竹二の木版世界 [平成29年5月20日ー7月2日]



[チラシ]



[図録]編集・発行:府中市美術館

12. ぱれたん動物園 [平成29年7月15日ー8月27日]



[チラシ]



[ワークシート]
編集・発行:府中市美術館

13. フィンランド独立100周年記念 フィンランド・デザイン展 [平成29年9月9日ー10月22日]



[チラシ]



[図録]
編集:キュレーターズ
発行:日本経済新聞社

14. 正宗得三郎 [平成29年11月3日ー12月28日]



[チラシ]



[図録]編集・発行:府中市美術館

15. 絵画の現在 [平成30年1月13日-2月25日]



[チラシ]



〔図録〕
編集・発行:府中市美術館



〔図録別冊〕
編集・発行:府中市美術館

公開制作パンフレット



公開制作のコンセプトや制作状況を記録したパンフレット。(A4判、6頁)
編集・発行:府中市美術館

- 公開制作64 タイポグラフィの実験室
公開制作65 バルコキノシタ スウィート・ヒアアフター
公開制作66 高山陽介
公開制作67 西本良太 PLAYING ON A SURFACE
公開制作68 谷山恭子 なぜ その風景が面白いのか
公開制作69 風間サナコ たゆまぬほくら
公開制作70 狩野哲郎 すべての部分が固有の形になる
公開制作71 原倫太郎 回転から、はじまる
公開制作72 大小島真木 万物の眠り、大地の血管

年間スケジュール



16. リアル 最大の奇抜 [平成30年3月10日-5月6日]



[チラシ]



〔図録〕
編集・発行:府中市美術館



〔ワークシート〕
編集・発行:府中市美術館

府中市美術館だより



展覧会などの紹介や関連記事を掲載した小冊子。
(B5判、カラー 8頁 年2回発行)
編集・発行:府中市美術館

- vol.42 平成27年7月
vol.43 平成28年3月
vol.44 平成28年7月
vol.45 平成29年3月
vol.46 平成29年7月
vol.47 平成30年2月

研究紀要



府中市美術館研究紀要 第20号
平成28年3月22日

府中市美術館研究紀要 第21号
平成29年3月30日

平成 27 年度

1. 武蔵府中・炎の油画家5人展―反町博彦・大森朔衛・高森明・戸嶋靖昌・保多棟人
〔平成 27 年 5 月 16 日―7 月 5 日〕
2. ばれたんリポート
〔平成 27 年 7 月 18 日―8 月 30 日〕
3. マリー・ローランサン
〔平成 27 年 9 月 12 日―12 月 20 日〕
4. 若林奮 飛葉と振動
〔平成 28 年 1 月 9 日―2 月 28 日〕
5. ファンタスティック 江戸絵画の夢と空想
〔平成 28 年 3 月 12 日―5 月 8 日〕

平成 28 年度

6. 麗しき故郷「台湾」に捧ぐ―立石鐵臣展
〔平成 28 年 5 月 21 日―7 月 3 日〕
7. とことん!夏のびじゅつ(じ)かん
〔平成 28 年 7 月 16 日―9 月 11 日〕
8. 生誕 130 年記念 藤田嗣治展―東と西を結ぶ絵画
〔平成 28 年 10 月 1 日―12 月 11 日〕
9. ガラス絵 幻惑の 200 年史
〔平成 28 年 12 月 23 日―平成 29 年 2 月 26 日〕
10. 歌川国芳 21 世紀の絵画力
〔平成 29 年 3 月 11 日―5 月 7 日〕

平成 29 年度

11. 浅野竹二の木版世界
〔平成 29 年 5 月 20 日―7 月 2 日〕
12. ばれたん動物園
〔平成 29 年 7 月 15 日―8 月 27 日〕
13. フィンランド独立 100 周年記念 フィンランド・デザイン展
〔平成 29 年 9 月 9 日―10 月 22 日〕
14. 正宗得三郎
〔平成 29 年 11 月 3 日―12 月 28 日〕
15. 絵画の現在
〔平成 30 年 1 月 13 日―2 月 25 日〕
16. リアル 最大の奇抜
〔平成 30 年 3 月 10 日―5 月 6 日〕

1. 武蔵府中・炎の油画家5人展―反町博彦・大森朔衛・高森明・戸嶋靖昌・保多棟人

〔平成 27 年 5 月 16 日―7 月 5 日〕

開催主旨：

絵画の「激しさと豊かさ」をテーマとして、府中ゆかりの 5 人の油彩画家を紹介した。筆線が律動する反町博彦（1911-2009）。絵画に詩情を込めた大森朔衛（1919-2001）。深海の静寂を凝結させる高森明（1929-2017）。魂の慟哭が聞こえる戸嶋靖昌（1934-2006）。生の苦悶と歓びを刻んだ保多棟人（1947-1981）。彼らが画布に灯した「魂の炎」をご覧ください。

観覧料：

一般 700 円（560 円）、高校生・大学生 350 円（280 円）、小学生・中学生 150 円（120 円）＊（ ）内は 20 名以上の団体料金

主催：

府中市美術館

出品点数：

99 点

入場者数：

4,362 名（開催日数:44 日間、一日平均 99 名）

印刷物：

〔カタログ〕 B5 判 152 頁 〔ポスター〕 B2 判 〔チラシ〕 A4 判二つ折り 4 頁

関連イベント：

〔土曜スライドトーク〕

志賀秀孝（当館学芸係長）、毎週土曜日、講座室（142 名）

〔ギャラリートーク〕

志賀秀孝（当館学芸係長）、6 月 20 日、企画展示室（22 名）

〔ギャラリーコンサート「野をわたる風のように」〕

演奏・保多由子（声楽家）、6 月 20 日、企画展示室ロビー（160 名）

関連記事：

桑原聡 「鈍機翁のため息 313 間奏Ⅱ 魂の画家・戸嶋靖昌」

産経新聞 2015 年 7 月 7 日

出品作品

No.	作者	作品名	制作年	所蔵
■ 反町博彦				
1	反町博彦	静物	1924 年	個人蔵
2	反町博彦	怒涛	1949 年	個人蔵
3	反町博彦	山の工場	1979 年	個人蔵
4	反町博彦	街(B)	1978 年頃	個人蔵
5	反町博彦	山容	1988 年	個人蔵
6	反町博彦	海原		府中市
7	反町博彦	残雪	1986 年頃	個人蔵
8	反町博彦	廃坑の山	1990 年頃	府中市美術館
9	反町博彦	鉦山	1990 年頃	府中市美術館
10	反町博彦	記念の館	1990 年頃	府中市(中央図書館)
11	反町博彦	らくがきのある記念建造物	1992 年	個人蔵
12	反町博彦	らくがき(A)	1993 年	府中市美術館
13	反町博彦	雪にあそぶ	1995 年	個人蔵
14	反町博彦	海原	1996 年	個人蔵
15	反町博彦	絢花	1989 年	個人蔵
16	反町博彦	梅花点香	2003 年	個人蔵
17	反町博彦	残雪の御嶽山	2000 年	個人蔵
18	反町博彦	瑞牆山(みずがきやま)	2002 年	個人蔵
19	反町博彦	滞船	2001 年	個人蔵
20	反町博彦	潮騒	2005 年	個人蔵
■ 大森朔衛				
21	大森朔衛	讃岐路豊稜	1940 年	個人蔵
22	大森朔衛	街	1947 年	個人蔵
23	大森朔衛	おらんおらむ	1954 年	個人蔵
24	大森朔衛	60 海峡	1960 年	個人蔵
25	大森朔衛	陸	1966 年	府中市(中央図書館)
26	大森朔衛	裸婦	1969 年	個人蔵
27	大森朔衛	上流	1970 年	個人蔵
28	大森朔衛	眼の壁	1970 年代	個人蔵
29	大森朔衛	湾	1978 年	個人蔵
30	大森朔衛	対岸(わが窓より)	1980 年	個人蔵
31	大森朔衛	陸 88	1988 年	個人蔵
32	大森朔衛	陸 A	1959 年	武蔵野美術大学美術館・図書館

No.	作者	作品名	制作年	所蔵
33	大森朔衛	のろし	1994 年	個人蔵
34	大森朔衛	海峡	1996 年	個人蔵
35	大森朔衛	段崖	1997 年	府中市美術館

■ 高森明

36	高森明	自画像		個人蔵
37	高森明	農家	1950 年	個人蔵
38	高森明	鳥	1960 年	個人蔵
39	高森明	エイ(A)		府中市美術館
40	高森明	怪魚	1961 年	府中市美術館
41	高森明	魚・鳥	1970 年	個人蔵
42	高森明	鳥(B)	1972 年	府中市美術館
43	高森明	怪鳥	1972 年	個人蔵
44	高森明	カスベ遊歩	1971 年	府中市美術館
45	高森明	運河の街		府中市美術館
46	高森明	はね橋のある風景	1982 年	個人蔵
47	高森明	川辺の倉庫	1974 年	個人蔵
48	高森明	橋	1990 年	府中市美術館
49	高森明	水門のある風景	1994 年	個人蔵
50	高森明	裸婦横臥	2000 年	個人蔵
51	高森明	裸婦のある風景	1996 年	府中市美術館
52	高森明	裸婦横臥	2012 年	府中市美術館

■ 戸嶋靖昌

53	戸嶋靖昌	夢見る裸婦―立像習作―	1963 年	戸嶋靖昌記念館
54	戸嶋靖昌	名づけえぬもの	1969 年	戸嶋靖昌記念館
55	戸嶋靖昌	石化の象	1972 年	戸嶋靖昌記念館
56	戸嶋靖昌	森と抽象	1969 年	戸嶋靖昌記念館
57	戸嶋靖昌	冬の庭	1971 年	戸嶋靖昌記念館
58	戸嶋靖昌	青ざめた森	1972 年	戸嶋靖昌記念館
59	戸嶋靖昌	アスナルカサルの家	1975 年	戸嶋靖昌記念館
60	戸嶋靖昌	アスナルカサルよ	1975 年	戸嶋靖昌記念館
61	戸嶋靖昌	街・三ツの塔―グラナダ遠望―	1984 年	戸嶋靖昌記念館
62	戸嶋靖昌	裸（Ra）	1984 年	戸嶋靖昌記念館
63	戸嶋靖昌	Desnuda の象	1985 年	戸嶋靖昌記念館
64	戸嶋靖昌	黒のミゲール	1990 年	戸嶋靖昌記念館
65	戸嶋靖昌	クリスティースの像	1985 年	戸嶋靖昌記念館
66	戸嶋靖昌	アルバイシンの男―ミゲールの像―	1990 年	戸嶋靖昌記念館
67	戸嶋靖昌	立つベドロ	1991 年	戸嶋靖昌記念館
68	戸嶋靖昌	見つめるロベス	1992 年	戸嶋靖昌記念館
69	戸嶋靖昌	ひとの像―パレリーの像―	1996 年	戸嶋靖昌記念館
70	戸嶋靖昌	アルバイシンのミゲール	1992 年	戸嶋靖昌記念館
71	戸嶋靖昌	コルクの森―El Alcornoque―	1996 年	戸嶋靖昌記念館
72	戸嶋靖昌	クエンカ―スペイン風景―	1997 年	戸嶋靖昌記念館
73	戸嶋靖昌	黒と静物	1998 年	戸嶋靖昌記念館
74	戸嶋靖昌	黒の草舟	2005 年	戸嶋靖昌記念館
75	戸嶋靖昌	夜の草舟	2005 年	戸嶋靖昌記念館

■ 保多棟人

76	保多棟人	自画像	1976 年	府中市美術館
77	保多棟人	三本杉	1972 年	個人蔵
78	保多棟人	多摩丘陵の畑	1976 年	個人蔵
79	保多棟人	多摩造成地	1976 年	府中市美術館
80	保多棟人	樹根	1976 年	個人蔵
81	保多棟人	多摩造成地	1977 年	個人蔵
82	保多棟人	冬木立	1976 年	個人蔵
83	保多棟人	砂利採掘場	1979 年	府中市美術館
84	保多棟人	自画像		個人蔵
85	保多棟人	自画像		個人蔵
86	保多棟人	自画像	1980 年	個人蔵
87	保多棟人	自画像	1981 年	個人蔵
88	保多棟人	石膏のある静物	1981 年	個人蔵
89	保多棟人	裸婦	1981 年	個人蔵
90	保多棟人	裸婦	1981 年	個人蔵

No.	作者	作品名	制作年	所蔵
91	保多棟人	平久保の椎	1976 年	個人蔵
92	保多棟人	平久保の椎	1981 年	個人蔵
93	保多棟人	平久保の椎	1981 年	個人蔵
94	保多棟人	平久保の椎	1981 年	個人蔵
95	保多棟人	平久保の椎	1981 年	個人蔵
96	保多棟人	平久保の椎	1981 年	府中市美術館
97	保多棟人	平久保の椎	1980 年	個人蔵
98	保多棟人	平久保の椎	1981 年	個人蔵
99	保多棟人	平久保の椎	1981 年	個人蔵

2. ばれたんリゾート

〔平成 27 年 7 月 18 日－8 月 30 日〕

開催主旨：

絵の国の妖精「ばれたん」の案内で府中市美術館の所蔵品を楽しむ展覧会で、シリーズ7回目の開催となった。今回のテーマは「リゾート」。「虹のかなたへ」「さわってもじゃもじゃ洞窟探検」「なぞの熱帯植物園」「ばれたん水中さんぽ」「ゆけ!ばれグライダー」「むら田高原美術館」の6コーナーを設けた。実際に絵を描いたり、工作をしたりしながら、作品を鑑賞できる展覧会であった。

観覧料：

一般 400 円（320 円）、高校生・大学生 200 円（160 円）、小学生・中学生 70 円（50 円）＊（ ）内は 20 名以上の団体料金

主催：

府中市美術館

出品点数：

34 点

入場者数：

12,826 名（開催日数 :38 日間、一日平均 338 名）

印刷物：

〔パンフレット〕 B5 判 20 頁 〔ポスター〕 B2 判 〔チラシ〕 A4 判

関連イベント：

〔みんなでお絵描き ばれたんのおたんじょうび会〕

8 月 11 日 -8 月 23 日、市民ギャラリー（4,000 名）

3. マリー・ローランサン

〔平成27年9月12日－12月20日〕

開催主旨：

マリー・ローランサン（1883-1956）は、20世紀のパリで活躍した画家である。パステルカラーで少女たちを描き出した夢のような世界は、多くの人々を魅了してきた。一方、詩人アポリネールとの運命的な恋と別れ、その後の亡命生活など、波瀾万丈の人生を送った女性としても知られる。小説や舞台の題材にもなった恋物語や生涯は、彼女が今なお人気画家である理由のひとつだろう。

しかし、作品の人気や私生活への興味の高さととは裏腹に、彼女がどんな創作の歩みをたどり、何を築き上げたのか、その検証と評価は十分とは言えない。そこで、この展覧会では、新しい造形世界を生み出す事にひたむきに取り組んだ、ひとりの「画家」としての姿に焦点を当てた。

淡い色とゆるやかな形……ローランサン独特の世界を、あえて一言で表せば、「かわいい造形」である。今日、私たちの身の回りには、かわいい色や形があふれている。デザイン、さらには芸術の世界でも、愛らしい造形はめずらしいものではなく、一種の流行とさえ言える。しかし、ローランサンが活躍した当時、かわいい造形を追求した絵画などあり得なかった。なぜなら、「芸術」とは、重厚で壮大、深淵なものであるべきだという考えが根強かったからである。

つまり、ローランサンは、西洋の伝統的な芸術観に反して、愛らしさを追求し、全く新しい絵画を生み出した。しかもそれは、「かわいいもの」を愛する気持ちと、自身の感性だけを信じて、たった一人で歩んだ道であった。本展覧会では、そんな「かわいい造形の探求」に捧げられたローランサンの画家人生を、初期から晩年までの代表作70点でたどった。

観覧料：

一般900円（720円）、高校生・大学生450円（360円）、小学生・中学生200円（160円）＊（ ）内は20名以上の団体料金

主催：

府中市美術館、東京新聞

出品作品

No.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
■ I. 前衛芸術の渦の中へ　1904年から1909年頃				
1	自画像	1904年	油彩、板	マリー・ローランサン美術館
2	自画像	1905年頃	油彩、パネル	マリー・ローランサン美術館
3	風景	1904-05年頃	油彩、板	マリー・ローランサン美術館
4	森のなかの径	1904-05年頃	油彩、板	マリー・ローランサン美術館
5	花瓶の花	1906-07年頃	油彩、カンヴァスボード	マリー・ローランサン美術館
6	自画像	1908年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
7	自画像	1908年頃	油彩、板	マリー・ローランサン美術館
8	パプロ・ピカソ	1908年頃	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
9	ジャン・ロワイエール	1908年	油彩、板	マリー・ローランサン美術館
10	狩りをするディアナ	1907年	エッチング、紙(第2ステート)	マリー・ローランサン美術館
11	千八百三十年	1906年	エッチング・アクアチント、紙	マリー・ローランサン美術館
12	イビス鳥とサロメ	1905年	エッチング・アクアチント、紙	マリー・ローランサン美術館
13	頭の尖った女性の肖像	1909-11年頃	油彩、板	マリー・ローランサン美術館
14	アリス・ドラン(アンドレ・ドラン夫人)	1908年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
15	果物かご	1907-08年頃	油彩、カルトン	マリー・ローランサン美術館
16	詩人の家族	1909年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館

特別協力：

マリー・ローランサン美術館

協力：

マナトレーディング株式会社

出品点数：

70点

入場者数：

20,706名(開催日数:85日間、一日平均244名)

印刷物：

〔カタログ〕A4判変型128頁　〔ポスター〕B2判　〔チラシ〕A4判二つ折り4頁

関連イベント：

〔20分スライドレクチャー〕

音ゆみ子(当館学芸員)、9月13日・19日・10月3日・11日・17日・31日・

11月22日・28日・12月6日・20日、講座室(744名)

〔展覧会講座「画家マリー・ローランサンが追い求めたもの」〕

音ゆみ子(当館学芸員)、11月8日、講座室(61名)

〔トーク「パリを歩く」〕

藪野健(当館館長)、10月12日、講座室(50名)

関連記事：

音ゆみ子　『「愛らしさ」を芸術へと進めた画家　マリー・ローランサン』『美術の窓』　2015年8月号

「パステルカラーで彩った緩やかな形」『asacoco』　79号　2015年9月17日
神林恒道　「マリー・ローランサン展　甘やかな抒情性」　東京新聞

2015年9月30日

谷村志穂「マリー・ローランサン展　恋と新しい絵画」　東京新聞

2015年10月1日

辛酸なめ子　「マリー・ローランサン展　おしゃれなグレー」　東京新聞

2015年10月2日

土田ゆかり　「美博ピックアップ　マリー・ローランサン　府中市美術館」朝日新聞　2015年10月7日

No.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
■ II. キュビズムと「自分らしさ」　1910年代前半				
17	花瓶のある静物	1912-13年頃	油彩、板	マリー・ローランサン美術館
18	扇	1911年頃	油彩、板で補強したカルトン	マリー・ローランサン美術館
19	家具付の貸家	1912年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
20	ピアニスト	1912年	油彩、カルトン	マリー・ローランサン美術館
21	チェロと二人の姉妹	1913-14年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
22	優雅な舞踏会　あるいは田舎での舞踊	1913年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
23	アンドレ・グルー夫人ニコル(旧姓ボワレ)	1913年頃	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
24	日除け帽をかぶって立つ女	1913年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
25	読書する女	1913年頃	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
26	青と黒の帽子をかぶった少女	1913-14年頃	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館

■ III. 「ローランサン・スタイル」の誕生　1910年代後半から1920年代

27	棕櫚のそばの乙女	1915年頃	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
28	女と犬と猫	1916年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
29	鏡をもつ裸婦	1916年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
30	白い羽根飾りの黒帽子をかぶった乙女	1915年	油彩、カンヴァスボード	マリー・ローランサン美術館
31	囚われの女(II)	1917年	油彩、カルトン	マリー・ローランサン美術館
32	馬になった女	1918年頃	油彩、カルトン	マリー・ローランサン美術館
33	舞踊	1919年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
34	バドミントンのラケットをもつ女と子供	1920年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
35	犬をつれた若い女	1921年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
36	ディアナ	1921年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
37	三美神	1921年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
38	ターバンをかぶった女	1922年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
39	黒馬　あるいは　散策	1924年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
40	馬と女	1925年頃	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
41	お城の生活	1925年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
42	帽子をかぶった自画像	1927年頃	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
43	わたしの肖像	1924年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
44	らっぱをもって	1929年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
45	若い女の胸像	1927年頃	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
46	軽業師たち　あるいはサーカスの女たち	1927年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
47	エチエンス・ド・ボーモン伯爵夫人の空想的肖像	1928-29年頃	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
48	接吻	1927年頃	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
49	マリー・ド・メディシス	1926年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
50	プリンセス達	1928年	油彩、カンヴァス	大阪新美術館建設準備室

■ 「絵画」と「装飾」のあいだ―部屋を飾る絵

51	狩りをするディアナ	1908年	油彩、板	マリー・ローランサン美術館
52	立体派の家のための飾り絵(II)	1912年	油彩、カルトンで裏打ちされたカンヴァス	マリー・ローランサン美術館
53	立体派の家のための飾り絵(IV)	1912年	油彩、カルトンで裏打ちされたカンヴァス	マリー・ローランサン美術館
54	猫と女　あるいは　娼婦のプリンセス	1920年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
55	ファンテジー(幻想)	1919年頃	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
56	鳩と花	1935年頃	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
57	《鳩と花》見本織	1930年代後半	タビスリー	マリー・ローランサン美術館
58	『牝鹿』I、II　巻	1924年	書籍	マリー・ローランサン美術館
59	乙女らは何を夢みる	1932年	油彩、カンヴァス　4枚のパネル	マリー・ローランサン美術館
60	舞台装置	1928年頃	水彩、紙	マリー・ローランサン美術館

■ IV. 信じる道を進む　1930年代から晩年まで

61	ばらの女	1930年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
62	音楽	1944年頃	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
63	二人の若い女友だち	1942年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
64	アンドレ・グルー夫人(ニコル・ボワレ)	1937年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
65	エドワード・ワッサーマン	1935年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
66	マティナルとコケット	1944年頃	鉛筆・クレヨン、紙	マリー・ローランサン美術館
67	馬に乗っている四歳のマルセル	1944年頃	鉛筆・クレヨン、紙	マリー・ローランサン美術館
68	シュザンヌ・モロー(青い服)	1940年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
69	シャルリー・デルマス夫人	1938年	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館
70	三人の若い女	1953年頃	油彩、カンヴァス	マリー・ローランサン美術館

4. 若林奮　飛葉と振動

〔平成28年1月9日－2月28日〕

開催主旨：

没後13年を迎えた若林奮の仕事振り返るとともに、これまで十分に紹介されてこなかった「庭」をめぐる制作に光をあて、関連資料や新規撮影の写真等、280点によって、その世界を紹介した。

1960年代初め、鉄を直接刻み、溶接する作品で鮮烈なデビューを飾った若林奮（1936-2003）には、「鉄の彫刻家」というイメージがある。実は、最初期から石や木を用いていたように、石膏、鉛、銅、硫黄など、扱った素材は多様であった。そして若林奮は、「彫刻をつくること」を根幹に据えながら、「彫刻」という形式に限定させることなく、ドローイング（素描、構想画類）、版画、小さなオブジェ、本を数多く手がけた。そこには、外部にある環境世界―大気、水、植物、光や、時間といった非彫刻的なものをも彫刻に取り込もうとする思想があらわれている。展覧会名「飛葉（ひよう）」と「振動」は、空間を満たすエレメントを指して、作家が選んだ言葉からとった。

観覧料：
一般700円（560円）、高校生・大学生350円（280円）、小学生・中学生150円（120円）＊（　）内は20名以上の団体料金

主催：
府中市美術館、WAKABAYASHI STUDIO、読売新聞社、美術館連絡協議会

協力：
（株）カシマ、ケンジタキギャラリー、多摩美術大学若林奮研究会、横田茂ギャラリー、日本通運株式会社

協賛：
ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網

助成：
公益財団法人ポーラ美術振興財団

出品協力：
独立行政法人国立美術館　東京国立近代美術館

出品点数：
280点
入場者数：
5,365名（開催日数:43日間、一日平均125名）

出品作品				
No.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
■ I: 庭への予兆（1957-1982）				
I-1-1	Untitled	1957年	石	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-2	Untitled	c.1960年	鉄	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-3	〔猫〕	1965年	木	若林薫氏
I-1-4	〔無題〕	1968年	木(桜)	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-5	〔無題〕	1968年	木(桜)	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-6	〔無題〕	1968年	木(桜)	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-7	〔無題〕	1968年	木(桜)	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-8	〔無題〕	1968年	木(桜)	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-9	〔無題〕	1968年	木(桂)	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-10	泳ぐ犬	1973年	鉄、木	淀井由利子氏
I-1-d1	〔ドローイング -1962 011〕	1962年	鉛筆、水彩、インク、コピーした紙	WAKABAYASHI STUDIO

印刷物：

〔カタログ〕 A4判変型 224 頁　〔ポスター〕 B2判

〔チラシ〕 A4判二つ折り4頁

関連イベント：

〔ラウンド・トーク1「若林奮とアーカイブ―ドローイング調査の成果とこれから」〕
小泉俊己（彫刻家、多摩美術大学教授）・渡部葉子（慶応義塾大学アート・センター教授／キュレーター）、1月31日、講座室（56名）

〔ラウンド・トーク2「私たちが若林さんから受け取ったこと」〕

袴田京太朗（彫刻家、武蔵野美術大学教授）・千葉正也（画家）・諏訪未知（画家）・森啓輔（ヴァンジ彫刻庭園美術館学芸員）、2月13日、講座室（90名）

〔講座「《地下のデイズ》の階段を下りる―ドローイングから見えてくるもの」〕
神山亮子（当館学芸員）、1月16日、講座室（27名）

関連記事：

The Japan Times January. 6, 2016

「府中市美術館で彫刻家・若林奮展」　読売新聞　2016年1月10日

「若林奮　飛葉と振動展」『フローリスト』　2016年1月号

「人間・自然の営みと記憶について考えさせる彫刻　若林奮《地下のデイズ》府中市美術館」『月刊ギャラリー』　2016年1月号

「武蔵野の台地から　企画展　若林奮　飛葉と振動　府中市美術館」都政新報　2016年2月12日

坪内祐三　「坪内祐三の美術批評　眼は行動する　no.176　若林奮が考案したモノサシ『振動尺』って何だ?」『週刊ポスト』　2016年2月12日号
「時空を超える『庭』　東京・府中市美術館　若林奮の回顧展」　読売新聞　2016年2月15日

林綾野　「林綾野の30代女子に効くアートサブリ　Monthly Theme: 素材を見つめ、感じる」『InRed』　2016年3月号

・本展は、「2015年美連協奨励賞」を受賞した。

No.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
I-1-d3	〔ドローイング 1963-035〕	1963年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-d5	64-63-A	1964年	墨、紙	東京国立近代美術館
I-1-d6	〔ドローイング 1964-017〕	1964年	鉛筆、色鉛筆、水彩、オイル パステル、紙	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-d7	〔ドローイング 1964-018〕	1964年	鉛筆、色鉛筆、水彩、オイル パステル、紙	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-d8	〔ドローイング 1966.07.10-009〕	1966年	鉛筆、オイルパステル、紙	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-d10	70-99-2	1970年	ボールペン、紙(タバコの箱)	東京国立近代美術館
I-2-1	残り元素 I	1965年	鉄	神奈川県立近代美術館
I-2-2	中に犬・飛び方	1967年	鉄	神奈川県立近代美術館
I-2-3	犬から出る水蒸気	1968年	鉄	神奈川県立近代美術館
I-2-4	港に対する攻撃 II	1968年	鉄	個人(比嘉このみ氏旧蔵)
I-2-5	10×□ IV	1970年	木、ステンレス、ネジ	酒井忠康氏
I-3-1	日の出、日没 I(グラマンTBFを見た)	1970年	鉄	神奈川県立近代美術館
I-3-2	日の出、日没 IV	1972年	鉄	個人蔵
I-3-3	日の出、日没(4線) [2nd stage]	1977年	木、鉄、胡粉	ケンジタキギャラリー
I-3-d2	〔ドローイング 1977-007〕	1977年	木版、鉛筆、	WAKABAYASHI STUDIO
I-3-d3	〔ドローイング 1977-009〕	1977年	木版、鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
I-4-1	LIVRE OBJET No.10	1971年	鉄、鉛、書籍(『頭脳の塔』)	大川博氏 (足利市立美術館寄託)
I-4-2	LIVRE OBJET 後のらの試作 I	1972年	鉄、銅線	個人蔵
I-4-3	LIVRE OBJET 後のらの試作 III	1973年	鉄、鉛、紐	個人蔵
I-4-4	〔無題〕	1974-1993年	木、インク	個人蔵
I-4-5	〔無題〕	1975年	木、インク、ラッカー	個人蔵
I-4-6	〔無題〕	1975年	木、インク、ラッカー	個人蔵
I-4-7	Untitled	1975年	木、着色	馬場駿吉氏 (名古屋市美術館寄託)
I-4-d2	〔ドローイング 1971-002〕	1971年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
I-4-d3	〔ドローイング 1971-003〕	1971年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
I-4-d5	71-7	1971年	鉛筆、水彩、油性 フェルトペン、紙	東京国立近代美術館
I-4-d7	F-15-1	1973年	鉛筆、インク、紙	東京国立近代美術館
I-4-d9	F-16(1-20)	1973年	水彩、インクほか	東京国立近代美術館
I-4-d10	F-45-11	1974年	水性フェルトペン	東京国立近代美術館
I-4-d14	F-119	1974年	鉛筆、水彩、紙	東京国立近代美術館
I-4-b1	詩:吉増剛造、装幀・挿画:若林奮『頭脳の塔』(青地社)	1971年	書籍	WAKABAYASHI STUDIO
I-4-p1	〔エジプト、フランス、スペイン滞在アルバムより〕(撮影:若林奮、淀井彩子)	1973-74年	写真(12点)	WAKABAYASHI STUDIO
I-4-p2	《地表面の耐久性について》宇部市野外彫刻美術館(撮影:脇坂進)	1975年	〔パネル展示〕	オリジナル写真: WAKABAYASHI STUDIO
I-5-1	振動尺試作 小 II	1976年	鉄	個人蔵
I-5-2	振動尺試作 小 III(3点組)	1976年	鉄	個人蔵
I-5-3	振動尺試作 小 IV	1976年	木、鉛	個人蔵
I-5-4	振動尺試作 小 V	1976年	石	個人蔵
I-5-5	振動尺試作 小 VI	1976年	鉄	個人蔵
I-5-6	振動尺試作 小 VII	1976年	鉄	個人蔵
I-5-7	振動尺試作 小 VIII	1976年	鉄	個人蔵
I-5-8	振動尺試作 II	1976年	木、紙、銅、鉄	東京国立近代美術館
I-5-9	スプリング蒐集・右手の先	1978年	真鍮	滝沢和彦氏
I-5-10	振動尺(手許)	-1980年	水彩、グアッシュ	個人蔵
I-5-d2	79-8-6	1979年	鉛筆、紙	東京国立近代美術館
I-5-d6	80-6	1980年	鉛筆、紙	東京国立近代美術館
I-5-d8	〔ドローイング 1981-05:『水分の移動』のための原画〕	c.1981年	鉛筆、インク、紙	WAKABAYASHI STUDIO
I-5-d9	〔ドローイング 1981-07:『水分の移動』のための原画案〕	c.1981年	鉛筆、インク、グアッシュ、紙	WAKABAYASHI STUDIO
I-5-d10	〔ドローイング 2001.01.27-019〕	2001年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
I-5-d11	〔ドローイング 2001.07.25-174〕	2001年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
I-5-b1	詩:鈴木志郎康、装幀・挿画:若林奮『水分の移動』(思潮社)	1981年	書籍	WAKABAYASHI STUDIO
I-5-b2	詩:辻井喬、装幀:若林奮『鳥・虫・魚の目に泪』(書肆山田)	1987年	書籍	WAKABAYASHI STUDIO
I-5-b3	作品集『境川の氾濫』(雅陶堂ギャラリー)	1982年	書籍	WAKABAYASHI STUDIO
I-5-p1	武蔵野美術大学実習棟「鉄の部屋」 (撮影:内田芳孝、1981年5月31日、1982年9月7日)		〔パネル展示〕	オリジナル写真: WAKABAYASHI STUDIO
I-5-p2	《振動尺(手許)》と若林奮「大気中の緑色に属するもの」展、雅陶堂ギャラリー（撮影:内田芳孝、1982年10月）		〔パネル展示〕	オリジナル写真: 横田茂ギャラリー

No.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
■ II:庭へ(1982-2000)				
II-1-4	「所有・雰囲気・振動―森のはずれ」のための模型 No.9	1984-1985 年	木、紙、水彩、鉛筆	杉本貴志氏
II-1-5	「所有・雰囲気・振動―森のはずれ」のための模型 No.4	1984 年	木、石、胡粉、鉛筆、 グアッシュ	馬場駿吉氏 (名古屋市美術館寄託)
II-1-6	所有・雰囲気・振動― SLIT I	1984 年	銅、油絵具、パステル、ネジ	滝沢和彦氏
II-1-7	所有・雰囲気・振動― SLIT III	1984 年	銅、鉄、油絵具、パステル	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-8	正立方体 No.4	1984 年	鉄、銅、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-9	正立方体 No.14	1984 年	鉄、銅、紙	大川博氏
II-1-10	大気中の緑色に属するもの II(部分)	1986 年	鉛	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-11	100線 No.43	1983 年	鉄、鉛、真鍮、その他	個人蔵
II-1-12	新100線 No.1	1992 年	鉄、鉛	馬場駿吉氏 (名古屋市美術館寄託)
II-1-13	新100線 No.2	1992 年	鉄、鉛、石	馬場駿吉氏 (名古屋市美術館寄託)
II-1-d1	[ドローイング 1982.12.12-001]	1982 年	鉛筆、紙	横田茂ギャラリー
II-1-d2	[ドローイング 1982.12.12-002]	1982 年	鉛筆、紙	横田茂ギャラリー
II-1-d3	[ドローイング 1982.12.12-003]	1982 年	鉛筆、紙	横田茂ギャラリー
II-1-d4	[ドローイング 1986-034]	1986 年	写真、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-d5	[ドローイング 1986-036]	1986 年	写真、鉛筆、インク、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-d6	[ドローイング 1987-113]	1987 年	鉛筆、グアッシュ、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-d7	[ドローイング 1987-114]	1987 年	鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-d8	[ドローイング 1987-115]	1987 年	鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-d9	[ドローイング 1987.09.30-044]	1987 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-d10	[ドローイング 1993.04.13-022]	1993 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-d11	[ドローイング 1995.03.21-011]	1995 年	鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-d12	[ドローイング 1995.03.21-013]	1995 年	鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-d13	[ドローイング 1999.12.19-152]	1999 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-p1	《大気中の緑色に属するもの I》インスタレーション(1st.2nd. 3rd)、「大気中の緑色に属するもの」展、雅陶堂ギャラリー(撮影:内田芳孝、1982年11月-1983年2月)		写真(3点)	内田芳孝氏
II-1-p2	《大気中の緑色に属するもの II》インスタレーション(1st)、「ヴェネツィア・ビエンナーレ」日本館(撮影:内田芳孝、1986年6月)		写真(4点)	内田芳孝氏
II-1-p3	《大気中の緑色に属するもの II》インスタレーション(2nd)、「若林奮展」、東京国立近代美術館(撮影:内田芳孝、1987年10月)		[パネル展示]	オリジナル写真:内田芳孝氏
II-1-p4	《大気中の緑色に属するもの II》インスタレーション(3rd)、「若林奮展」、京都国立近代美術館(撮影:内田芳孝、1987年12月-1988年1月)		[パネル展示]	オリジナル写真:内田芳孝氏
II-1-p5	《大気中の緑色に属するもの II》インスタレーション(4th)、「ISAMU WAKABAYASHI Sculptures and Drawings」展、ソウル・アーツ・センター(撮影:山本紉、1991年10月)		[パネル展示]	オリジナル写真: WAKABAYASHI STUDIO
II-1-p6	《大気中の緑色に属するもの II》インスタレーション(5th)、「若林奮展」、豊田市美術館(撮影:山本紉、2002年10月)		[パネル展示]	オリジナル写真: WAKABAYASHI STUDIO
II-2-1	軽井沢・高輪美術館 庭の模型	c.1984 年	木、鉄、鉛、グアッシュ、鉛筆、石膏	WAKABAYASHI STUDIO
II-2-d1	[ドローイング]	c.1982 年	鉛筆、紙(スケッチブック)	WAKABAYASHI STUDIO
II-2-d2	[ドローイング 1982-1983]	1982-1983 年	鉛筆、紙(スケッチブック)	WAKABAYASHI STUDIO
II-2-p1	[軽井沢・高輪美術館 庭の写真(1)]	1985 年	写真、コラージュ、紙	横田茂ギャラリー
II-2-p2	[軽井沢・高輪美術館 庭の写真(2)]	1985 年	写真、コラージュ、紙	横田茂ギャラリー
II-2-p3	軽井沢・高輪美術館 庭	1985 年	[パネル展示](オリジナル:インク、鉛筆、青焼き)	オリジナル:横田茂ギャラリー
II-2-p4	軽井沢・高輪美術館(現・セゾン現代美術館) 庭 (撮影:山本紉、2014年11月)		[パネル展示]	
II-2-p5	軽井沢・高輪美術館(現・セゾン現代美術館) 庭 (撮影:山本紉、2014年11月)		[動画:3'21"]	
II-3-1	近い緑 II	1986 年	鉄	ケンジタキギャラリー
II-3-2	神慈秀明会神苑ゲート広場のための模型	1986-1994 年	鉄、銅、木(チーク)、インク、 グアッシュ	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-3	次の庭へのエスキース V	1987 年	石膏、鉛筆	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-4	次の庭へのエスキース VIII	1987 年	石膏	滝沢和彦氏
II-3-5	新100線 No.20	1993 年	鉄、木、アクリル	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-6	新100線 No.33	1993 年	鉄、木、アクリル	個人蔵
II-3-7	新100線 No.47	1995 年	鉄、木、アクリル	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-8	多くの川を渡り再び森の中へ(18点組)	1986 年	鉛筆、紙、キャンヴァス	MIHO MUSEUM
II-3-d1	[ドローイング 1987.06.18-017]	1987 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d2	[ドローイング 1987.07.28-006]	1987 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO

No.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
II-3-d3	[ドローイング 1987.08.05-012]	1987 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d4	[ドローイング 1987.08.07-014]	1987 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d5	[ドローイング 1987.08.25-016]	1987 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d7	[ドローイング 1990.06.14-107]	1990 年	インク、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d8	[ドローイング 1992.12.19-005]	1992 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d9	[ドローイング 1992.12.19-014]	1992 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d10	[ドローイング 1992.12.19-031]	1992 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d11	[ドローイング 1993.03.22-017]	1993 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d12	[ドローイング 1993; 1994.05.20-033]	1993-94 年	鉛筆、色鉛筆、インク、 コピーした紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d13	[ドローイング 1994.06.25-038]	1994 年	鉛筆、インク、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d14	[ドローイング 1996.09.15-007]	1996 年	鉛筆、水彩、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d15	[ドローイング 1996.09.15-011]	1996 年	鉛筆、水彩、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-p1	神慈秀明会神苑の庭(1992) (若林奮による素描[水彩、インク、鉛筆・紙]を一部、デジタル加工)		[パネル展示]	オリジナル:WAKABAYASHI STUDIO
II-3-p2	神慈秀明会神苑の庭(撮影:山本紉、2014年11月、2015年3月)		[パネル展示]	
II-3-p3	神慈秀明会神苑の庭(撮影:山本紉、2014年11月)		[動画:3'40"]	
II-4-2	Daisy II-A	1995 年	木、ジェッソ、石膏	世田谷美術館
II-4-3	Daisy II-B	1995 年	木、ジェッソ、石膏	世田谷美術館
II-4-4	Daisy II-C	1995 年	木、ジェッソ、石膏	世田谷美術館
II-4-5	Daisy II-D	1995 年	木、ジェッソ、石膏	世田谷美術館
II-4-6	Daisy II-E	1995 年	木、ジェッソ、石膏	世田谷美術館
II-4-7	新々 100線 #71	1995 年	鉄、木、インク、グアッシュ	WAKABAYASHI STUDIO
II-4-8	新々 100線 #85	1996 年	鉄、木、インク	WAKABAYASHI STUDIO
II-4-9	新100線 No.80	1999 年	鉄、木、インク	WAKABAYASHI STUDIO
II-4-10	Blue Daisy 1997.3.8-①	1997 年	インク、グアッシュ、紙	ギャラリー十玄門 (足利市立美術館寄託)
II-4-11	Blue Daisy 1997.3.8-②	1997 年	インク、グアッシュ、紙	ギャラリー十玄門 (足利市立美術館寄託)
II-4-12	Blue Daisy 1997.3.11- ④	1997 年	インク、グアッシュ、紙	ギャラリー十玄門 (足利市立美術館寄託)
II-4-13	Blue Daisy 1997.3.13- ①	1997 年	インク、グアッシュ、紙	ギャラリー十玄門 (足利市立美術館寄託)
II-4-d1	67-120	1967 年	墨、紙	東京国立近代美術館
II-4-d4	83-5	1983 年	鉛筆、紙	東京国立近代美術館
II-4-d5	[ドローイング 1993.01.25-048]	1993 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-4-d6	[ドローイング 1993.07.23-166]	1993 年	鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-4-d7	[ドローイング 1996.01.30-164]	1996 年	鉛筆、水彩、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-4-d8	[ドローイング 1996.02.08-168]	1996 年	鉛筆、水彩、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-4-d9	[ドローイング 1996.06.15-172]	1996 年	水彩、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-4-d10	[ドローイング 1996.06.17-174]	1996 年	水彩、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-4-d11	[ドローイング 1999.05.18-229]	1999 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-4-d12	[ドローイング 1999.05.18-232]	1999 年	鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-4-p1	《地下のデイズ》(2002) 府中市美術館 (撮影: 山本紉 2002年3月)		[パネル展示]	オリジナル写真: WAKABAYASHI STUDIO
II-5-1	緑の森の一角獣座模型	-1996 年	鉄、銅、木(檜)、インク、	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-2	緑の森の一角獣座-カッパ―ー-・ペインティングC(11点組)	1996 年	ウレタン、 エポキシ塗料、銅板	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-3	緑の森の一角獣座-カッパ―ー-・ペインティングD-6、D-8	1996-2003 年	ウレタン、ボキシ塗料	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-4	水没 II	2002 年	木、インク、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-5	新100線 No.59(緑の森の一角獣座)	1996 年	木、鉄、グアッシュ	滝沢和彦氏
II-5-6	新100線 No.58 “ 森の中の椅子と机 ”(緑の森の一角獣座)	1996 年	木、鉄、グアッシュ	滝沢和彦氏
II-5-7	新々 100線 #19(緑の森の一角獣座)	1995 年	木、鉄、インク、グアッシュ	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-8	新々 100線 #26(緑の森の一角獣座)	1995 年	木、鉄、グアッシュ	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-9	新100線 No.57(緑の森の一角獣座)	1996 年	木、鉄、グアッシュ	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-10	新々 100線 #50(緑の森の一角獣座)	1996 年	木、鉄、インク、グアッシュ	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-11	新々 100線 #6(1 緑の森の一角獣座)	1996 年	木、鉄、インク、グアッシュ	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-12	新々 100線 #66(緑の森の一角獣座)	1997 年	木、鉄、インク、グアッシュ	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-13	新100線 No.77(緑の森の一角獣座)	1999 年	木、鉄、真鍮、インク	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-14	新100線 No.78(緑の森の一角獣座)	1999 年	木、ブリキ、インク	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-15	新100線 No.83(緑の森の一角獣座)	1999 年	木、ブリキ、インク、	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-16	新100線 No.87(緑の森の一角獣座)	1999 年	木、鉄、インク、グアッシュ	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d1	[ドローイング 1995.12.09-003]	1995 年	色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO

No.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
II-5-d2	〔ドローイング 1995.12.09-004〕	1995 年	鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d3	〔ドローイング 1995.12.10-009〕	1995 年	鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d4	〔ドローイング 1996.01.26-010〕	1996 年	水彩、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d5	〔ドローイング 1996.03-017〕	1996 年	鉛筆、水彩、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d6	〔ドローイング 1996.05.07-019〕	1996 年	鉛筆、水彩、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d7	〔ドローイング 1999.06.13-082〕	1999 年	鉛筆、色鉛筆、水彩、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d19	〔ドローイング 1999.01.30-044〕	1999 年	鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d20	〔ドローイング 1999.01.30-047〕	1999 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d21	〔ドローイング 1999.02.04-050〕	1999 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d22	〔ドローイング 1999.02.04-053〕	1999 年	鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d23	〔ドローイング 1999.02.07-054〕	1999 年	水彩、色鉛筆、鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d25	〔ドローイング 1999.02.10-058〕	1999 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d27	〔ドローイング 1999.05.02-072〕	1999 年	水彩、鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d28	〔ドローイング 1999.06.14〕	1999 年	鉛筆、色鉛筆、水彩、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d29	〔ドローイング 1999.08.18-086〕	1999 年	鉛筆、色鉛筆、水彩、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d30	〔ドローイング 2000.02.27+04.06-094〕	2000 年	鉛筆、色鉛筆、水彩、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d31	〔ドローイング 2000.03.30-093〕	2000 年	鉛筆、色鉛筆、水彩、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d32	〔ドローイング 2000.07.19-144〕	2000 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d33	〔ドローイング 2000.07.20-147〕	2000 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d34	〔ドローイング 2000.07.28-151〕	2000 年	鉛筆、修正液、コピーした紙	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-p1	緑の森の一角獣座(第1期)休息の椅子と石段、カッパー・ペインティングの仮設置(撮影:山本紉、1996 年、1999 年 4 月)		〔パネル展示〕	オリジナル写真: WAKABAYASHI STUDIO
II-5-p2	新しい庭(撮影:山本紉、2014 年 10 月)		〔パネル展示〕	
II-5-p3	新しい庭(撮影:山本紉、2014 年 10 月)		〔動画:3'00"〕	
■ III: 庭から(2000-2003)				
III-1-1	自分の方へ向かう犬 I	1997 年	木、油絵具	ケンジタキギャラリー
III-1-2	硫黄の味方 3	2000 年	硫黄、鉛筆、ジェッソ、紙、ボード	WAKABAYASHI STUDIO
III-1-3	新100線 No.23	1995 年	鉄、銅、アクリル	個人蔵
III-1-4	新100線 No.66	1998 年	鉄、真鍮、鉛、銅線	WAKABAYASHI STUDIO
III-1-d1	〔ドローイング 1997.04.16-049〕	1997 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
III-1-d2	〔ドローイング 1997.07.02-114〕	1997 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
III-1-d3	〔ドローイング 1997.07.17-8.23〕	1997 年	水彩、紙(スケッチブック)	WAKABAYASHI STUDIO
III-1-d4	〔ドローイング 1998.12.01-236〕	1998 年	鉛筆、インク、紙	WAKABAYASHI STUDIO
III-1-d5	〔ドローイング 1998.12.19-256〕	1998 年	鉛筆、水彩、紙	WAKABAYASHI STUDIO
III-1-p1	〔ルクソール、ナイル〕(撮影:若林奮、1972 年 3 月 28 日)		写真	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-1	〔無題〕	-1984 年	木、鉛、鉄、鉛筆	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d1	84-248	1984 年	鉛筆、紙(スケッチブック)	東京国立近代美術館
III-2-d2	〔ドローイング 1991.10.21-022〕	1991 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d4	〔ドローイング 1998.12.17-003〕	1998 年	鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d5	〔ドローイング 1999.01.10-008〕	1999 年	鉛筆、水彩、紙	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d6	〔ドローイング 1999.02.10-010〕	1999 年	鉛筆、色鉛筆、水彩、紙	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d7	〔ドローイング 1999.03.26-016〕	1999 年	鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d8	〔ドローイング 1999.03.29-018〕	1999 年	鉛筆、色鉛筆、水彩、紙	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d9	〔ドローイング 2000.02.07-019-01〕	2000 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d10	〔ドローイング 2000.02.07-019-01〕	2000 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d12	〔ドローイング 2000.06.14-100〕	2000 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d13	〔ドローイング 2000.07.02-127〕	2000 年	鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d14	〔ドローイング 2000.10.04-182〕	2000 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d15	〔ドローイング 2001.07.16-154〕	2001 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-p1	《4 個の鉄に囲まれた優雅な樹々》(2000)、霧島アートの森 (撮影:山本紉、2014 年 11 月)		〔パネル展示〕	
III-2-p2	《4 個の鉄に囲まれた優雅な樹々》(2000)、霧島アートの森 (撮影:山本紉、2014 年 11 月)		〔動画:3'11"〕	〔動画:3'11"〕
III-3-1	霧囲気	1980-2000 年	紙、木、インク、ジェッソ、布、バラ、ハハコグサ	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-2	〔無題(銅葉 ゆりの樹)〕	1983-1988 年	銅	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-3	〔無題(IW 葉っぱの箱)〕	1984-1993 年	銅、木、針金など	個人蔵
III-3-4	〔無題(銅葉 朴葉)〕	1992-1993 年	銅	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-5	〔無題(銅葉 栃ノ木)〕	1996 年	銅	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-6	〔無題(銅葉 桐)〕	1999 年	銅	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-7	〔無題(鉛の葉 桐)〕	1999 年	鉛	WAKABAYASHI STUDIO

No.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
III-3-11	飛葉と振動	2003 年	木、布、ジェッソ	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-12	飛葉と振動 III	2003 年	木、ジェッソ	個人蔵 (神奈川県立近代美術館寄託)
III-3-13	閉じた系列としての振動―自画像	1990-2003 年	鉛筆、インク、ボールペン、紙、真鍮	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-14	100 線 No.8	1983 年	鉄、鉛	個人蔵
III-3-15	100 線 No.3	1983 年	鉄、鉛	馬場駿吉氏 (名古屋市美術館寄託)
III-3-16	新100線 No.93(草の葉を数える I)	2000 年	鉄、鉛	足利市立美術館
III-3-17	飛葉(12 点組)	2000 年	色鉛筆、グアッシュ、紙	足利市立美術館
III-3-d1	〔ドローイング 2001.02.22-030〕	2001 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-d2	〔ドローイング 2002.11.26-019〕	2002 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-d3	〔ドローイング 2002.11.29-023〕	2002 年	鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-d4	〔ドローイング 2002.12.01-027〕	2002 年	鉛筆、色鉛筆、水彩、	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-d5	〔ドローイング 2003.03.10-2-002〕	2003 年	色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-d6	〔ドローイング 2003.05.29-3-003〕	2003 年	インク、ボールペン、紙	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-d7	〔ドローイング 2003.08.22-4-001〕	2003 年	色鉛筆、ボールペン、 コピーした紙 25.0×17.1	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-d8	〔ドローイング 2003.09.02-4-002〕	2003 年	ボールペン、紙	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-d9	〔ドローイング 2003.09.02-4-011〕	2003 年	鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
■ 府中市美術館特別出品作品				
F-1	雨-労働の残念	1971 年	鉄、鉛、紙	武蔵野美術大学 美術館・図書館
F-2	DAISY IV-I	1997 年	鉄、石膏	WAKABAYASHI STUDIO
F-3	DAISY IV-II	1997 年	鉄、石膏	WAKABAYASHI STUDIO
F-4	DAISY IV-III	1997 年	鉄、石膏	WAKABAYASHI STUDIO
F-5	〔ドローイング 1990.03.28-024〕	1990 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-6	〔ドローイング 1994.04.21-088〕	1994 年	水彩、鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-7	〔ドローイング 1994.07.20-024〕	1994 年	水彩、鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-8	〔ドローイング 1994.07.20-026〕	1994 年	水彩、鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-9	〔ドローイング 1994.07.30-113〕	1994 年	水彩、鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-10	〔ドローイング 1996.02.08-169〕	1996 年	水彩、鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-11	〔ドローイング 1996.06.04-014〕	1996 年	鉛筆、インク、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-12	〔ドローイング 1996.12.21-103〕	1996 年	水彩、鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-13	〔ドローイング 1998.05.25-104〕	1998 年	鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-14	〔ドローイング 1998.06.09-114〕	1998 年	水彩、鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-15	〔ドローイング 1998.11.24-230〕	1998 年	水彩、鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-16	〔ドローイング 1998.12.22-262〕	1998 年	水彩、鉛筆、インク、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-17	〔ドローイング 1999.08.07-007〕	1999 年	鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-18	〔ドローイング 2000.01.04-004〕	2000 年	水彩、鉛筆、インク、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-19	〔ドローイング 2001.01.27〕	2001 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-20	〔ドローイング 2001.06.03#11-287〕	2001 年	鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-21	〔ドローイング 2001.06.16#12-288〕	2001 年	鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-22	〔ドローイング 2001.06.17#13-289〕	2001 年	鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-23	〔ドローイング 2001.06.26-141〕	2001 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-24	〔ドローイング 2001.06.26#14-290〕	2001 年	水彩、鉛筆、色鉛筆、	WAKABAYASHI STUDIO
F-25	〔ドローイング2001.06.28#15-291〕	2001 年	鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-26	〔ドローイング 2001.07.26〕	2001 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-27	〔ドローイング 2001.07.26〕	2001 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-28	〔ドローイング 2001.08.08〕	2001 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-29	〔ドローイング 2001.08.08〕	2001 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-30	〔ドローイング 2001.08.09〕	2001 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-31	〔ドローイング 2001.08.09〕	2001 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-32	〔ドローイング 2001.08.09〕	2001 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-33	〔ドローイング 2001.08.09〕	2001 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-34	〔ドローイング 2001.08.09〕	2001 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-35	〔ドローイング 2001.08.09〕	2001 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-36	〔ドローイング 2001.08.09〕	2001 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-37	〔ドローイング 2001.08.09〕	2001 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-38	〔ドローイング 2001.10.31〕	2001 年	鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-39	〔ドローイング 2001.10.31〕	2001 年	鉛筆、色鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-40	〔ドローイング 2001.10.31〕	2001 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO
F-41	〔ドローイング 2001.10.31〕	2001 年	鉛筆、紙	WAKABAYASHI STUDIO

5. ファンタスティック 江戸絵画の夢と空想

[平成28年3月12日-5月8日]

開催主旨:

江戸時代の絵の中には、思わず、ファンタスティックと言いたくなる作品がある。それどころか、一度この言葉を意識すると、実に多くの作品がファンタスティックに見えてくる。

それは、珍しい作品や大作に限ったことではない。例えば、江戸時代に本当にたくさん描かれた普通の山水画を見れば、木立を包む別世界の空気や、山の中に漂う靈気が鮮やかに感じられてくる。「お決まりの画題」と思いがちな、仙人や歴史上の人物、伝説を描いた作品からも、輝くような生氣と楽しさがあふれ出てくる。

もちろん、江戸時代の人たちが「ファンタスティック」という言葉を使ったわけではない。しかし、この魔法のような言葉をきっかけにすれば、当時の人たちが絵の中に見た夢や空想を、私たちも実感できるのではないだろうか。更には、技術や画家の歴史に興味をひかれる一方で、現代人が見失いやすい「大切なもの」、つまり「絵の中で何を体験し、そこに何を感じるか」に意識を向けることもできるかもしれない。

「ファンタスティック」は、暮らしの色々な場面にある。空を見上げれば、それだけで地上のあれこれから切り離され、そこに浮かぶ月や雲を見つめていると不思議な気持ちになる。黄昏、夜の闇、雪景色など、別世界は身の回りに広がっている。あるいは、神や仏、歴史や伝説、江戸時代の人たちにとっての外国など、実際に見ることのできない世界もそうであることは言うまでもない。

そんな多くの人が心に感じた「ファンタスティック」を、江戸時代の画家たちは、一つの絵の中に形として表した。どう描けば、より夢のように感じられるのか、技術や描き方も工夫している。

この展覧会では、身の回りにあるもの、目に見えないもの、ファンタスティックと感じさせる造形のポイントといった、いくつかのテーマに沿って、作品をご覧いただいた。掛軸、屏風、版画など、153点で、江戸時代の人たちが絵の中に見た夢や空想のさまざまなをお楽しみいただいた。

出品作品

No.	作者	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
1	森一鳳	満月図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本墨画金泥	個人蔵
2	松村景文	月・山桜小禽・山茶花鴛鴦図	天保8年(1837)	絹本着色	敦賀市立博物館
3	柴田是真	三日月図	江戸時代後期-明治時代(19世紀)	絹本墨画	個人蔵
4	東東洋	蘆間吹笛図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本淡彩	仙台市博物館
5	岡本秋暉	波間月痕図	安政元年(1854)	紙本墨画	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
6	円山応挙	雪中月図	天明8年(1788)	絹本墨画淡彩	個人蔵
7	山本琴谷	中秋観月図	明治4年(1871)	絹本墨画淡彩	個人蔵
8	円山応挙	残月牽牛花図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画	個人蔵
9	柴田是真	呉剛伐桂図	江戸時代後期-明治時代(19世紀)	紙本墨画淡彩	個人蔵
10	円山応挙	元旦図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画淡彩	個人蔵
11	森狙仙	猿図	寛政12年(1800)	絹本着色	個人蔵
12	高嵩溪	宝樽船図	江戸時代中期-後期(18世紀後半-19世紀前半)	絹本着色	個人蔵
13	月憺	虹山水図	江戸時代中期-後期(18世紀後半-19世紀初め)	絹本着色	個人蔵
14	円山応挙	雲峰図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本淡彩	個人蔵

観覧料:

一般700円(560円)、高校生・大学生350円(280円)、小学生・中学生150円(120円)* ()内は20名以上の団体料金

主催:

府中市美術館

出品点数:

153点

入場者数:

15,344名（開催日数:51日間、一日平均301名）

印刷物：

[カタログ] A4判変型220頁 [ポスター] B2判

[チラシ] A4判三つ折り6頁

関連イベント:

[20分スライドレクチャー]

金子信久（当館学芸員）、毎週日曜日、講座室（844名）

[展覧会講座「ファンタスティック—江戸絵画への窓」]

金子信久（当館学芸員）、4月30日、講座室（130名）

[子ども向けイベント ファンタスティック探検隊!]

会期中隨時 (6800 名)

関連記事:

旗智優子 「武者も猫も、役者も化け物も魅力的 みんなが大好き歌川国芳」『日経おとなのOFF』 2016年1月号

No.	作者	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
15	高橋草坪	風雨山水図	文政10年(1827)	紙本墨画	個人蔵
16	仙厓義梵	柳に牛図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本墨画	個人蔵
17	亜欧堂田善	品川月夜図	江戸時代後期(19世紀初め)	紙本銅版	須賀川市立博物館
18	司馬江漢	月下柴門美人図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
19	亜欧堂田善	ヨシハラテノケイ(吉原土堤の景)	江戸時代後期(19世紀初め)	紙本銅版	須賀川市立博物館
20	松本保居	四条川原夕涼之図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本銅版	府中市美術館
21	山口素絢	四条河原夕涼図屏風	文化4年(1807)	紙本着色	個人蔵
22		観桜・紅葉に鹿図屏風	江戸時代前期(17世紀)	紙本金地着色	個人蔵
23	田中訥言	嵐山図	江戸時代中期～後期(18世紀後半～19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
24	伊年印	四季草花図屏風	江戸時代前期(17世紀)	紙本金地着色	個人蔵
25	東東洋	鳥居図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本墨画	東北歴史博物館
26	高橋草坪	松溪聽泉図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	個人蔵
27	谷文晁	夏山霽霽図	寛政7年(1795)	紙本墨画淡彩	府中市美術館
28	岡田米山人	水亭幽居図	江戸時代中期～後期(18世紀後半～19世紀前半)	紙本墨画淡彩	個人蔵
29	東東洋	松浜図屏風	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本淡彩	東北歴史博物館
30	原在中	富士山図	江戸時代中期～後期(18世紀後半～19世紀前半)	絹本墨画	敦賀市立博物館
31	立原杏所	袋田瀑布図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本墨画	個人蔵
32	伊達綱宗	波に燕図	江戸時代前期～中期(17世紀後半～18世紀前半)	紙本墨画淡彩	仙台市博物館
33	岡本秋暉	日々歓喜図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
34	円山応挙	群鳥図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	個人蔵
35	司馬江漢・鐔本梅溪	草花群鳥虫図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	個人蔵
36	黒田稲卓	親子牛図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本墨画淡彩	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
37	小泉斐	弁財天三星図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本墨画	個人蔵
38	菊田伊洲	魁星図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本墨画	仙台市博物館
39	森一鳳	星図	慶応3年(1867)	絹本着色	個人蔵
40		北斗七星図	江戸時代(17世紀～19世紀)	紙本着色	個人蔵
41	司馬江漢	天球全図	江戸時代中期(18世紀末)	紙本銅版筆彩	京都大学附属図書館
42	司馬江漢	天球図	江戸時代中期(18世紀末)	紙本銅版筆彩	京都大学附属図書館
43	司馬江漢原図	色絵軽気球図皿	江戸時代後期(19世紀前半)	色絵磁器	早稲田大学 會津八一記念 博物館
44	原鵬雲	気球図	江戸時代後期～明治時代初め(19世紀)	紙本墨画淡彩	徳島市立徳島城博物館
45	河野栄寿	昇天竜図	寛政12年(1800)	絹本着色	徳島市立徳島城博物館
46	狩野芳崖	鷹雀図	明治時代初め(19世紀後半)	紙本着色	個人蔵
47	鳥文斎栄之	芥川図	江戸時代中期～後期(18世紀後半～19世紀前半)	絹本着色	墨田区・回向院
48	松本保居	唐船入津 菩薩上陸	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本銅版	府中市美術館
49	松本保居	祇園社神輿あらいわりもの	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本銅版	府中市美術館
50	蹄齋北馬	竜口対客・上野下馬・桔梗下馬図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	個人蔵
51		洋館と中国人男女の図	江戸時代中期～後期(18世紀後半～19世紀前半)	ガラス絵	浜松市美術館
52		紅毛女人海辺舞蹈図	江戸時代中期～後期(18世紀後半～19世紀前半)	ガラス絵	浜松市美術館
53		南蛮屏風	江戸時代前期(17世紀)	紙本金地着色	個人蔵
54		異国風景図	江戸時代中期(18世紀)	絹本着色	個人蔵
55		船楽図	安土桃山時代～江戸時代前期(17世紀前半)	紙本着色	個人蔵
56		洋人図	安土桃山時代～江戸時代前期(17世紀前半)	紙本着色	個人蔵
57	司馬江漢	異国風景図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画	個人蔵
58	司馬江漢	西洋風俗図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画	個人蔵
59	司馬江漢	西洋風景図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画淡彩	個人蔵
60	狩野古信	朝鮮通信使舞蹈図	江戸時代中期(18世紀前半)	紙本着色	個人蔵
61	高嵩谷	源義経一の谷・須磨・明石図	江戸時代中期～後期(18世紀後半～19世紀初め)	絹本着色	個人蔵
62	浮田一憲	那須与一図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	個人蔵
63	曾我蕭白	後醍醐帝笠置落逃図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本着色	個人蔵
64	池田孤郁	石清水八幡神・八幡太郎義家・ 新羅三郎義光図	江戸時代後期(19世紀)	絹本着色	個人蔵
65	高嵩谷	呉織漢織図	江戸時代中期～後期(18世紀後半～19世紀初め)	絹本着色	個人蔵
66	英一蝶	かくや姫図	江戸時代中期(18世紀前半)	絹本着色	個人蔵
67	酒井鶯蒲	浦島図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
68	板谷広長	井出の玉川・三島の玉川図	江戸時代後期(19世紀初め)	絹本着色	個人蔵
69	浮田一憲	徒然草図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
70	鳥居清長	行司を務める金太郎	江戸時代中期(18世紀後半)	錦絵	墨田区・回向院
71	鳥居清長	金太郎	江戸時代中期(18世紀後半)	錦絵	墨田区・回向院

No.	作者	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
72		金太郎と熊	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画淡彩	墨田区・回向院
73	魚屋北溪	山姥金時図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
74	長沢蘆雪	諸葛孔明図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	個人蔵
75	滝和亭	関羽読書図	江戸時代後期-明治時代初め(19世紀後半)	絹本着色	白澤庵
76	司馬江漢	王昭君図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	府中市美術館
77	小泉斐	竹林七賢図	文政7年(1824)	絹本着色	個人蔵
78	狩野惟信	菊慈童図	江戸時代中期-後期(18世紀末-19世紀初め)	絹本着色	個人蔵
79	鳥文斎栄之	孟宗図	江戸時代中期-後期(18世紀後半-19世紀前半)	絹本着色	個人蔵
80	酒井抱一ほか	七福神図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本墨画淡彩	個人蔵
81	小泉斐	七福神図	安政元年(1854)	絹本着色	個人蔵
82	原在照	菅神影向図	江戸時代後期(19世紀)	紙本着色	敦賀市立博物館
83	田中抱二	竜頭観音図	江戸時代後期-明治時代(19世紀)	絹本墨画	個人蔵
84	木村徳応	釈迦如来像	江戸時代前期(17世紀)	紙本着色	個人蔵
85	高田敬輔	薬師如来像	江戸時代中期(18世紀前半)	紙本墨画淡彩	個人蔵
86	東東洋	蓮池図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	東北歴史博物館
87	逸見一純	十六羅漢図	江戸時代後期-明治時代(19世紀後半)	絹本着色	個人蔵
88	加藤信清	五百羅漢図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本着色	個人蔵
89	河鍋曉斎	波乗り観音図屏風	明治時代(19世紀後半)	紙本着色	府中市美術館寄託
90	伊達吉村	鳳凰図	江戸時代中期(18世紀)	絹本着色	仙台市博物館
91	伊藤若冲	亀図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画	個人蔵
92	原在中	飛竜図	江戸時代中期-後期(18世紀後半-19世紀前半)	絹本墨画金泥	個人蔵
93	田公実	竜・虎・鷹・鯉図	安政5年(1858)	紙本墨画	個人蔵
94	歌川国芳	地獄図	江戸時代後期(19世紀前半)	錦絵	個人蔵
95	歌川国芳	一休和尚と地獄太夫	安政元年(1854)	錦絵	個人蔵
96	歌川国芳	国芳もやう 正札附現金男 野晒悟助	弘化元年(1844)-3年(1846)	錦絵	個人蔵
97	歌川国芳	国芳もやう 正札附現金男 唐犬権兵衛	弘化元年(1844)-3年(1846)	錦絵	個人蔵
98	堀田正民	骸骨図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	個人蔵
99	蓑虫山人	野晒図	江戸時代後期-明治時代(19世紀)	紙本墨画淡彩	個人蔵
100	河鍋曉斎・董玉	地獄図	明治時代(19世紀後半)	絹本着色	個人蔵
101		閻魔王遊興図	江戸時代前期(17世紀)	紙本着色	個人蔵
102	歌川国芳	百人一首之内 大納言経信	江戸時代後期(19世紀前半)	錦絵	個人蔵
103	河鍋曉斎	狸砵図	明治時代(19世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
104	吉川一溪	白狐図	江戸時代中期-後期 (18世紀後半-19世紀前半)	絹本着色	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
105	歌川国芳	道外化もの夕涼	江戸時代後期(19世紀前半)	錦絵	個人蔵
106	歌川国芳	道外化もの百物がたり	江戸時代後期(19世紀前半)	錦絵	個人蔵
107	高井鴻山	妖怪図	江戸時代後期-明治時代初め(19世紀)	紙本墨画	個人蔵
108	歌川国貞	豊国揮毫奇術競 将軍太郎良門	文久2年(1862)	錦絵	仙台市博物館
108	歌川国貞	豊国揮毫奇術競 勇婦綱手	文久元年(1861)	錦絵	仙台市博物館
108	歌川国貞	豊国揮毫奇術競 白菊丸	元治元年(1864)	錦絵	仙台市博物館
108	歌川国貞	豊国揮毫奇術競 鳴神上人	文久2年(1862)	錦絵	仙台市博物館
108	歌川国貞	豊国揮毫奇術競 雲竜九郎	文久2年(1862)	錦絵	仙台市博物館
108	歌川国貞	豊国揮毫奇術競 法華山袈裟太郎	文久3年(1863)	錦絵	仙台市博物館
109		柳橋水車図屏風	江戸時代前期(17世紀)	紙本金地着色	個人蔵
110		柳橋水車図屏風 徳島県指定文化財	江戸時代前期(17世紀)	紙本金地着色	徳島市立徳島城博物館
111	土佐光貞	吉野・竜田図	江戸時代後期(19世紀初め)	絹本着色	敦賀市立博物館
112	酒井抱一	富士山図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本墨画	個人蔵
113	酒井鶯蒲	伊勢物語図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	個人蔵
114	東東洋	富士・足柄山・武蔵野図	天保8年(1837)	絹本淡彩	仙台市博物館
115	狩野永岳	唐人物図屏風	天保12年(1841)	紙本墨画	個人蔵
116	岡本秋暉	鹿渡河図	江戸時代後期(19世紀)	紙本着色	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
117	柴田是真	月下布袋図	明治24年(1891)	紙本墨画淡彩	個人蔵
118		青服を着た中国婦人図	18世紀-19世紀	ガラス絵	浜松市美術館
119		広東港内の景	18世紀-19世紀	ガラス絵	浜松市美術館
120	司馬江漢	三囲雪景図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本油彩	個人蔵
121	東東洋	煙霞山水図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本墨画	個人蔵
122	曾我蕭白	月夜山水図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本墨画	個人蔵
123	墨江武禪	月下山水図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本墨画	府中市美術館

No.	作者	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
124	伊藤若冲	乗興舟	明和4年(1767)	紙本拓版	個人蔵
125	長沢蘆雪	朧月図	寛政6年(1794)	絹本淡彩	個人蔵
126	与謝蕪村	山水図襖	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本淡彩	個人蔵
127	立原杏所	山水図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本淡彩	個人蔵
128	池大雅	秋景山水図	江戸時代中期(18世紀中頃)	紙本墨画淡彩	個人蔵
129	東東洋	酒吞童子図屏風	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本着色	東北歴史博物館
130	狩野探幽	八尾狐図	寛永14年(1637)	紙本着色	個人蔵
131	巨野泉祐	月中之竜図	享和3年(1803)	絹本着色	桑名市・照源寺
132	勝川春章	見立江口君図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	個人蔵
133	池大雅	葛の葉図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画淡彩	個人蔵
134	河鍋曉斎	蛙の大名行列図	明治時代(19世紀後半)	絹本着色	個人蔵
135	司馬江漢	円窓唐美人図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本油彩	府中市美術館
136	司馬江漢	オランダ馬図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本油彩	府中市美術館寄託
137	司馬江漢	馬入川富士遠望図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本油彩	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
138	岸駒	寒山拾得図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
139	中林竹溪	林和靖図	安政2年(1855)	絹本着色	敦賀市立博物館
140		楊梅図屏風	江戸時代前期(17世紀前半)	紙本金地着色	個人蔵
141	狩野常信	観音瀑布図	江戸時代前期-中期(17世紀-18世紀初め)	紙本着色	個人蔵
142	円山応挙	地獄変相図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	杉並区・眞盛寺
143	酒井抱一	地獄図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	個人蔵
144		釜から出る駕籠図	江戸時代中期-後期(18世紀-19世紀)	紙本着色	個人蔵
145	歌川国芳	源頼光公館土蜘蛛妖怪図	江戸時代後期(19世紀前半)	錦絵	個人蔵
146	歌川国芳	相馬の古内裏	江戸時代後期(19世紀前半)	錦絵	個人蔵
147	与謝蕪村	虎図	宝暦11年(1761)	絹本着色	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
148		竜虎図押絵貼屏風	朝鮮時代(17世紀)	絹本墨画淡彩	個人蔵
149	葛飾北斎	富士越竜図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本墨画	個人蔵
150	円山応挙	雲竜図	安永元年(1772)	紙本墨画	個人蔵
151	小泉斐	竜に馬師皇図屏風 栃木県指定文化財	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本墨画	大田原市・明王寺
152	曾我蕭白	仙人図屏風	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画	個人蔵
153	長沢蘆雪	蓬萊山図 重要美術品	寛政6年(1794)	絹本着色	個人蔵

6. 麗しき故郷「台湾」に捧ぐー立石鐵臣展

〔平成28年5月21日ー7月3日〕

開催主旨：

日本統治時代の台湾で活躍した油彩画家立石鐵臣（1905年-1980年）の展覧会を開催した。立石鐵臣は台北に生まれ、少年期に帰国し、日野尋常小学校、明治学院中学校に学んだ。幼少期は病身がちでしだいに絵画に関心を深め、鎌倉で岸田劉生から、さらに東京で梅原龍三郎からと、大正と昭和を代表する二人の巨匠から指導を受け、日本絵画の将来を囑望された。幼少期の台湾経験もあり、再び台湾にわたり絵画、民俗研究、装丁、批評活動などに幅広く活躍。台湾近代油画の重要画家、楊三郎、陳澄波、陳清汾、李梅樹、李石樵、廖繼春、顔水龍らが、台湾最大の在野油絵団体「台陽美術協会」を創立するにあたり、ただひとりの日本人として立石鐵臣が迎え入れられるなど、まさしく台湾を愛し、そして台湾から愛された画家であった。

1945年日本の敗戦により、2年間の留用期間を経て、作品も資産も全て失つての日本への引き揚げとなり、戦後はまさにゼロからのスタートであった。台湾時代に得た細密画技法は冴え渡り、日本の細密画の最高峰に至った。台湾での様々な出会いが、戦後日本の子供たちへ昆虫図鑑や児童書の挿絵などを通して伝えられた。再び訪れることのなかった麗しきふるさと台湾へのあふれんばかりの郷愁の念が、彼の代表作「春」にこめられている。

またこの度の展覧会では、立石鐵臣が大コレクター福島繁太郎に贈った「台湾画冊」を日本初公開した。ここには立石の台湾への想いが凝縮されているばかりでなく、日本統治期の台湾の世相のぬくもりさえもが濃厚に感じられた。

台湾で活躍した立石鐵臣の回顧展は、新たな日本近代絵画の幅を広げ、今後のさらなる台湾と日本との友好と互いの文化風土の特性を認め合う相互文化の豊かさにつながるものとなった。

観覧料：

一般700円（560円）、高校生・大学生350円（280円）、小学生・中学生150円（120円）＊（ ）内は20名以上の団体料金

主催：

府中市美術館

後援：

台北駐日経済文化代表処台湾文化センター

協力：

一般財団法人 台湾協会

出品点数：

307点

入場者数：

7,033名（開催日数:38日間、一日平均185名）

印刷物：

〔カタログ〕B5判192頁 〔ポスター〕B2判

〔チラシ〕A4判二つ折り4頁〔児童向けチラシ〕A4判

関連イベント：

〔日曜スライドトーク〕

志賀秀孝（当館学芸係長）、毎週日曜日、講座室（195名）

〔特別ギャラリートーク「父、立石鐵臣について」〕

立石光夫（ユザワヤ芸術学院学院長）、6月19日、企画展示室（100名）

〔講演会1 「台湾近代美術と立石鐵臣」〕

森美根子（台湾近代美術史家）、6月5日、講座室（60名）

〔講演会2 「立石鐵臣という画家」〕

志賀秀孝（当館学芸係長）、6月26日、講座室（70名）

〔ワークショップ1 「細密画に挑戦!（水彩画編）〕

立石雅夫（女子美術大学名誉教授）、6月18日、創作室（22名）

〔ワークショップ2 「細密画に挑戦!（アクリル画編）〕

石田淳一（画家）、6月25日、創作室（22名）

〔ワークショップ3 「平面は、立体に、そして空間へ イメージを彫刻する」〕

森豪男（デザイナー、武蔵野美術大学名誉教授）、6月11日、創作室（15名）

〔オープンワークショップ 「ハガキ細密画に挑戦」〕

会期中随時（550名）

関連記事：

「台湾望郷の念描く作品展 立石鐵臣の超現実世界へ 府中市美術館」

読売新聞 2016年5月21日

永田晶子 「伝わる望郷の思い 立石鐵臣展」 毎日新聞

2016年6月22日

『定年時代』 2016年6月上旬号

渋谷和彦 「非凡な色彩感覚 細密画の神様 立石鐵臣展」

産経新聞 2016年6月24日

山下裕二 「山下裕二のこれが欲しい!vol.90 立石鐵臣『昆虫図鑑原画

コガネムシ科・クロツヤムシ科・クワガタムシ科』『くもまつまきてふ。』

『月刊アートコレクターズ』 2016年9月号

「確かな技術に彩られた幻想の世界を旅しに 『麗しき故郷「台湾」に

捧ぐー立石鐵臣展』」『éclat』2016年7月号

出品作品

No.	作者	作品名	制作年	所蔵
1	立石鐵臣	模写「春の七草」	1921年11月8日	個人蔵
2	立石鐵臣	模写	1921年11月16日	個人蔵
3	立石鐵臣	模写	1921年11月17日	個人蔵
4	立石鐵臣	模写	1921年11月17日	個人蔵
5	立石鐵臣	「麦にそらまめ」	1921年11月18日	個人蔵
6	立石鐵臣	「ふよう」	1921年11月18日	個人蔵
7	立石鐵臣	無題	1921年11月18日	個人蔵
8	立石鐵臣	模写「楓にシジュウカラ」	1921年11月20日	個人蔵
9	立石鐵臣	無題	1921年11月20日	個人蔵
10	立石鐵臣	無題	1921年11月21日	個人蔵
11	立石鐵臣	模写	1921年12月1日	個人蔵
12	立石鐵臣	（鶏）	制作年不詳	個人蔵
13	立石鐵臣	模写	1921年12月4日	個人蔵
14	立石鐵臣	無題	1921年12月2日	個人蔵
15	立石鐵臣	玉章模写	1921年12月20日	個人蔵
16	立石鐵臣	無題	1921年11月25日-27日	個人蔵
17	立石鐵臣	無題	制作年不詳	個人蔵
18	立石鐵臣	無題	1923年9月16日	個人蔵
19	立石鐵臣	無題	1924年12月10日	個人蔵
20	立石鐵臣	無題	制作年不詳	個人蔵
21	立石鐵臣	無題	制作年不詳	個人蔵
22	立石鐵臣	野菜図	1926年7月	個人蔵
23	立石鐵臣	鎌倉風景	1926年	個人蔵
24	立石鐵臣	鎌倉海岸通り	1926年	個人蔵
25	立石鐵臣	裸婦	1928年	個人蔵
26	立石鐵臣	（風景）	制作年不詳	個人蔵
27	立石鐵臣	漁村	1929年	個人蔵
28	立石鐵臣	（風景）	制作年不詳	個人蔵
29	立石鐵臣	（風景）	制作年不詳	個人蔵
30	立石鐵臣	無題	1930年8月12日	個人蔵
31	立石鐵臣	（風景）	1926-35年	個人蔵
32	立石鐵臣	樹間	1931年	個人蔵
33	立石鐵臣	疎林	1931年	個人蔵
34	立石鐵臣	春小景	1931年	個人蔵
35	立石鐵臣	（景色）	制作年不詳	個人蔵
36	立石鐵臣	郊外	1932年	個人蔵
37	立石鐵臣	東門の朝	1933年2月	個人蔵
38	立石鐵臣	雲多き河岸エスキース	1933年	個人蔵
39	立石鐵臣	（風景）	1933-37年頃	個人蔵
40	立石鐵臣	台南孔子廟にて	1935年7月4日	個人蔵
41	立石鐵臣	関廟庄花園にて	1935年7月5日	個人蔵
42	立石鐵臣	台南大東門付近にて	1935年7月4日	個人蔵
43	立石鐵臣	関廟庄五甲にて	1935年7月5日	個人蔵
44	立石鐵臣	関廟庄五甲にて	1935年7月5日	個人蔵
45	立石鐵臣	関廟庄松子脚にて	1935年7月5日	個人蔵
46	立石鐵臣	関廟庄松子脚にて	1935年7月5日	個人蔵
47	立石鐵臣	関廟庄松子脚にて	1935年7月5日	個人蔵
48	立石鐵臣	関廟庄東勢にて	1935年7月5日	個人蔵
49	立石鐵臣	台南孔子廟にて	1935年7月6日	個人蔵
50	立石鐵臣	無題	制作年不詳	個人蔵
51	立石鐵臣	海辺の家エスキース	1936年	個人蔵
52	梅原龍三郎	台湾風景	1933年	府中市美術館
53	藤島武二	台湾風景	制作年不詳	個人蔵
54	藤島武二	台南風景	1933-35年	個人蔵
55	立石鐵臣	（七里ヶ浜）	1936年	個人蔵
56	立石鐵臣	（風景）	1937年	個人蔵
57	立石鐵臣	日輪	1938年	個人蔵
58	立石鐵臣	日輪エスキース	1938年	個人蔵
59	立石鐵臣	濱風エスキース	1939年	個人蔵
60	立石鐵臣	（風景）	1940-45年頃	個人蔵
61	立石鐵臣	壁・道・雲エスキース	1941年	個人蔵

No.	作者	作品名	制作年	所蔵
62	立石鐵臣	昆虫細密画1	台北帝大時代	個人蔵
63	立石鐵臣	昆虫細密画2	台北帝大時代	個人蔵
64	立石鐵臣	雑誌『民俗台湾』(表紙絵:原画)	1941年9月5日	個人蔵
65	立石鐵臣	無題	制作年不詳	個人蔵
66	立石鐵臣	無題	制作年不詳	個人蔵
67	立石鐵臣	無題	制作年不詳	個人蔵
68	立石鐵臣	無題	制作年不詳	個人蔵
69	立石鐵臣	無題	制作年不詳	個人蔵
70	立石鐵臣	無題	1945年7月	個人蔵
71	立石鐵臣	第13病棟を描く	1945年7月31日	個人蔵
72	立石鐵臣	第20病棟を描く	1945年7月30日	個人蔵
73	立石鐵臣	花連港系列	1945年頃	個人蔵
74～147	立石鐵臣	台湾画冊上・下巻	1962年	個人蔵
148	立石鐵臣	日本不思議物語集成(歌謡)挿絵原画	制作年不詳	個人蔵
149	立石鐵臣	アゲハチョウ	制作年不詳	個人蔵
150	立石鐵臣	オオウラジロノキ 原色林業図鑑第2巻(地球社)	1968年	個人蔵
151	立石鐵臣	マルバアオダモ 同上書	1968年	個人蔵
152	立石鐵臣	フサザクラ 同上書	1968年	個人蔵
153	立石鐵臣	イロハカエデ 同上書	1968年	個人蔵
154	立石鐵臣	サワシバ 同上書	1968年	個人蔵
155	立石鐵臣	害虫図1 同上書	1968年	個人蔵
156	立石鐵臣	害虫図2 同上書	1968年	個人蔵
157	立石鐵臣	タミಂತチバナ 同上書	1968年	個人蔵
158	立石鐵臣	害虫図3 同上書	1968年	個人蔵
159	立石鐵臣	台湾寛尾鳳鳥 掲載先不明	制作年不詳	個人蔵
160	立石鐵臣	チョウトンボ 掲載先不明	制作年不詳	個人蔵
161	立石鐵臣	ギフチョウ 掲載先不明	制作年不詳	個人蔵
162	立石鐵臣	オニヤンマ 掲載先不明	制作年不詳	個人蔵
163	立石鐵臣	ギンヤンマ(原寸) 掲載先不明	制作年不詳	個人蔵
164	立石鐵臣	ウスバキトンボ 掲載先不明	制作年不詳	個人蔵
165	立石鐵臣	ムカシトンボ 掲載先不明	制作年不詳	個人蔵
166	立石鐵臣	シオヤトンボ 掲載先不明	制作年不詳	個人蔵
167	立石鐵臣	コシアキトンボ 掲載先不明	制作年不詳	個人蔵
168	立石鐵臣	ショウジョウトンボ 掲載先不明	制作年不詳	個人蔵
169	立石鐵臣	ウチワヤンマ 掲載先不明	制作年不詳	個人蔵
170	立石鐵臣	コヤマトンボ 掲載先不明	1965年	個人蔵
171	立石鐵臣	オオシオカラトンボ 掲載先不明	1965年	個人蔵
172	立石鐵臣	チョウトンボ 掲載先不明	1965年	個人蔵
173	立石鐵臣	シオカラトンボ 掲載先不明	1965年	個人蔵
174	立石鐵臣	カトリヤンマ 掲載先不明	1965年	個人蔵
175	立石鐵臣	ヤブヤンマ 掲載先不明	1965年	個人蔵
176	立石鐵臣	トリバガ科・ニジュウシトリバガ科・ハマキガ科・ノコメハマキガ科・シンクイガ科 原色昆虫百科図鑑(集英社)	1965年	個人蔵
177	立石鐵臣	セミヤドリガ科・ボクトウガ科・イラガ科 同上書	1965年	個人蔵
178	立石鐵臣	メイガ科 同上書	1965年	個人蔵
179	立石鐵臣	カギバ科・トガリバ科 同上書	1965年	個人蔵
180	立石鐵臣	マドガ科・カギバ科 同上書	1965年	個人蔵
181	立石鐵臣	カレハガ科・オビガ科 同上書	1965年	個人蔵
182	立石鐵臣	マダラガ科・イカリモンガ科・アゲハモドキ科・ミノガ科 同上書	1965年	個人蔵
183	立石鐵臣	カレハガ科 同上書	1965年	個人蔵
184	立石鐵臣	シャチホコガ科 同上書	1965年	個人蔵
185	立石鐵臣	シャクガ科 同上書	1965年	個人蔵
186	立石鐵臣	シャクガ科 同上書	1965年	個人蔵
187	立石鐵臣	シャクガ科 同上書	1965年	個人蔵
188	立石鐵臣	オサムシ科 同上書	1965年	個人蔵
189	立石鐵臣	シデムシ科・エンマムシ科 同上書	1965年	個人蔵
190	立石鐵臣	ゲンゴロウ科 同上書	1965年	個人蔵
191	立石鐵臣	オサムシ科・ヒョウタンゴミムシ科・ゴミムシ科 同上書	1965年	個人蔵
192	立石鐵臣	ゴミムシ科 同上書	1965年	個人蔵
193	立石鐵臣	ゴミムシ科 同上書	1965年	個人蔵
194	立石鐵臣	ゴミムシ科・ホソクビゴミムシ科同上書	1965年	個人蔵
195	立石鐵臣	ゲンゴロウ科・ミズスマシ科・コガシラミズムシ科 同上書	1965年	個人蔵
196	立石鐵臣	ナガヒラタムシ科・ハネカクシ科同上書	1965年	個人蔵

No.	作者	作品名	制作年	所蔵
197	立石鐵臣	ケシキスイ科・オオキスイ科・ヒラタムシ科・コクヌスト科・テントウムシダマシ科 同上書	1965年	個人蔵
198	立石鐵臣	テントウムシ科 同上書	1965年	個人蔵
199	立石鐵臣	ガムシ科 同上書	1965年	個人蔵
200	立石鐵臣	テントウムシ科 同上書	1965年	個人蔵
201	立石鐵臣	ホタル科・ベニホタル科・ショウカイボン科・ジョウカイモドキ科 同上書	1965年	個人蔵
202	立石鐵臣	カッコウムシ科・オオキノコムシ科・ツツシンクイ科・シバンムシ科 同上書	1965年	個人蔵
203	立石鐵臣	コメツキムシ科 同上書	1965年	個人蔵
204	立石鐵臣	ゴミムシダマシ科・ハムシダマシ科同上書	1965年	個人蔵
205	立石鐵臣	ハムシ科 同上書	1965年	個人蔵
206	立石鐵臣	タマムシ科 同上書	1965年	個人蔵
207	立石鐵臣	カミキリムシ科 同上書	1965年	個人蔵
208	立石鐵臣	カミキリムシ科 同上書	1965年	個人蔵
209	立石鐵臣	カミキリムシ科 同上書	1965年	個人蔵
210	立石鐵臣	カミキリムシ科 同上書	1965年	個人蔵
211	立石鐵臣	ゾウムシ科・キクイムシ科・ナガキクイムシ科 同上書	1965年	個人蔵
212	立石鐵臣	カミキリムシ科 同上書	1965年	個人蔵
213	立石鐵臣	カミキリムシ科 同上書	1965年	個人蔵
214	立石鐵臣	コガネムシ科 同上書	1965年	個人蔵
215	立石鐵臣	コガネムシ科 同上書	1965年	個人蔵
216	立石鐵臣	コガネムシ科 同上書	1965年	個人蔵
217	立石鐵臣	クワガタムシ科 同上書	1965年	個人蔵
218	立石鐵臣	コガネムシ科 同上書	1965年	個人蔵
219	立石鐵臣	コガネムシ科・クロツヤムシ科・クワガタムシ科 同上書	1965年	個人蔵
220	立石鐵臣	林投木と白牛	1950年	個人蔵
221	立石鐵臣	影と流水	1950年作、1951年補筆	個人蔵
222	立石鐵臣	流水	1950年	個人蔵
223	立石鐵臣	カンクレージ(白牛)	1950年	個人蔵
224	立石鐵臣	けしの花の幻想	1950年	個人蔵
225	立石鐵臣	孤独(虚空)	1950年頃	個人蔵
226	立石鐵臣	孤立	1950年頃	個人蔵
227	立石鐵臣	旅へ	1950年頃	個人蔵
228	立石鐵臣	偽装驢馬	1951年	個人蔵
229	立石鐵臣	紅葉	1953年	個人蔵
230	立石鐵臣	桔梗	1955年	個人蔵
231	立石鐵臣	櫛の中の月	1953年9月	個人蔵
232	立石鐵臣	流転	1954年	個人蔵
233	立石鐵臣	傾斜都市	1958年	個人蔵
234	立石鐵臣	赤い雲	1957年	個人蔵
235	立石鐵臣	残されたもの	1953年	個人蔵
236	立石鐵臣	うに	1959年	個人蔵
237	立石鐵臣	くらげ	1959年	個人蔵
238	立石鐵臣	生きている化石	1961年	個人蔵
239	立石鐵臣	風景	1962年	個人蔵
240	立石鐵臣	新緑	1962年	個人蔵
241	立石鐵臣	(子供)	1961年	個人蔵
242	立石鐵臣	人魚たち	1962年	個人蔵
243	立石鐵臣	魚	1964年	個人蔵
244	立石鐵臣	鹿	1963年	個人蔵
245	立石鐵臣	無題	1964年	個人蔵
246	立石鐵臣	無題	1964年	個人蔵
247	立石鐵臣	無題	1964年	個人蔵
248	立石鐵臣	油壺	1964年	個人蔵
249	立石鐵臣	無題	1964年	個人蔵
250	立石鐵臣	無題	1964年	個人蔵
251	立石鐵臣	無題	1964年	個人蔵
252	立石鐵臣	無題	1964年	個人蔵
253	立石鐵臣	無題	1964年	個人蔵
254	立石鐵臣	無題	1964年	個人蔵
255	立石鐵臣	無題	1964年	個人蔵
256	立石鐵臣	無題	1964年	個人蔵
257	立石鐵臣	風景富士	1965年頃	個人蔵
258	立石鐵臣	風景富士	1965年頃	個人蔵

No.	作者	作品名	制作年	所蔵
259	立石鐵臣	風景富士	1965年頃	個人蔵
260	立石鐵臣	風景富士	1965年頃	個人蔵
261	立石鐵臣	風景富士	1965年頃	個人蔵
262	立石鐵臣	風景富士	1965年頃	個人蔵
263	立石鐵臣	雲撩乱	1965年頃	個人蔵
264	立石鐵臣	雲撩乱	1965年頃	個人蔵
265	立石鐵臣	暁の富士	1965年	個人蔵
266	立石鐵臣	雲	制作年不詳	個人蔵
267	立石鐵臣	雲撩乱	1965年	個人蔵
268	立石鐵臣	無題	1967年	個人蔵
269	立石鐵臣	無題	1967年	個人蔵
270	立石鐵臣	無題	1967年	個人蔵
271	立石鐵臣	正倉院前	1967年6月11日	個人蔵
272	立石鐵臣	大仏殿	1967年	個人蔵
273	立石鐵臣	鼓月への道	1967年7月11日	個人蔵
274	立石鐵臣	無題	1967年	個人蔵
275	立石鐵臣	無題	1967年	個人蔵
276	立石鐵臣	唐招提寺	1967年11月15日	個人蔵
277	立石鐵臣	夢殿への道	1967年11月18日	個人蔵
278	立石鐵臣	(風景階段)	1967年	個人蔵
279	立石鐵臣	(風景すすき)	1967年	個人蔵
280	立石鐵臣	真鶴夕	1967年	個人蔵
281	立石鐵臣	くもまつまきてふ	1969年	個人蔵
282	立石鐵臣	追憶の碑	1970年	個人蔵
283	立石鐵臣	飛鳥(李朝狼火台)	1971年	個人蔵
284	立石鐵臣	蝶・薔薇・鸚鵡貝など	1972年	個人蔵
285	立石鐵臣	月に献ず	1972年	個人蔵
286	立石鐵臣	春	1973年	個人蔵
287	立石鐵臣	旅―網走	1974年	個人蔵
288	立石鐵臣	ひなげしと童子	1975年	個人蔵
289	立石鐵臣	円舞	1975年	個人蔵
290	立石鐵臣	塵埃	1975年	個人蔵
291	立石鐵臣	水紋	1976年	個人蔵
292	立石鐵臣	身辺秋から冬へ	1977年	個人蔵
293	立石鐵臣	散椿	1978年	個人蔵
294	立石鐵臣	クレマチス	1979年	個人蔵
295	立石鐵臣	無題	制作年不詳	個人蔵
296	立石鐵臣	遠い花火	1978年	個人蔵
297	立石鐵臣	夕月	1979年	個人蔵
298	立石鐵臣	焼岳(夕)	1979年2月	個人蔵
299	立石鐵臣	りんごの花(花咲く林檎とハケ岳)	1979年	個人蔵
300	立石鐵臣	焼岳(昼)	1979年	個人蔵
301	立石鐵臣	(湖面の木)	1979年頃	個人蔵
302	立石鐵臣	(湖面の木)	1979年頃	個人蔵
303	立石鐵臣	(湖面の木)	1979年頃	個人蔵
304	立石鐵臣	『梅原龍三郎画集』(手製本)	制作年不詳	個人蔵
305	立石鐵臣	『無絃』(手製本)	制作年不詳	個人蔵
306	立石鐵臣	『空想ヨーロッパ旅行』(手製本)	1969年	個人蔵
307	立石鐵臣	『旅　網走』(手製本)	制作年不詳	個人蔵

7. とことん!夏のびじゅつ(じ)かん

〔平成28年7月16日－9月11日〕

開催主旨：

明治時代の洋画から現代美術まで個性あふれる当館の所蔵品を、クイズや体験装置などを通して、楽しく鑑賞する展覧会。実際に目と手と頭を動かして、ユニークなもののづくりが体験できるワークショップコーナーも設けた。また、現実の風景を模型のように写す写真家の本城直季と、建築模型用添景セットが大人気の建築家、デザイナーの寺田尚樹の作品を展示した。

観覧料：

一般400円（320円）、高校生・大学生200円（160円）、

小学生・中学生70円（50円）＊（　）内は20名以上の団体料金

主催:府中市美術館

協力：

テラダモケイ/福永紙工、nap gallery、アトリエ こえび、

認定NPO法人芸術資源開発機構（ARDA）

出品点数：32点

入場者数：9,088名（開催日数:49日間、一日平均185名）

印刷物：

〔展示記録集〕B5判12頁

〔ワークブック〕B5判16頁　〔ポスター〕B2判　〔チラシ〕A4判

関連イベント：

〔アーティストトーク　本城直季×寺田尚樹〕7月16日、企画展示室（30名）

〔とことん! アートでおしゃべりしよう!〕

共催:認定NPO法人芸術資源開発機構（ARDA）、8月20日、講座室・企画展示室（36名）

〔関連ワークショップ「つくって、かぶって、なりきり体験」〕

海老沢一仁（アトリエこえび代表）、8月28日、創作室（11名）

関連記事：

「とことん作品を見たり、知ったり、作ったり」『asacoco』100号 2016年8月4日

「とことん! 夏のびじゅつ(じ)かん」『週刊もしもしんぶん』1317号 2016年7月22日

出品作品

No.	作者	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
1	山本麻友香	Blue Pond	2004年	キャンバス、油彩	府中市美術館
2	ビエール＝エマニュエル・ダモア	コクリコの畑	1879年	キャンバス、油彩	府中市美術館
3	児島善三郎	花	制作年不詳	キャンバス、油彩	府中市美術館
4	牧野虎雄	向日葵の園	1929年	キャンバス、油彩	府中市美術館
5	東恩納裕一	untitled (FL100-03)	2002年	キャンバス、スプレーペイント	府中市美術館
6	富田有紀子	719	2005年	キャンバス、油彩	府中市美術館
7	清水登之	チャイルド洋食店	1924年	キャンバス、油彩	府中市美術館
8	菅井汲	朝	1964年	キャンバス、油彩	府中市美術館
9	山田正亮	Work C.105	1962年	キャンバス、油彩	府中市美術館
10	高松次郎	No.297 (Photographer)	1970年	キャンバス、油彩	府中市美術館
11	立石大河亞	登呂井富士	1992年	キャンバス、油彩	府中市美術館
12	サンドラ・ラモス	鳥の歴史	1997年	トランクケース	府中市美術館
13	小西真奈	Awesome Rocks	2007年	キャンバス、油彩	府中市美術館
14	中村不折	八重の潮路	1906年	キャンバス、油彩	府中市美術館
15	中西利雄	婦人像	制作年不詳	紙、水彩	府中市美術館
16	猪熊弦一郎	窓	1947年	キャンバス、油彩	府中市美術館
17	三田村光土里	Beyer	2002年	シルバーゼラチンプリントフィルム、アクリル (ライトボックス)ほか写真、オブジェ	府中市美術館
本城直季×寺田尚樹 <スモールワールド>					
18	本城直季	small garden　体育ハードル	2003年	インクジェット・プリント	作家蔵
19	本城直季	small garden　休み時間	2003年	インクジェット・プリント	作家蔵
20	本城直季	small garden　放課後	2003年	インクジェット・プリント	作家蔵
21	本城直季	small garden　放課後サッカーボール	2003年	インクジェット・プリント	作家蔵
22	本城直季	small garden　バスケットボール	2003年	インクジェット・プリント	作家蔵
23	本城直季	small garden　卒業式	2004年	インクジェット・プリント	作家蔵
24	本城直季	small garden　運動会	2005年	インクジェット・プリント	作家蔵
25	本城直季	small garden　休み時間　雪の日	2006年	インクジェット・プリント	作家蔵
26	本城直季	small garden　桜　少年野球	2007年	インクジェット・プリント	作家蔵
27	本城直季	small garden　入学式　記念写真	2009年	インクジェット・プリント	作家蔵
28	寺田尚樹	1/100　small garden　体育ハードル	2016年	紙	作家蔵
29	寺田尚樹	1/100　small garden　放課後　サッカーボール	2016年	紙	作家蔵
30	寺田尚樹	1/100　small garden　バスケットボール	2016年	紙	作家蔵
31	寺田尚樹	1/100　small garden　運動会	2016年	紙	作家蔵
32	寺田尚樹	1/100　small garden入学式　記念写真	2016年	紙	作家蔵

8. 生誕130年記念　藤田嗣治展―東と西を結ぶ絵画

〔平成28年10月1日－12月11日〕

開催主旨：

26歳でパリに渡った藤田嗣治（1886-1968）は、試行錯誤の末に生み出した独自の画風で一躍パリの寵児となった。製法を秘して語らなかった乳白色に輝く下地、面相筆で引かれた流麗な墨の線。日本的で繊細な美意識と巧みな技術が、人々を魅了したのである。そして、その個性を引き立てたのは、裸婦や自画像といった西洋の古典的な画題であった。藤田は西洋絵画の伝統に正面から向き合うことで、ヨーロッパの人々に真に認められることを目指した。それは「東と西を結ぶ絵画」と呼ぶに相応しいものであるだろう。

しかし一方で、二つの世界を背負った彼は、両者に引き裂かれるような苦しみも味わう。パリでの評価を重ねるほどに大きくなる、嫉妬と羨望の入り混じった日本画壇からの反応。さらに、戦後は戦争画制作の責任を問われ、追われるように日本を去る。そして、フランスでキリスト教に改宗し、晩年は礼拝堂の建設と壁画制作に没頭した。祖国との間に生まれた深い傷を癒すような祈りにも似た創作の日々を重ね、81歳で没する。

このたびの展覧会では、東西文化の融合と対立に注目しながら藤田の創作の歩みをたどった。華やかな成功に彩られながら、苦しみや葛藤にも満ちた彼の生涯であるが、作品のひとつひとつからは「描くこと」に真摯に向き合った画家の姿が見えた。

近年ランス市に寄贈された未公開作品など、国内外の代表作により藤田の作品世界の全貌を紹介した。通常よりも会場規模を拡大し、大作を含む114点をご覧頂いた。

観覧料：

一般1000円（800円）、高校生・大学生500円（400円）、

小学生・中学生200円（160円）＊（　）内は20名以上の団体料金

主催：

府中市美術館、東京新聞、NHK

出品点数：

114点

入場者数：

34,417名（開催日数:63日間、一日平均546名）

印刷物：

〔カタログ〕A4判288頁　〔ポスター〕B2判　〔チラシ〕A4判三つ折り6頁

出品作品

No.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
1	婦人像	1909年	布、油彩	東京藝術大学
2	自画像	1910年	布、油彩	東京藝術大学
3	スーチンのアトリエ	1913年	布、油彩	ランス美術館
4	トランプ占いの女	1914年	紙、水彩	徳島県立近代美術館
5	シャンタル嬢の肖像	1914年	紙、鉛筆、水彩	個人蔵
6	収穫	1917年	布、油彩	個人蔵
7	ル・アーヴルの港	1917年	布、油彩	横須賀美術館
8	三人の娘	1917年	紙、インク、グアッシュ	ランス美術館
9	パリ風景	1918年	布、油彩	東京国立近代美術館
10	モンルージュ、パリ	1918年	布、油彩	静岡県立美術館

関連イベント：

〔20分スライドレクチャー〕

音ゆみ子（当館学芸員）、10月2日・9日・16日・11月5日・19日・27日・12月11日、講座室（934名）

〔展覧会講座「壁画から戦争画へ:藤田の大画面作品の意味するもの」〕

深谷克典（名古屋市美術館副館長）、10月23日、講座室（80名）

〔展覧会講座「藤田嗣治の描こうとしたもの―モチーフをめぐるて」〕

音ゆみ子（当館学芸員）、11月13日、講座室（100名）

〔映画「FOUJITA」上映会（ブルーレイ上映）〕

10月30日、府中市生涯学習センター講堂（230名）

関連記事：

「仲秋の藤田嗣治展　府中市美術館で10月から」　多摩東京日報

2016年9月5日

黒澤彩　「生誕130年・ふたつのフジタ展」　『anan』2022号

2016年10月5日

小栗康平監督（聞き手　府中市美術館学芸員　音ゆみ子）

「今、フジタと藤田　昨年生涯を映画化　小栗康平監督に聞く」

東京新聞　2016年9月30日

広瀬登　「藤田嗣治　生誕130年　東洋と西洋生きた画家

首都圏各地で展覧会」　毎日新聞　2016年10月6日

淵上えり子　「覆される女性的イメージ　男性の裸体群像が示す野心　藤田

嗣治　生誕130年　相次ぐ回顧展」　読売新聞　2016年10月20日

上田貴子　「生誕130年　関東2カ所で特別展　藤田嗣治　作風の変

化　裸婦と戦争画　一挙紹介」　北海道新聞　2016年10月21日

竹中直人　「怒り、孤独、闇、夢…感じたい」

東京新聞　2016年10月27日

浅生ハルミン　「静止と躍動の対比」　東京新聞　2016年10月28日

宇野亜喜良　「細部にも伝わる好奇心」　東京新聞　2016年10月29日

岡田正弘　「乳白色、戦争画　多面的な創作」

千葉日報　20016年11月2日

木村尚貴　「美の履歴書　476　どこか神々しいわけは」

朝日新聞　2016年11月22日

「DIC川村記念美術館＆府中市美術館による“ふたつのフジタ展”」

『住む』　季刊秋59　2016年10月号

No.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
11	巴里風景	1918年	布、油彩	石橋財団ブリヂストン美術館
12	風景	1918年	布、油彩	名古屋市美術館
13	カーニユ＝シュル＝メール	1918年	布、油彩	ランス美術館
14	壺を持つ聖女	1920年	布、油彩	個人蔵
15	バラ	1922年	布、油彩	ユニマットグループ
16	アントワープ港の眺め	1923年	布、油彩	島根県立石見美術館
17	五人の裸婦	1923年	布、油彩	東京国立近代美術館
18	座る女性と猫	1923年	布、油彩	鹿児島市立美術館
19	人形を抱く少女	1923年	布、油彩	群馬県立近代美術館
20	裸婦像　長い髪ユキ	1923年	布、油彩	ユニマットグループ
21	ギターを持つ少年と少女	1924年	布、油彩	桶田コレクション
22	動物群	1924年	布、油彩	目黒区美術館
23	貝殻のある静物	1924年	布、油彩	高知県立美術館
24	砂の上で	1925年	布、油彩	姫路市立美術館
25	パリの路面電車	1925年	紙、水彩	個人蔵
26	エトワール、パレリーナ姿の自画像	1925年	紙、水彩、銀紙、ユキの髪	個人蔵
27	インク壺の静物	1926年	布、油彩	石橋財団ブリヂストン美術館
28	横たわる裸婦	1927年	布、油彩	茨城県近代美術館
29	裸婦	1928年	布、油彩	個人蔵(名古屋市美術館寄託)
30	自画像	1929年	布、油彩	東京国立近代美術館
31	自画像	1929年	布、油彩、鉛筆、金箔	名古屋市美術館
32	二人の裸婦	1929年	布、油彩	個人蔵
33	立てる裸婦	1929年	布、油彩	個人蔵
34	裁縫道具のある静物	1930年	布、油彩	熊本県立美術館
35	横たわる裸婦	1931年	紙、鉛筆	個人蔵
36	パリの小学校	1931年	布、油彩、墨	下関市立美術館
37	カーナバルの後	1932年	布、油彩	公益財団法人平野政吉美術財団
38	室内の女二人	1932年	布、油彩	公益財団法人平野政吉美術財団
39	リオの人々	1932年	紙、水彩	東京国立近代美術館
40	家族の肖像	1932年	紙、鉛筆、パステル	名古屋市美術館
41	横たわる裸婦	1932年	布、油彩	個人蔵
42	若いポリビアの女	1932年	紙、インク、グアッシュ、水彩	ランス美術館
43	メキシコの母娘	1933年	紙、墨、水彩	下関市立美術館
44	北川民次の肖像	1933年	紙、鉛筆、水彩	個人蔵
45	マドレーヌ	1933年	紙、墨、水彩	個人蔵
46	殉教者	1934年	紙、水彩、金箔	目黒区美術館
47	魚河岸	1934年	紙、水彩	下関市立美術館
48	ちんどんや　職人と女中	1934年	紙、水彩	神奈川県立近代美術館
49	力士と病児	1934年	布、油彩	大日本印刷株式会社
50	ベルギーの婦人	1934年	紙、水彩、パステル	個人蔵
51	銀座コロンバン壁画　貴婦人と召使い	1935年	布、油彩	迎賓館
52	銀座コロンバン壁画　田園での奏楽	1935年	布、油彩	迎賓館
53	東京の私のアトリエ	1936頃	紙、水彩、鉛筆	ランス美術館
54	秋田の娘	1937年	布、油彩	下関市立美術館
55	北川民次の肖像	1937年	板、油彩	個人蔵
56	客人(糸満)	1938年	布、油彩	公益財団法人平野政吉美術財団
57	私の画室	1938年	布、油彩	公益財団法人平野政吉美術財団
58	那覇	1939年	布、油彩	個人蔵(名古屋市美術館寄託)
59	モンマルトルのアトリエ	1939年	布、油彩	個人蔵
60	サーカスの人気者	1939年	布、油彩	島根県立美術館
61	青いドレスの女	1939年	布、油彩	島根県立石見美術館
62	パリのマドレーヌ	1939年	布、油彩	下関市立美術館
63	レ・ゼジ	1939年	布、油彩	ランス美術館
64	マザリヌ通り	1940年	布、油彩	個人蔵
65	猫	1940年	布、油彩	東京国立近代美術館
66	自画像	1943年	布、油彩	豊田市美術館
67	仏印風景	1943年	布、油彩	島根県立美術館
68	孫娘とおばあさん	1943年	布、油彩	ランス美術館
69	アッツ島玉砕	1943年	布、油彩	東京国立近代美術館（無期限貸与）
70	ソロモン海峡に於ける米兵の末路	1943年	布、油彩	東京国立近代美術館（無期限貸与）

No.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
71	サイパン島同胞臣節を全うす	1945年	布、油彩	東京国立近代美術館 (無期限貸与)
72	猫を抱く少女	1949年	布、油彩	個人蔵
73	美しいスペイン女	1949年	布、油彩	豊田市美術館
74	横たわる若い女性	1949年	紙、鉛筆	ランス美術館
75	自画像	1950年	紙、鉛筆	個人蔵
76	藤田君代の肖像	1950年	紙、鉛筆	ランス美術館
77	ノートル＝ダム・ド・ベルヴゼ。ヴイルヌーヴ＝レ＝ザヴィニョン	1951年	厚紙に貼った布、油彩	ランス美術館
78	東洋風のヴェールをまとった少女の肖像	1951年	紙、鉛筆、水彩	ランス美術館
79	ターバンを巻いた少女の肖像	1951年	紙、鉛筆	ランス美術館
80	ターバンを巻いた若い東洋の少年の肖像	1951年	紙、鉛筆、水彩	ランス美術館
81	ジェラバをまとった若い東洋の少年の肖像	1951年	紙、鉛筆	ランス美術館
82	ターバンを巻いた若い東洋人の肖像	1951年	紙、鉛筆	ランス美術館
83	ヴェールをかぶった東洋人女性の肖像	1951年	紙、鉛筆、水彩	ランス美術館
84	年配の東洋人の胸像	1951年	紙、鉛筆、水彩	ランス美術館
85	門の下で(習作)	1951頃	紙、鉛筆	ランス美術館
86	私の可愛いジャン＝マリー	1951年	紙、鉛筆	ランス美術館
87	少女の肖像	1951年	紙、鉛筆	ランス美術館
88	少年と猫	1951年	紙、鉛筆	ランス美術館
89	少女と猫	1951年	紙、鉛筆	ランス美術館
90	少女の肖像	1951年	紙、鉛筆	ランス美術館
91	アニエス	1951頃	紙、鉛筆	ランス美術館
92	アニエス	1951頃	紙、鉛筆	ランス美術館
93	ヴィクトールの姉	1951頃	紙、鉛筆、色鉛筆、口紅	ランス美術館
94	ベルジェ＝ヴァション夫人	1951頃	紙、鉛筆	ランス美術館
95	ベルジェ＝ヴァションの母	1951頃	紙、鉛筆、インク、水彩	ランス美術館
96	若いスペイン人女性の胸像	1951年	紙、鉛筆、水彩	ランス美術館
97	二人の祈り	1952年	布、油彩	個人蔵
98	夢	1954年	布、油彩	個人蔵
99	絵入りカレンダー(習作)	1954年	紙、鉛筆	ランス美術館
100	小さな主婦	1956年	布、油彩	いづみ画廊
101	教会の内部	1956年	布、油彩	ランス美術館
102	J夫人と子ども(習作)	1957年	紙、鉛筆	ランス美術館
103	胸をはだけた女性の肖像	1957年	紙、鉛筆	ランス美術館
104	母子と猫(習作)	1957年	紙、鉛筆	ランス美術館
105	小学生と女の子	制作年不詳	紙、鉛筆	ランス美術館
106	母親に抱きつく少女	制作年不詳	紙、木炭、鉛筆	ランス美術館
107	パリ、カスタニヤリ通り	1958年	布、油彩	個人蔵
108	聖母子	1959年	布、インク、金箔、油彩	ノートル＝ダム大聖堂、ランス (ランス美術館寄託)
109	聖母子(習作)	1959年	紙、鉛筆	ランス美術館
110	ノートルダム＝ド＝パリ、フルール河岸	1963年	布に貼った紙、油彩	ランス美術館
111	マドンナ(習作)	1963頃	紙、木炭、鉛筆	ランス美術館
112	マドンナ(習作)	1963頃	紙、鉛筆	ランス美術館
113	キリスト	1965年	ガラス、油彩、鉛	ランス美術館
114	聖母子	1965年	ガラス、油彩、鉛	ランス美術館

9. ガラス絵 幻惑の200年史

〔平成28年12月23日ー平成29年2月26日〕

開催主旨：

透明なガラス板に絵を描き、反対の面からガラスを通して鑑賞する、ガラス絵。古くは中世ヨーロッパの宗教画に始まり、中国を経て、日本へは江戸時代中期に伝わった。新奇な素材の輝きと色彩が人々の眼を驚かせ、幕末明治期には異国風景や浮世絵風のガラス絵が盛んに描かれた。大正・昭和初期には、小出檐重、長谷川利行という二人の洋画家がガラス絵に魅了されて自身の芸術の重要な一部とし、戦後も藤田嗣治、川上澄生、芹沢銈介、桂ゆきといった多彩な作家たちが取り組んだ。

透明なガラス面を通して見える、絵具そのものの艶やかな色の世界。通常の絵画と絵の具を重ねる順番を逆転させる、緻密な計算と技巧。そして、装飾を凝らした「額」と相まって生まれる、きらびやかな存在感。本展では海を渡って日本に伝えられた海外のガラス絵から、近代以降の多様な作品までの126点によって、見るものを幻惑し続けるガラス絵の魅力と歴史を紹介した。

観覧料：

一般700円（560円）、高校生・大学生350円（280円）、

小学生・中学生150円（120円）＊（ ）内は20名以上の団体料金

主催：

府中市美術館

出品点数：

126点

入場者数：

10,069名（開催日数:52日間、一日平均194名）

印刷物：

〔カタログ〕A4判変型168頁　〔ポスター〕B2判　〔チラシ〕A4判

関連イベント：

〔20分スライドレクチャー〕

小林真結（当館学芸員）、12月25日・1月7日・29日・2月12日・26日、講座室（219名）

〔展覧会講座「ガラス絵 幻惑の200年史を読み解く」〕

小林真結（当館学芸員）、2月5日、講座室（52名）

〔ワークショップ「透明アクリルでコースターを作ろう」〕

フクシマチヒロ（画家）、1月14日、創作室（21名）

〔ワークショップ「ガラス絵を描く」〕

藪野健（画家、当館館長）、2月11日・18日、創作室（22名）

関連記事：

The Japan Times, December 21, 2016

「ガラス絵 幻惑の200年史　きらびやかで緻密なガラス絵の世界を知る」

『一枚の繪』 2017年1月号

宮川匡司 「幻想的な色彩　つややかに　『ガラス絵』展」

日本経済新聞　2017年1月11日

黒沢綾子 「艶やか鮮烈　輝く色彩　ガラス絵　幻惑の200年史」

産経新聞　2017年1月12日

「ガラス絵　幻惑の200年史　ガラス絵の歴史を通覧する初の試み」

『月刊ギャラリー』 2016年12月号

小林真結 「ざやらしいモール」 読売新聞　2017年1月24日

淵上えり子 「ガラス絵の200年史」 読売新聞　2017年2月4日

三品信 「ガラス絵集め企画展　東京・府中市美術館　美しくて、ややこしい

館長・藪野健さん『描くたび新発見』」 中日新聞　2017年2月10日

大西若人 「ガラス絵の魔力」 朝日新聞　2017年2月13日

「編集部の展覧会見て歩き　アイスクリームのような心地よさ。ガラス絵の愉しみ

『ガラス絵　幻惑の200年史』展」『芸術新潮』 2017年3月号

出品作品

No.	作者	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
1		寓意画	17世紀頃(ドイツ)	ガラス絵	多摩美術大学
2		キリスト降誕図	18-19世紀頃	ガラス絵	浜松市美術館
3		聖母子図	19世紀半ば(ボヘミア)	ガラス絵	浜松市美術館
4		聖ヴェロニカ	19世紀(ルーマニア)	ガラス絵	静岡県立芹沢銈介美術館
5		聖ゲオルギウス	19世紀(ルーマニア)	ガラス絵	静岡県立芹沢銈介美術館
6		クリシュナ	19世紀(インド)	ガラス絵	静岡県立芹沢銈介美術館
7		貴人像	19世紀(インド)	ガラス絵	静岡県立芹沢銈介美術館
8		ワヤン　アルジュノとクレスノとガレン	20世紀(インドネシア)	ガラス絵	多摩美術大学
9		獅子のカリグラフィ	20世紀(インドネシア)	ガラス絵	多摩美術大学
10		西洋人家族と三匹の羊のいる風景	18世紀(中国)	ガラス絵	浜松市美術館
11		広東港内の景	18世紀後半-19世紀(中国)	ガラス絵	浜松市美術館
12		青服を着た中国婦人図	18世紀(中国)	ガラス絵	浜松市美術館
13		寝台に横臥する中国女人	18世紀後半-19世紀(中国)	ガラス絵	浜松市美術館
14		錦鶏鳥の雌雄と群鳥	18世紀後半-19世紀(中国)	ガラス絵	浜松市美術館
15		江湾風景	江戸時代後期	ガラス絵	日本民藝館
16	伝荒木如元	和蘭人男女逍遥図	江戸時代後期	ガラス絵	浜松市美術館
17		海洋を走る和蘭帆船図	江戸時代後期	ガラス絵	浜松市美術館
18		桜と錦鶏鳥	江戸時代後期	ガラス絵	浜松市美術館
19		藍絵山水図のガラス絵をはめた硯屏	江戸時代後期		浜松市美術館
20		明洲図のガラス絵をはめた硯屏	江戸時代後期		浜松市美術館

No.	作者	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
21	一溪	猫と火鉢に寄る女	江戸時代後期	ガラス絵	浜松市美術館
22		川岸洋傘をさす女	明治期	ガラス絵	浜松市美術館
23		ざんざり姿浴後図	明治期	ガラス絵	浜松市美術館
24	桂石山人	弁慶と牛若丸に扮する市川左团次と尾上菊五郎	明治期	ガラス絵	浜松市美術館
25		隅田川	明治期	ガラス絵	浜松市美術館
26		近江八景全体の図	江戸時代後期－明治期	ガラス絵	浜松市美術館
27		東海道箱根山の図	明治期	ガラス絵	浜松市美術館
28		明治天皇皇后肖像	明治期	ガラス絵(コラージュ併用)	浜松市美術館
29		芦の湖図	明治期	ガラス絵(写真貼付)	浜松市美術館
30		牡丹と菊と朝顔	明治期－昭和初期	ガラス絵	浜松市美術館
31		中国ガラス絵のある嗅ぎ煙草入れ	19世紀		浜松市美術館
32		中国ガラス絵のある嗅ぎ煙草入れ(3点組)	19世紀		浜松市美術館
33		中国ガラス絵をはめた風鎮一對	19世紀		浜松市美術館
34	日垣明貫	働く二人の紅毛人のいるガラス絵をはめた小箱	江戸時代後期		浜松市美術館
35		中国ガラス絵を蓋にはめた輪島塗椀	江戸時代後期－明治期		浜松市美術館
36		ガラス絵をはめた提重箱	江戸時代後期－明治期		浜松市美術館
37		役者のガラス絵をはめた小箱	江戸時代後期－明治期		浜松市美術館
38		硝子絵をはめた小町水看板	明治期		浜松市美術館
39		市街風景	大正13年(1924)	ガラス絵	浜松市美術館
40		裸女	大正14年(1925)	ガラス絵	京都国立近代美術館
41		裸女	昭和3年(1928)	ガラス絵	浜松市美術館
42		静物	昭和4年(1929)	ガラス絵	大阪新美術館建設準備室
43		裸女6番	昭和4年(1929)	ガラス絵	個人蔵
44	小出檐重	裸女(赤いソバック)	昭和5年(1930)	ガラス絵	芦屋市立美術博物館
45		ソファへの裸女	昭和5年(1930)	ガラス絵	芦屋市立美術博物館
46		支那寝台の裸女	昭和5年(1930)	ガラス絵	大阪新美術館建設準備室
47		荒川風景	昭和10年(1935)	ガラス絵	個人蔵
48		裸婦	昭和12年(1937)	ガラス絵	宮城県美術館(洲之内コレクション)
49		湯浴する女	昭和期(1930年代)	ガラス絵	福島県立美術館
50		女の顔	昭和期(1930年代)	ガラス絵	個人蔵
51		少年の顔	昭和13年(1938)頃	ガラス絵	浜松市美術館
52		高橋新吉氏の顔	昭和期(1930年代)	ガラス絵	個人蔵
53		サーカスの女	昭和期(1930年代)	ガラス絵	個人蔵
54	長谷川利行	ねこ	昭和期(1930年代)	ガラス絵	福島県立美術館
55		相撲(駒の里・桂川取組)	昭和13年(1938)	ガラス絵	福島県立美術館
56		相撲(取組)	昭和13年(1938)	ガラス絵	福島県立美術館
57-59		力士の顔	昭和期(1930年代)	ガラス絵	福島県立美術館
60		南薫造	昭和期(1930-40年代頃)	ガラス絵	浜松市美術館
61		劉栄楓	昭和期(1930-40年代頃)	ガラス絵	浜松市美術館
62		金山平三	大正期－昭和初期(1920-30年代頃)	ガラス絵	兵庫県立美術館
63		川上澄生	昭和25年(1950)	ガラス絵	鹿沼市立川上澄生美術館
64		川上澄生	昭和29年(1954)	ガラス絵	鹿沼市立川上澄生美術館
65		川上澄生	昭和36年(1961)	ガラス絵	鹿沼市立川上澄生美術館
66	川上澄生	洋燈を持つ洋装婦人之図	昭和29年(1954)	ガラス絵	福島県立美術館
67		芹沢銈介	昭和44年(1969)	ガラス絵	東京国立近代美術館(金子量重コレクション)
68		芹沢銈介	昭和44年(1969)	ガラス絵	東京国立近代美術館(金子量重コレクション)
69		北川民次	昭和37年(1962)	ガラス絵	福島県立美術館
70		飯島一次	昭和48年(1973)	ガラス絵	浜松市美術館
71		藪野健	昭和61年(1986)	ガラス絵	浜松市美術館
72		藤田嗣治	昭和27年(1952)	ガラス絵	個人蔵
73		吉岡憲	昭和期(1940-50年代)	ガラス絵	福島県立美術館
74		白髪一雄	明治のハイカラ娘	昭和25年(1950)頃	個人蔵
75		白髪一雄	兵隊	昭和25年(1950)頃	個人蔵
76	花柳章太郎	風景	昭和25年(1950)頃	ガラス絵	個人蔵
77		射的	昭和期(1950-60年代頃)	ガラス絵	福島県立美術館
78		市ヶ谷ボート場	昭和期(1950-60年代頃)	ガラス絵	浜松市美術館
79		辻愛造	昭和38年(1963)	ガラス絵	西宮市大谷記念美術館
80		松本榮	平成7-12年頃(1990年代後半)	ガラス絵	福島県立美術館

No.	作者	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
81	織田廣喜	雷門(浅草)	平成10年(1998)	ガラス絵	福島県立美術館
82	芹沢銈介	ろくろ	昭和期(1970年代頃)	ガラス絵	柏市
83	芹沢銈介	国頭の道	昭和50年(1975)	ガラス絵	柏市
84	芹沢銈介	古玩具群	昭和51年(1976)	ガラス絵	柏市
85	春日部たすく	月見草	昭和期(1960-80年代頃)	ガラス絵	福島県立美術館
86	加藤金一郎	新雪奥裾花川	昭和61年(1986)	ガラス絵	浜松市美術館
87	吉井忠	飯坂から見た吾妻山	平成8年(1996)	ガラス絵	福島県立美術館
88	藤田嗣治	動物宴	昭和24年(1949)	ガラス絵	個人蔵
89	鶴岡政男	子ども	昭和25年(1950)	ガラス絵	福島県立美術館
90	桂ゆき	えい	昭和期(1960年代頃)	ガラス絵(コラージュ併用)	宮城県美術館
91	桂ゆき	ブドウとキツネ	昭和期(1960-70年代頃)	ガラス絵	福島県立美術館
92	桂ゆき	虎の威を借る狐	昭和57年(1982)	ガラス絵	浜松市美術館
93	桂ゆき	ゴンベとカラス	昭和期(1960-70年代頃)	ガラス絵	福島県立美術館
94	桂ゆき	アフリカの思ひ出	昭和29年(1954)	ガラス絵	福島県立美術館
95	鈴木信太郎	オランダ人形	昭和期(1960-70年代頃)	ガラス絵	浜松市美術館
96	三芳悌吉	唐女－加彩錦衣长裙女子立俑	昭和61年(1986)	ガラス絵	浜松市美術館
97	小松崎邦雄	ターバンの娘	昭和60年(1985)	ガラス絵	浜松市美術館
98	島田章三	人と花など	平成元年(1989)	ガラス絵	浜松市美術館
99	織田廣喜	シャンゼリゼの少女	平成10年(1998)	ガラス絵	府中市美術館
100	前田藤四郎	超現実主義的な風景	昭和期(1930年代)	ガラス絵	大阪新美術館建設準備室
101	瑛九	舞台	昭和23年(1948)頃	ガラス絵	大阪新美術館建設準備室
102	高間惣七	鳥の巣	昭和期(1950-60年代頃)	ガラス絵	浜松市美術館
103	糸園和三郎	椿	昭和29年(1954)	ガラス絵(コラージュ併用)	福島県立美術館
104	辻愛造	バラ	昭和37-38年(1962-63)	ガラス絵	西宮市大谷記念美術館
105	佐田勝	水芭蕉	昭和期(1970年代頃)	ガラス絵	府中市美術館
106	佐田勝	シジャクソウ・ウズラ	昭和期(1970年代頃)	ガラス絵	府中市美術館
107	佐田勝	沖縄の花	昭和期(1970年代頃)	ガラス絵	府中市美術館
108	大野賢光	グロキシニア	昭和48年(1973)	ガラス絵	浜松市美術館
109	畦地梅太郎	火の山と山男	昭和48年(1973)	ガラス絵	浜松市美術館
110	遠藤彰子	広場	平成元年(1989)	ガラス絵	浜松市美術館
111	加藤金一郎	樹の下で(北海道豊頃にて)	昭和62年(1987)	ガラス絵	浜松市美術館
112	川上澄生	女と白い鳥(レダと白鳥)	昭和27年(1952)	木版、紙／ガラス絵	鹿沼市立川上澄生美術館
113	川上澄生	日本婦人図	昭和35年(1960)	ガラス絵(ゴム版筆彩)	鹿沼市立川上澄生美術館
114	丹羽和子	夏の女	昭和58年(1983)	ガラス絵	浜松市美術館
115	小館善四郎	まるめろ	平成元年(1989)	ガラス絵	浜松市美術館
116	佐藤泰生	女	昭和59年(1984)	ガラス絵	浜松市美術館
117	相笠昌義	うたたね	平成4年(1992)	ガラス絵(コラージュ併用)	浜松市美術館
118	深沢幸雄	小鳥紳士	平成16年(2004)	ガラス絵	多摩美術大学
119	深沢幸雄	強そうな人	平成16年(2004)	ガラス絵	多摩美術大学
120	北川民次	自画像	昭和期(1950-70年代頃)	ガラス絵	浜松市美術館
121	大沢昌助	無題	昭和期(1970-80年代頃)	ガラス絵	福島県立美術館
122	津高和一	COSMOS G-1	昭和53年(1978)	ガラス絵	兵庫県立美術館
123	野見山暁治	近づいてくる景色	平成4年(1992)	ガラス絵	浜松市美術館
124	宇佐美圭司	ガラス絵のための光る梢	平成4年(1992)	ガラス絵	浜松市美術館
125	清宮質文	夜明け	昭和－平成期(1980年代頃)	ガラス絵	福島県立美術館
126	清宮質文	蠟燭	昭和63年(1988)	ガラス絵	福島県立美術館
参考1	司馬江漢	西遊旅譚	寛政2年(1790)成稿	刊本	府中市美術館
参考2	小出檐重	「ガラス絵雑考」原稿	昭和5年(1930)	原稿用紙10枚	個人蔵(芦屋市立美術博物館寄託)
参考3	小出檐重	裸女の3	昭和4年(1929)	油彩、キャンバス	大阪新美術館建設準備室
参考4	長谷川利行	荒川風景	昭和12年(1937)	油彩、紙	府中市美術館
参考5	長谷川利行	双葉山土俵入	昭和13年(1938)頃	油彩、ボード	個人蔵
参考6	川上澄生	甲比丹散歩之図	昭和28年(1953)	木版、紙	府中市美術館
参考7	桂ゆき	物価	昭和40年(1965)	油彩・コラージュ、キャンバス	府中市美術館
資料	白髪一雄	スクラップブック(ガラス絵下絵)	昭和25年(1950)頃		個人蔵

10. 歌川国芳　21世紀の絵画力

〔平成29年3月11日－5月7日〕

開催主旨：

平成29年の「春の江戸絵画まつり」では、江戸後期の浮世絵師、歌川国芳を取り上げた。ここ数年の国芳の人気ぶりは、同時代の葛飾北斎や歌川広重をしのぐ勢いでは、と思えるほどである。「なぜ今、国芳なのか？」その答えを、国芳の作品の中に秘められた造形力や美意識に探る展覧会であった。

明治時代以降、国芳は人気があったものの、美術史のうえでは、必ずしも高く評価されてきたわけではない。作品には、余韻や情緒よりも、激しさやにぎにぎしさ、笑いが満ちあふれている。それが、浮世絵の歴史上「末期」「退廃期」と呼ばれてきた、19世紀という時期のイメージに重なり合ったせいだろうか。明治時代に外国人から評価された北斎や、西洋のロマン主義的風景画にも響き合う芸術と賛美された広重とは違って、近代の日本では、国芳の卓越した描写力を前向きに受け取ろうとする人は少なかったようにも思われる。

しかし今、浮世絵ファンはもとより、日頃は日本美術にあまり関心のない人に至るまで、本当に多くの人たちが、国芳の作品に熱い眼差しを寄せている。そしてそこには、現代のイラストレーションやマンガを楽しむのに似た感覚も感じられる。「古いもの」の趣を味わおうという、いかにも身構えた鑑賞ではなく、日常の娯楽の一部としての「国芳画の楽しみ」が生まれているように見える。

本展覧会は二部構成であった。第1章の「19世紀の国芳」では、国芳の作品の成り立ちや当時のありようを紹介した。国芳が手がけたさまざまな仕事や、歌舞伎を題材にした一枚の絵が、どんなに夢いっぱいのものであったかなど、いくつかのポイントを取り上げた。

そして第2章は、「21世紀の国芳」。国芳の作品がどうして今輝いているのか、どんなところが現代人に訴えているのかを、造形の手法や題材、作者の心といった点から探った。

前期・後期合わせて、166点の国芳の作品をご覧いただき、代表作の多くを、摺りの状態、保存状態ともに非常に良質の作品によって味わっていただける機会となった。また、国芳の作品のほかに、円山応挙や亜欧堂田善、安田雷洲らの作品も展示した。創作の源泉や時代性という点からも、国芳の魅力をより身近に、深く感じていただける機会となった。

観覧料：

一般700円（560円）、高校生・大学生350円（280円）、

小学生・中学生150円（120円）＊（　）内は20名以上の団体料金

※観覧券は、当日の朝10時から、府中市美術館の窓口で販売する。
※観覧券は、府中市美術館のホームページから申し込める。
※観覧券は、府中市美術館の各展示室で販売する。

No.	作者	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
1	歌川国芳	通俗水滸伝豪傑百八人之壱人　両頭蛇解珍	文政末－天保前期頃	大判錦絵	個人蔵
2	歌川国芳	通俗水滸伝豪傑百八人一個　混江竜季俊	文政末－天保前期頃	大判錦絵	個人蔵
3	歌川国芳	通俗水滸伝豪傑百八人之壱人　捨命三郎石秀	文政末－天保前期頃	大判錦絵	個人蔵
4	歌川国芳	通俗水滸伝豪傑百八人一個　錦豹子楊林	文政末－天保前期頃	大判錦絵	個人蔵
5	歌川国芳	通俗水滸伝豪傑百八人一個　菜园子張青	文政末－天保前期頃	大判錦絵	個人蔵
6	歌川国芳	通俗水滸伝豪傑百八人一個　立地太歳阮小二	文政10年(1827)頃	大判錦絵	個人蔵
7	歌川国芳	水滸伝豪傑百八人之一人　病関索楊雄	文政10年(1827)頃	大判錦絵	個人蔵
8	歌川国芳	通俗水滸伝豪傑百八人一個　美髯公朱全	文政末－天保前期頃	大判錦絵	個人蔵

主催：

府中市美術館

出品点数：

262点

入場者数：

30,122名（開催日数:51日間、一日平均591名）

印刷物：

〔カタログ〕A4判変型288頁　〔ポスター〕B2判

〔チラシ〕A4判三つ折り6頁

関連イベント：

〔20分スライドレクチャー〕

金子信久（当館学芸員）、毎週日曜日、講座室（382名）

〔展覧会講座「国芳にとっての西洋画　現代人に教えてくれること」〕

音ゆみ子（当館学芸員）、4月29日、講座室（90名）

〔展覧会講座「ねこと特撮　国芳と私たちをつなぐもの」〕

金子信久（当館学芸員）、5月6日、市民ギャラリー（150名）

〔子ども向けイベント　くによし探検隊〕

会期中随時（11,723名）

関連記事：

金子信久　「猫への愛のかたち　国芳の場合」『SINRA』2017年3月「飛び出し迫る『歌川国芳』の世界Ⅱ　21世紀に蘇る『特撮浮世絵』Ⅰ」『美術展完全ガイド』2017年1月

金子信久　「百花百様107　歌川国芳　逢性鏡吉三郎　花舞う中の夢見る心地」『いけ花龍生』2017年3月号

「林綾野の30代女子に効くアートサプリMonthly Theme：光る技とオリジナリティ」『In Red』2017年4月号

「奇想天外な発想が今なお新鮮。武者絵に優れた幕末の絵師

歌川国芳」『サライ』2017年4月号

川岸徹「江戸の人気絵師が描いた鳥」『日経おとなのOFF』

2017年4月号

「美術を自由に楽しむ　国芳が教えてくれること

近世と現代つなぐ絵画力　プームの陰に時代の共感性」聖教新聞

2017年4月5日

「国芳の世界　多彩に240点　府中市美術館」読売新聞

2017年4月5日

No.	作者	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
9	歌川国芳	通俗水滸伝豪傑百八人之一個　操刀鬼曹正	文政10年(1827)頃	大判錦絵	個人蔵
10	歌川国芳	通俗水滸伝豪傑百八人之一個　没羽箭張清	文政10年(1827)頃	大判錦絵二枚続のうち(左)	個人蔵
11	歌川国芳	通俗水滸伝豪傑百八人之一個　黒施風李逵一名李鉄牛	文政10年(1827)頃	大判錦絵	個人蔵
12	歌川国芳	通俗水滸伝豪傑百八人之一個　智多星呉用	文政末－天保前期頃	大判錦絵	個人蔵
13	歌川国芳	通俗水滸伝豪傑百八人之一個　小李広花栄	文政10年(1827)頃	大判錦絵	個人蔵
14	歌川国芳	通俗水滸伝豪傑百八人一個　金鎗手徐寧	文政末－天保前期頃	大判錦絵	個人蔵
15	歌川国芳	通俗水滸伝豪傑百八人一個　神医安道全、母大虫顧大嫂	文政末－天保前期頃	大判錦絵	個人蔵
16	歌川国芳	通俗水滸伝豪傑百八人一個　急先鋒索超	文政末－天保前期頃	大判錦絵二枚続のうち(中)	個人蔵
17	歌川国芳	江戸名所見立十二月の内　六月　山王御祭礼　団七九郎兵衛	嘉永5年(1852)	大判錦絵	個人蔵
18	歌川国芳	四代目中村歌右衛門死絵	嘉永5年(1852)	大判錦絵	個人蔵
19	歌川国芳	隅田川七福神の内　寿老人	嘉永6年(1853)	大判錦絵	個人蔵
20	歌川国芳	今様七小町　関てら	嘉永2-4年(1849-51)	大判錦絵	個人蔵
21	歌川国芳	流行猫の戯　おしゆん伝兵衛　身の臭蛭色時	弘化4年(1847)頃	大判錦絵	個人蔵
22	歌川国芳	能師霧竹武大夫実ハ大高主殿、能ワキ師萩伊右エ門実ハ白坂甚内	嘉永元年(1848)	大判錦絵	山口県立萩美術館・浦上記念館
23	歌川国芳	あはしま　市川九蔵	天保12年(1841)	大判錦絵	個人蔵
24	歌川国芳	初代坂東しうかの橋本屋白糸	嘉永5年(1852)	大判錦絵	個人蔵
25	歌川国芳	初代坂東しうかのくづの葉狐、一子童子	嘉永2-3年(1849-50)	大判錦絵	個人蔵
26	歌川国芳	流行猫の戯　道行猫柳蛭月影	弘化4年(1847)頃	大判錦絵	個人蔵
27	歌川国芳	大入丸　沢村訥升の小松屋宗七	天保11年(1840)頃	大判錦絵	個人蔵
28	歌川国芳	遇躬八雲　矢立婦半	弘化3-嘉永元年(1846-48)	大判錦絵	個人蔵
29	歌川国芳	流行猫の戯　梅が枝無間の真似	弘化4年(1847)頃	大判錦絵	個人蔵
30	歌川国芳	江都錦今様国尽　因幡　白井権八、伯耆　塩谷判官	嘉永5年(1852)	大判錦絵	個人蔵
31	歌川国芳	今様七小町　かよひ	嘉永2-4年(1849-51)	大判錦絵	個人蔵
32	歌川国芳	忠孝加々見山	弘化4年(1847)頃	大判錦絵三枚続	山口県立萩美術館・浦上記念館
33	歌川国芳	流行猫の戯　かびみやな　草履恥の段	弘化4年(1847)頃	大判錦絵	個人蔵
34	歌川国芳	江都錦今様国尽　越中　一休禪師・地獄太夫、越後　児電也	嘉永5年(1852)	大判錦絵	個人蔵
35	歌川国芳	東都流行三十六会席　大音寺前　白井権八	嘉永5年(1852)	大判錦絵	個人蔵
36	歌川国芳	四代目中村歌右衛門のうき世又平、二代目尾上菊次郎の女房おとく	弘化4-嘉永元年(1847-48)	大判錦絵	個人蔵
37	歌川国芳	流行猫の戯　袂袂氣罵責段	弘化4年(1847)頃	大判錦絵	個人蔵
38	歌川国芳	見立俳優八犬士　大阪毛野　岩井紫若	天保年間	大判錦絵	個人蔵
39	歌川国芳	江都錦今様国尽　飛驒　飛驒の内匠、信濃　八重垣姫	嘉永5年(1852)	大判錦絵	個人蔵
40	山東京山著、歌川国芳画	朧月猫の草紙	天保13-嘉永2年(1842-49)	中本・合巻	東洋大学附属図書館
41	山東京山著、歌川国芳画	朧月猫の草紙	天保13-嘉永2年(1842-49)	中本・合巻	和泉市久保惣記念美術館
42	歌川国芳	大山良弁滝之図	天保後期	大判錦絵三枚続	個人蔵
43	歌川国芳	当盛夏の富士びたい	嘉永5年(1852)	大判錦絵　五枚	個人蔵
44	歌川国芳	猫の百面相	天保12年(1841)頃	団扇絵	個人蔵
45	歌川国芳	流行猫のおも入	天保12-13年(1841-42)頃	大判錦絵	個人蔵
46	歌川国芳	魚の心	天保末期	大判錦絵	個人蔵
47	歌川国芳	似たか金魚	天保末期	団扇絵	個人蔵
48	歌川国芳	東都名所　両国の涼	天保初期	大判錦絵	個人蔵
49	歌川国芳	東都名所　佃島	天保初期	大判錦絵	個人蔵
50	歌川国芳	東都御厩川岸之図	天保初期	大判錦絵	個人蔵
51	歌川国芳	東都名所　両国柳ばし	天保初期	大判錦絵	個人蔵
52	歌川国芳	東都名所　大森	天保初期	大判錦絵	個人蔵
53	歌川国芳	東都名所　洲崎初日出の図	天保初期	大判錦絵	個人蔵
54	歌川国芳	東都名所　てつぼふづ	天保初期	大判錦絵	個人蔵
55	歌川国芳	東都名所　新吉原	天保初期	大判錦絵	個人蔵
56	歌川国芳	東都名所　かすみが関	天保初期	大判錦絵	個人蔵
57	歌川国芳	東都名所　するがだひ	天保初期	大判錦絵	個人蔵
58	歌川国芳	東都橋場之図	天保初期	大判錦絵	個人蔵
59	歌川国芳	東都名所　浅草今戸	天保初期	大判錦絵	個人蔵
60	歌川国芳	東都三ツ股の図	天保初期	大判錦絵	個人蔵

No.	作者	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
61	歌川国芳	東都首尾の松之図	天保初期	大判錦絵	個人蔵
62	歌川国芳	東都富士見三十六景 新大はし橋下の眺望	天保14-弘化元年(1843-44)頃	大判錦絵	個人蔵
63	歌川国芳	東都富士見三十六景 山王神事雪解の富士	天保14-弘化元年(1843-44)頃	大判錦絵	個人蔵
64	歌川国芳	東都富士見三十六景 昌平坂の遠景	天保14-弘化元年(1843-44)頃	大判錦絵	個人蔵
65	歌川国芳	東都富士見三十六景 隅田堤の夕富士	天保14-弘化元年(1843-44)頃	大判錦絵	個人蔵
66	司馬江漢	馬入川富士遠望図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本油彩	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
67	司馬江漢	三囲雪景図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本油彩	府中市美術館寄託
68	亜欧堂田善	墨堤観桜図	江戸時代後期(19世紀初め)	絹本油彩	府中市美術館寄託
69	亜欧堂田善	今戸瓦焼之図	江戸時代後期(19世紀初め)	紙本銅版	須賀川市立博物館
70	歌川国芳	子供遊五節供之うち 七月	天保14-弘化元年(1843-44)頃	大判錦絵	個人蔵
71	歌川国芳	当盛子供遊び 半田稲荷	天保年間	大判錦絵	個人蔵
72	歌川国芳	当盛子供遊び 祭り	天保年間	大判錦絵	個人蔵
73	歌川国芳	子供諸礼装方 屏風のたてやう、障子明たてしやう	天保後期	大判錦絵	個人蔵
74	歌川国芳	子供諸礼装方 掛物かけやう、立花生花見やう	天保後期	大判錦絵	個人蔵
75	歌川国芳	稚八行のうち 忠	天保後期	大判錦絵	個人蔵
76	歌川国芳	江戸ノ花木葉渡 早竹虎吉	安政4年(1857)	大判錦絵	個人蔵
77	歌川国芳	石橋 早竹虎吉	安政4年(1857)	大判錦絵	個人蔵
78	歌川国芳	浅草奥山生人形	安政2年(1855)	大判錦絵二枚続	個人蔵
79	歌川国芳	当盛見立人形之内 糸の仙人	安政3年(1856)	大判錦絵二枚続	個人蔵
80	歌川国芳	程義経恋源一代鏡 三略伝 第三	弘化4年(1847)-嘉永初期	大判錦絵	個人蔵
81	歌川国芳	和漢準源氏 花の宴 釈那王	安政2年(1855)	大判錦絵	個人蔵
82	歌川国芳	英雄大倭十二士 御曹子牛若丸 人真根の申	安政元年(1854)	大判錦絵	個人蔵
83	歌川国芳	程義経恋源一代鏡 三略伝 第二	弘化4年(1847)-嘉永初期	大判錦絵	個人蔵
84	歌川国芳	小倉擬百人一首 陽成院	弘化2年(1845)頃	大判錦絵	個人蔵
85	歌川国芳	十六武蔵坊	弘化4-嘉永3年(1847-50)	大判錦絵	個人蔵
86	歌川国芳	弁慶が勇力戯に三井寺の梵鐘を叡山へ引揚る図	弘化2-3年(1845-46)頃	大判錦絵三枚続	個人蔵
87	歌川国芳	西塔鬼若丸	弘化2-3年(1845-46)頃	大判錦絵	個人蔵
88	歌川国芳	稚立功名鑑 鬼若丸	弘化2-3年(1845-46)頃	大判錦絵	個人蔵
89	歌川国芳	鬼若丸	弘化4-嘉永3年(1847-50)	大判錦絵	個人蔵
90	歌川国芳	西塔鬼若丸	文政後期	大判錦絵	個人蔵
91	歌川国芳	和漢準源氏 よこ笛 牛若丸	安政2年(1855)	大判錦絵	個人蔵
92	歌川国芳	程義経恋源一代鏡 三略伝 十三	弘化4年(1847)-嘉永初期	大判錦絵	個人蔵
93	歌川国芳	大江山酒吞童子	嘉永4年(1851)	大判錦絵三枚続	個人蔵
94	歌川国芳	和漢準源氏 源頼光 薄雲	安政2年(1855)	大判錦絵	個人蔵
95	歌川国芳	東海道五十三対 草津	弘化2年(1845)頃	大判錦絵	山口県立萩美術館・浦上記念館
96	歌川国芳	竜宮城 田原藤太秀郷に三種の土産を贈	安政5年(1858)	大判錦絵三枚続	個人蔵
97	歌川国芳	朝比奈三郎義秀小人じま遊	天保13年(1842)頃	大判錦絵	個人蔵
98	歌川国芳	朝比奈義秀小人遊	天保13年(1842)頃	大判錦絵	個人蔵
99	歌川国芳	誠忠義士肖像 中村勘助正辰	嘉永5年(1852)	大判錦絵	個人蔵
100	歌川国芳	誠忠義士肖像 富之森祐右エ門正固	嘉永5年(1852)	大判錦絵	個人蔵
101	歌川国芳	誠忠義士肖像 潮田政之丞高教	嘉永5年(1852)	大判錦絵	個人蔵
102	歌川国芳	誠忠義士肖像 吉田沢右エ門包貞	嘉永5年(1852)	大判錦絵	個人蔵
103	歌川国芳	忠臣蔵十一段日夜討之図	天保初期	大判錦絵	個人蔵
104	安田雷洲	赤穂義士報讐図	江戸時代後期(19世紀)	絹本着色	本間美術館
105	歌川国芳	二十四孝童子鑑 郭巨	天保末-弘化初期	大判錦絵	仙台市博物館
106	亜欧堂田善	真洲先稲荷隅田川眺望	江戸時代後期(19世紀初め)	紙本銅版	須賀川市立博物館
107	歌川国芳	二十四孝童子鑑 大舜	天保末-弘化初期	大判錦絵	個人蔵
108	笠亭仙果著、 歌川国芳画	七ツ組入子枕	嘉永4年(1851)	中本・合巻	早稲田大学図書館
109	亜欧堂田善	榎坂溜池之景	江戸時代後期(19世紀初め)	紙本銅版	須賀川市立博物館
110	歌川国芳	近江の国の勇婦於兼	天保初期	大判錦絵	個人蔵
111	歌川国芳	唐土廿四孝 呉猛	嘉永前期	中判錦絵	個人蔵
112	歌川国芳	唐土廿四孝 閔子騫	嘉永前期	中判錦絵	個人蔵
113	歌川国芳	唐土廿四孝 董永	嘉永前期	中判錦絵	個人蔵
114	歌川国芳	唐土廿四孝 大舜	嘉永前期	中判錦絵	個人蔵
115	歌川国芳	駒ぐらへ盤上太平碁	天保14年(1843)	大判錦絵三枚続	個人蔵
116	歌川国芳	墨戦之図	天保14年(1843)	大判錦絵三枚続	仙台市博物館
117	歌川国芳	源頼光公館土蜘蛛妖怪図	天保14年(1843)頃	大判錦絵三枚続	個人蔵
118	歌川国芳	里すゝめねぐらの仮宿	弘化3年(1846)	大判錦絵三枚続	個人蔵
119	歌川国芳	朝比奈小人鳥遊	弘化3-嘉永元年(1846-48)	大判錦絵三枚続	個人蔵
120	歌川国芳	きたいなめい医 難病療治	嘉永3年(1850)	大判錦絵三枚続	個人蔵

No.	作者	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
121	歌川国芳	浮世又平名画奇特	嘉永6年(1853)	大判錦絵二枚続	個人蔵
122	歌川国芳	土佐画巻物之写	万延元年(1860)	大判錦絵三枚続	個人蔵
123	歌川国芳	流行うきよひやうたん	弘化元年(1844)	団扇絵	個人蔵
124	歌川国芳	人をばかにした人だ	嘉永元年(1848)頃	大判錦絵	個人蔵
125	歌川国芳	人かたまつて人になる	嘉永元年(1848)頃	大判錦絵	個人蔵
126	松平斉民収集	人物図(松平斉民収集「芸海余波」のうち)	江戸時代後期(19世紀)		早稲田大学図書館
127	歌川国芳	としりのよふな若い人だ	嘉永元年(1848)頃	大判錦絵	個人蔵
128	歌川国芳	みかけハこハゐがとんだいゝ人だ	嘉永元年(1848)頃	大判錦絵	個人蔵
129	歌川国芳	百色面相	天保11年(1840)頃	大判錦絵	個人蔵
130	歌川国芳	百色面相	天保11年(1840)頃	大判錦絵	個人蔵
131	歌川国芳	道外十二支 寅、道外十二支 卯	安政2年(1855)	大判錦絵	個人蔵
132	歌川国芳	道外十二支 申、道外十二支 酉	安政2年(1855)	大判錦絵	個人蔵
133	歌川国芳	道外獣の雨やどり	天保後期	大判錦絵	個人蔵
134	歌川国芳	道外十二支 かみゆいどこ 未	天保12年(1841)頃	中判錦絵	個人蔵
135	歌川国芳	木曾街道六十九次之内 守山 達磨大師	嘉永5年(1852)	大判錦絵	個人蔵
136	歌川国芳	浮世よしづ久志	弘化3-嘉永元年(1846-48)	大判錦絵二枚続	個人蔵
137	歌川国芳	勇国芳桐対模様	弘化4-嘉永元年(1847-48)	大判錦絵三枚続	個人蔵
138	歌川国芳	流行達都絵希代稀物	嘉永元年(1848)頃	大判錦絵三枚続	個人蔵
139	歌川芳富	歌川国芳・芳房死絵	文久元年(1861)	大判錦絵	個人蔵
140	落合芳幾	歌川国芳死絵	文久元年(1861)	大判錦絵	個人蔵
141	歌川国芳	逢性鏡 吉三郎	弘化4年(1847)頃	団扇絵	個人蔵
142	歌川国芳	花鳥風月 ふねで見る月	嘉永4-5年(1851-52)	団扇絵	個人蔵
143	歌川国芳	夏の夜げしき	嘉永5年(1852)	団扇絵	個人蔵
144	歌川国芳	櫛持つ美人	弘化2年(1845)頃	団扇絵	個人蔵
145	歌川国芳	月雪花之内 月梅	安政3年(1856)	団扇絵	個人蔵
146	歌川国芳	一口浄瑠璃 梅川	弘化3年(1846)頃	団扇絵	個人蔵
147	歌川国芳	三浦屋揚巻	嘉永2-5年(1849-52)	団扇絵	個人蔵
148	歌川国芳	当国三つの狩 ほたるかり	弘化4-嘉永元年(1847-48)	団扇絵	個人蔵
149	歌川国芳	艶曲揃	嘉永6年(1853)	団扇絵	個人蔵
150	歌川国芳	逢性鏡 六三	弘化4年(1847)頃	団扇絵	個人蔵
151	歌川国芳	一口浄瑠璃 早野勘平	弘化3年(1846)頃	団扇絵	個人蔵
152	歌川国芳	五行之内 針の金性	天保14-弘化元年(1843-44)	団扇絵	個人蔵
153	歌川国芳	夕寿豆美	弘化2-3年(1845-46)	団扇絵	個人蔵
154	歌川国芳	田舎源氏	嘉永2-5年(1849-52)	団扇絵	個人蔵
155	歌川国芳	月尽の内 おまろ月	嘉永4-5年(1851-52)	団扇絵	個人蔵
156	歌川国芳	東都八景 高輪の秋月	弘化2-3年(1845-46)	団扇絵	個人蔵
157	歌川国芳	六花盛	弘化3年(1846)頃	団扇絵	個人蔵
158	歌川国芳	浮夜八会 遊女	嘉永2-3年(1849-50)頃	団扇絵	個人蔵
159	歌川国芳	見立梨壺七歌仙之内 馬内侍	嘉永2-5年(1849-52)	大判錦絵	個人蔵
160	歌川国芳	当盛江戸鹿子 茅場町薬師	天保前期	大判錦絵	個人蔵
161	歌川国芳	御奥の弾初	嘉永2-5年(1849-52)	大判錦絵三枚続	個人蔵
162	歌川国芳	忠孝名誉奇人伝 梶女	弘化2年(1845)頃	大判錦絵	個人蔵
163	歌川国芳	船橋屋前	天保後期	大判錦絵三枚続	個人蔵
164	歌川国芳	婦女鏡 豊 洗濯	弘化初期	大判錦絵	個人蔵
165	歌川国芳	本朝剣道略伝 大江親兵衛	弘化2-3年(1845-46)頃	大判錦絵	個人蔵
166	歌川国芳	本朝水滸伝豪傑八百人一個 里見八犬士之内 犬坂毛野胤智	天保2年(1831)頃	大判錦絵	個人蔵
167	歌川国芳	義勇八犬伝 大江親兵衛	嘉永2年(1849)頃	大判錦絵	個人蔵
168	円山応挙	時雨狗子図	明和4年(1767)	絹本着色	府中市美術館
169	円山応挙	狗子図	天明2年(1782)	紙本墨画	個人蔵
170	長沢蘆雪	狗子蓮華図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	個人蔵
171	長沢蘆雪	狗子図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
172	歌川国芳	道外化もの夕涼	天保後期	大判錦絵	個人蔵
173	歌川国芳	列猛伝 足柄金太郎	安政3年(1856)	長大判錦絵	個人蔵
174	歌川国芳	道外化粧のたわむれ 大森	弘化元-3年(1844-46)	団扇絵	個人蔵
175	歌川国芳	道外化粧のたわむれ 花火	弘化元-3年(1844-46)	団扇絵	個人蔵
176	歌川国芳	ほふづきづくし 夕立	天保13年(1842)頃	中判錦絵	個人蔵
177	歌川国芳	ほうづきづくし ゆうれい	天保13年(1842)頃	中判錦絵	個人蔵
178	歌川国芳	てるてる法主 おひよりおどり	嘉永2年(1849)	大判錦絵	個人蔵
179	歌川国芳	きん魚づくし ほんぼん	天保13年(1842)頃	中判錦絵	個人蔵
180	歌川国芳	金魚づくし いかだのり	天保13年(1842)頃	中判錦絵	個人蔵

No.	作者	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
181	歌川国芳	源頼光の四天王土蜘蛛退治之図	天保年間	大判錦絵三枚続	個人蔵
182	歌川国芳	大物之浦海底之図	嘉永4年(1851)頃	大判錦絵三枚続	個人蔵
183	歌川国芳	程義経恋源一代鏡　三略伝　大物浦	嘉永6年(1853)	大判錦絵	個人蔵
184	歌川国芳	通俗水滸伝豪傑百八人之内　浪裡白跳張順	弘化2年(1845)頃	中判錦絵	個人蔵
185	歌川国芳	相馬の古内裏	弘化2-3年(1845-46)頃	大判錦絵三枚続	個人蔵
186	杉田玄白著、大槻玄沢重訂、南小柳亭一画、中伊三郎版刻	解体譜(重訂解体新書図編)	文政9年(1826)		早稲田大学図書館
187	歌川国芳	讃岐院眷属をして為朝をすくふ図	嘉永4年(1851)	大判錦絵三枚続	個人蔵
188	歌川国芳	肥後国水戾の海上にて為朝難風に遇ふ	天保中期	大判錦絵三枚続	個人蔵
189	ヤン・コンストン著	動物図譜	1660年		府中市美術館
190	歌川国芳	鬼若丸と大鯉鯉	弘化2-3年(1845-46)頃	大判錦絵三枚続	個人蔵
191	歌川国芳	坂田怪童丸	天保中期	大判錦絵	個人蔵
192	歌川国芳	六様性国芳自慢　先負　文覚上人	万延元年(1860)	大判錦絵	個人蔵
193	月岡雪斎	鯉図押絵貼屏風	江戸時代中期-後期(18世紀後半-19世紀前半)	紙本着色	個人蔵
194	長沢蘆雪	鯉図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画淡彩	個人蔵
195	円山応挙	登竜門図	安永6年(1777)	絹本墨画	個人蔵
196	歌川国芳	信州川中島武田の正兵西条山を引かへし雨宮のわたりをこへ越後方甘粕近江守と戦ふ図	安政2年(1855)	大判錦絵三枚続	個人蔵
197	歌川国芳	武田信玄諏訪頼重の陳中を打くづす図	嘉永2-5年(1849-52)	大判錦絵三枚続	個人蔵
198	歌川国芳	甲越川中島大合戦	嘉永5年(1852)	大判錦絵三枚続	個人蔵
199	司馬江漢	異国戦闘図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本油彩	府中市美術館寄託
200	歌川国芳	八犬伝之内芳流閣	天保11年(1840)	大判錦絵三枚続	個人蔵
201	歌川国芳	両国夕涼花火ノ光景	安政元年(1854)	大判錦絵三枚続	個人蔵
202	歌川国芳	相模国大山寺石尊宮朝山図	安政元年(1854)	大判錦絵三枚続	個人蔵
203	歌川国芳	川中島大合戦	安政元年(1854)	大判錦絵三枚続	個人蔵
204	歌川国芳	勇士左馬之助満晴湖水渡	弘化4- 嘉永3年(1847-50)	大判錦絵三枚続	個人蔵
205	歌川国芳	宇治川合戦之図	嘉永2年(1849)	大判錦絵三枚続	個人蔵
206	歌川国芳	頼朝公鶴ヶ岡の神前において静御前のまひを見給ふ図	天保末-弘化初期	大判錦絵三枚続	個人蔵
207	歌川国芳	楠正行京軍之発向を見て諸士を集へて敵を碎の謀軍立の手賦を譲し給ふ図	天保後期	大判錦絵三枚続	個人蔵
208	歌川国芳	川中島合戦	弘化2-3年(1845-46)頃	大判錦絵三枚続	山口県立萩美術館・浦上記念館
209	歌川国芳	和田合戦義秀惣門押破	嘉永5年(1852)	大判錦絵三枚続	個人蔵
210	歌川国芳	勇魁三十六合戦　十六	嘉永4年(1851)	大判錦絵	個人蔵
211	歌川国芳	三井寺合戦之図	文政前期	大判錦絵三枚続	個人蔵
212	歌川国芳	宮本武蔵と巨鯨	弘化4- 嘉永3年(1847-50)	大判錦絵三枚続	個人蔵
213	歌川国芳	武勇百伝　御曹子牛若丸	天保中期	大判錦絵	個人蔵
214	谷文晁	名山図譜	文化元年(1804)		府中市美術館
215	司馬江漢	西遊旅譚	寛政年間		府中市美術館
216	歌川国芳	相州江之島之図	嘉永2-4年(1849-51)頃	大判錦絵三枚続	個人蔵
217	歌川国芳	百人一首之内　崇徳院	天保後期	大判錦絵	個人蔵
218	歌川国芳	大物浦平家の亡霊	嘉永4年(1851)頃	大判錦絵三枚続	個人蔵
219	歌川国芳	長門国赤間の浦に於て源平大合戦平家一門悉く亡びる図	弘化2-3年(1845-46)	大判錦絵三枚続	個人蔵
220	歌川国芳	川中島信玄謙信旗本大合戦之図	弘化2-3年(1845-46)	大判錦絵三枚続	仙台市博物館
221	歌川国芳	摂州大物浦平家ノ怨霊顯るゝ図	天保末期	大判錦絵三枚続	個人蔵
222	歌川国芳	有王丸	天保前期	大判錦絵	山口県立萩美術館・浦上記念館
223	歌川国芳	平知盛亡霊の図	文政初期	大判錦絵三枚続	個人蔵
224	歌川国芳	通俗三国志英雄之壱人　劉備	天保後期	大判錦絵	個人蔵
225	歌川国芳	周易八卦絵　巽風	天保後期	大判錦絵	個人蔵
226	歌川国芳	周易八卦絵　震雷	天保後期	大判錦絵	個人蔵
227	歌川国芳	本朝廿四孝　熱田縁采女	弘化元年(1844)頃	中判錦絵	個人蔵
228	歌川国芳	列猛伝　宮本武三四	弘化2-3年(1845-46)	長大判錦絵	個人蔵
229	歌川国芳	阿部安近祈玉藻前	天保前期	大判錦絵	個人蔵
230	歌川国芳	小子部栖軽豊浦里捕雷	天保前期	大判錦絵	個人蔵
231	歌川国芳	城四郎長茂空中に怪異を見る図	嘉永2-5年(1849-52)	大判錦絵三枚続	個人蔵
232	歌川国芳	曲亭翁精著八犬士随一　犬山道節	天保8年(1837)	大判錦絵二枚続のうち(左)	個人蔵
233	歌川国芳	曲亭翁精著八犬士随一　犬川莊介	天保8年(1837)	大判錦絵二枚続のうち(右)	個人蔵
234	歌川国芳	白面笑壁のむだ書	嘉永元年(1848)頃	大判錦絵三枚組	個人蔵
235	歌川国芳	荷宝藏壁のむだ書	弘化4- 嘉永元年(1847-48)	大判錦絵三枚組	個人蔵

No.	作者	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
236	歌川国芳	風流六花撰　百合	天保末-弘化初期	大判錦絵	個人蔵
237	歌川国芳	東都月の名所　両国の月	天保後期	大判錦絵	個人蔵
238	歌川国芳	風流見立貝づくし　あわび	天保前期	大判錦絵	個人蔵
239	歌川国芳	当盛美人合　五節句の内　青陽	天保前期	大判錦絵	個人蔵
240	歌川国芳	妙でんす十六利勘　朝寝者損者	弘化3年(1846)頃	大判錦絵	山口県立萩美術館・浦上記念館
241	歌川国芳	源氏雲浮世画合　若菜　下	弘化3年(1846)	大判錦絵	個人蔵
242	歌川国芳	猫と遊ぶ娘	弘化2年(1845)頃	団扇絵	個人蔵
243	歌川国芳	山海愛度図会　ヲいたい　越中滑川大蛸	嘉永5年(1852)	大判錦絵	個人蔵
244	歌川国芳	其まゝ地口　猫飼好五十三疋	嘉永初期	大判錦絵三枚続	個人蔵
245	歌川国芳	たとゑ尽の内	嘉永5年(1852)	大判錦絵三枚組	個人蔵
246	歌川国芳	日本駄右エ門猫之古事	弘化4年(1847)	大判錦絵三枚続	個人蔵
247	歌川国芳	古猫妙術説	弘化4- 嘉永3年(1847-50)	大判錦絵	個人蔵
248	歌川国芳	猫の当字　ふぐ	天保13年(1842)頃	大判錦絵	個人蔵
249	歌川国芳	猫の当字　たこ	天保13年(1842)頃	大判錦絵	個人蔵
250	歌川国芳	猫の当字　うなぎ	天保14年(1843)	大判錦絵	和泉市久保惣記念美術館
251	歌川国芳	絵鏡台合かゝ身(みみずく・獅子・般若面)	天保後期	団扇絵二枚組	個人蔵
252	歌川国芳	流行猫の曲手まり	天保12年(1841)	大判錦絵	個人蔵
253	歌川国芳	猫の源氏　賢木	天保後期	団扇絵	個人蔵
254	歌川国芳	くつろぐ夏の猫美人たち	天保後期	団扇絵	個人蔵
255	歌川国芳	猫の歌舞伎　出語り図	天保後期	団扇絵	個人蔵
256	歌川国芳	二面臚猫絵	天保後期	団扇絵	個人蔵
257	歌川国芳	猫のけん	天保後期	団扇絵	渡邊木版美術画舗
258	歌川国芳	猫のおどり	天保12年(1841)頃	団扇絵	渡邊木版美術画舗
259	歌川国芳	猫のおどり	天保12年(1841)頃	団扇絵	個人蔵
260	歌川国芳	おぼろ月猫の盛	弘化3年(1846)	団扇絵	個人蔵
261	歌川国芳	猫のけいこ	天保後期	団扇絵	渡邊木版美術画舗
262	歌川国芳	猫のすみ	天保後期	団扇絵	渡邊木版美術画舗

11. 浅野竹二の木版世界

〔平成29年5月20日－7月2日〕

開催主旨：

「生きるとは、楽しむことである。それには自由でなければならない。」と浅野竹二の版画の世界が我々に語りかける。

京都生まれで今から約20年前に京都に没した浅野竹二(1900-1999)は、はじめ日本画家を志し、やがて木版画家に転向、明朗で光にあふれた独特の全国名所絵で知られるところとなった。大阪、京都、東京など、温かみのある多色木版画の全国名所絵シリーズでは、ちょっとした全国漫遊、楽しい小旅行気分を味わえる。

そして自分で描き、彫り、摺る創作木版画を好むようになり、浅野の作品世界は大きく変化する。版木の中に誰も見たことのないような柔らかく、穏やかで、ぽかぽかとした春の日差しのような世界を作り出していった。

昭和35年、アメリカの社会派の画家ベン・シャーンが突如京都の浅野のアトリエを訪ね、浅野の作品を賞賛した。この時から二人ふたりの交流が始まり、この出会いが、浅野の独自の世界の創出にさなる力を与えた。浅野の作品に、幼児性とも取れるほどの単純さ、大胆さ、純粋さ、そして愉快さをもたらしたのである。しかしこの浅野作品には、独特の人生哲学が含まれている。つまり、生きることを人間を中心に考えるのではなく、動物たちにも含めて、命たちの営みとして、命の「ひとときの輝き」として愉快さを持って語っているのである。あつげらかんとして、生きることをなんの屈託もなく、心からの喜びの笑い声として描いている。

本展は、関西では高い評価を受けてきたユマニスト木版画家・浅野竹二の世界を、関東圏で初めてまとめて紹介する機会となった。

出品作品

No.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
1	新京名所 河原町明方小雨	昭和6-7年(1931-32)、昭和9年(1934)摺	木版・紙	府中市美術館
2	新京名所 朝方四条遠望	昭和6-7年(1931-32)、昭和9年(1934)摺	木版・紙	府中市美術館
3	新大阪風景 大阪城雨後	昭和8年(1933)	木版・紙	府中市美術館
4	新大阪風景 築港	昭和8年(1933)	木版・紙	府中市美術館
5	新大阪風景 中の島公園月夜	昭和8年(1933)	木版・紙	府中市美術館
6	新大阪風景 北浜雪景	昭和7-9年(1932-34)	木版・紙	府中市美術館
7	新大阪風景 都島曇日	昭和9年(1934)	木版・紙	府中市美術館
8	新大阪風景 新淀川名月	昭和9年(1934)	木版・紙	府中市美術館
9	京洛名利雪月花 黄檗山初秋	昭和15年(1940)	木版・紙	府中市美術館
10	京洛名利雪月花 寂光院紅葉	昭和15年(1940)	木版・紙	府中市美術館
11	奈良名勝 南円堂雨	昭和23年(1948)	木版・紙	府中市美術館
12	奈良名勝 春日神社	昭和23年(1948)	木版・紙	府中市美術館
13	奈良名勝 奈良公園	昭和23年(1948)	木版・紙	府中市美術館
14	近畿名勝 真如堂雪	昭和29年(1954)	木版・紙	府中市美術館
15	近畿名勝 和歌之浦月明	昭和29年(1954)	木版・紙	府中市美術館
16	近畿名勝 嵐山春	昭和29年(1954)	木版・紙	府中市美術館
17	近畿名勝 姫路城	昭和29年(1954)	木版・紙	府中市美術館
18	近畿名勝 興福寺秋	昭和29年(1954)	木版・紙	府中市美術館
19	近畿名勝 住吉神社雪	昭和29年(1954)	木版・紙	府中市美術館
20	京洛名所 三十三間堂初夏	昭和30年(1955)	木版・紙	府中市美術館
21	東京名所 弁慶橋春雨	昭和31年(1956)	木版・紙	府中市美術館
22	東京名所 柳橋月明	昭和31年(1956)	木版・紙	府中市美術館
23	東京名所 増上寺暮色	昭和31年(1956)	木版・紙	府中市美術館
24	東京名所 泉岳寺雨	昭和31年(1956)	木版・紙	府中市美術館

観覧料：

一般400円（320円）、高校生・大学生200円（160円）、

小学生・中学生70円（50円）＊（ ）内は20名以上の団体料金

主催：

府中市美術館

出品点数：

222点

入場者数：

4,401名（開催日数:38日間、一日平均116名）

印刷物：

〔カタログ〕B5判40頁 〔ポスター〕B2判 〔チラシ〕A4判

関連記事：

The Japan Times, May 17, 2017

藤田一人 　『『浅野竹二の木版世界』展 息づくモチベーション』東京新聞

2017年6月2日

「浅野竹二の木版世界」『フローリスト』 2017年7月号

「ユーモラスで大胆な木版世界」、志賀秀孝「心を笑わす『自由版画』」

『版画芸術』 2017年 夏号

No.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
25	東京名所 隅田川初秋	昭和31年(1956)	木版・紙	府中市美術館
26	東京名所 不忍池月明	昭和31年(1956)	木版・紙	府中市美術館
27	東京名所 上野東照宮雪	昭和31年(1956)	木版・紙	府中市美術館
28	東京名所 佃島雪	昭和32年(1957)	木版・紙	府中市美術館
29	東京名所 歌舞伎座	昭和32年(1957)	木版・紙	府中市美術館
30	東京名所 桜田門春色	昭和32年(1957)	木版・紙	府中市美術館
31	続京洛名所 龍安寺石庭	昭和32年(1957)、昭和39年(1964)摺	木版・紙	府中市美術館
32	海山八題 琵琶湖畔草津	昭和33年(1958)	木版・紙	個人蔵
33	海山八題 磐梯山	昭和33年(1958)	木版・紙	府中市美術館
34	海山八題 上高地	昭和34年(1959)	木版・紙	府中市美術館
35	海山八題 東尋坊	昭和34年(1959)	木版・紙	府中市美術館
36	近畿風景 志摩波切	昭和34年(1959)	木版・紙	府中市美術館
37	近畿風景 桂離宮	昭和34年(1959)	木版・紙	府中市美術館
38	近畿風景 瀬峡	昭和34年(1959)	木版・紙	府中市美術館
39	近畿風景 大阪城	昭和34年(1959)	木版・紙	府中市美術館
40	近畿風景 神戸港	昭和35年(1960)	木版・紙	府中市美術館
41	近畿風景 修学院離宮	昭和35年(1960)	木版・紙	府中市美術館
42	近畿風景 比叡山	昭和35年(1960)	木版・紙	府中市美術館
43	近畿風景 吉野山	昭和35年(1960)	木版・紙	府中市美術館
44	近畿風景 鳴門	昭和35年(1960)	木版・紙	府中市美術館
45	近畿風景 浜天津	昭和35年(1960)	木版・紙	府中市美術館
46	瀬戸内海 寒霞溪	昭和35年(1960)	木版・紙	府中市美術館
47	瀬戸内海 阿伏兎岬	昭和35年(1960)	木版・紙	府中市美術館
48	瀬戸内海 屋島遠望	昭和35年(1960)	木版・紙	府中市美術館
49	瀬戸内海 音戸ノ瀬戸	昭和35年(1960)	木版・紙	府中市美術館
50	瀬戸内海 尾ノ道	昭和35年(1960)	木版・紙	府中市美術館
51	瀬戸内海 佐田岬	昭和35年(1960)	木版・紙	府中市美術館
52	瀬戸内海 来島海峡	昭和35年(1960)	木版・紙	府中市美術館
53	瀬戸内海 因島	昭和35年(1960)	木版・紙	府中市美術館
54	九州散見 佐多ノ岬	昭和38年(1963)	木版・紙	府中市美術館
55	九州散見 脇岬	昭和38年(1963)	木版・紙	府中市美術館
56	九州散見 由布岳	昭和38年(1963)	木版・紙	府中市美術館
57	九州散見 平戸	昭和38年(1963)	木版・紙	府中市美術館
58	九州散見 飯田高原	昭和38年(1963)	木版・紙	府中市美術館
59	九州散見 桜島	昭和39年(1964)	木版・紙	府中市美術館
60	九州散見 耶馬溪	昭和39年(1964)	木版・紙	府中市美術館
61	山陰 天ノ橋立	昭和39年(1964)	木版・紙	府中市美術館
62	山陰 五十猛	昭和40年(1965)	木版・紙	府中市美術館
63	山陰 立久恵峡	昭和41年(1966)	木版・紙	府中市美術館
64	日本聚落懐古 大和当麻	昭和42年(1967)	木版・紙	個人蔵
65	日本聚落懐古 播州室津	昭和42年(1967)	木版・紙	個人蔵
66	日本聚落懐古 丹波和知	昭和42年(1967)	木版・紙	個人蔵
67	日本聚落懐古 丹後伊根	昭和42年(1967)	木版・紙	個人蔵
68	日本聚落懐古 能登高屋	昭和42年(1967)	木版・紙	府中市美術館
69	日本聚落懐古 能登福浦	昭和43年(1968)	木版・紙	個人蔵
70	四国散見 足摺岬	昭和43年(1968)	木版・紙	府中市美術館
71	四国散見 面河溪	昭和43年(1968)	木版・紙	府中市美術館
72	四国散見 高知城	昭和43年(1968)	木版・紙	府中市美術館
73	四国散見 宇和島石灯	昭和43年(1968)	木版・紙	府中市美術館
74	四国散見 大歩危	昭和43年(1968)	木版・紙	府中市美術館
75	四国散見 室戸岬	昭和43年(1968)	木版・紙	府中市美術館
76	四国散見 祖谷溪	昭和43年(1968)	木版・紙	府中市美術館
77	四国散見 橘湾	昭和43年(1968)	木版・紙	府中市美術館
78	上信越散見 佐渡尖閣湾	昭和44年(1969)	木版・紙	府中市美術館
79	東北、関東散見 奥入瀬	昭和45年(1970)	木版・紙	個人蔵
80	東北、関東散見 九十九里浜	昭和45年(1970)	木版・紙	個人蔵
81	北海道散見 大沼公園	昭和47年(1972)	木版・紙	個人蔵
82	木場	昭和5年(1930)	木版・紙	個人蔵
83	風景＊	昭和5年(1930)頃	木版・紙	個人蔵
84	池のある風景	昭和24年(1949)	木版・紙	府中市美術館
85	疎水風景＊	昭和24年(1949)頃	木版・紙	個人蔵
86	ピクニック＊	昭和24年(1949)頃	木版・紙	個人蔵

No.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
87	裸婦	昭和29年(1954)	木版・紙	個人蔵
88	サーカスの馬たち	昭和31年(1956)	木版・紙	個人蔵
89	うそぶく牛	昭和31年(1956)	木版・紙	個人蔵
90	自画像	昭和32年(1957)	木版・紙	個人蔵
91	見物人たち	昭和32年(1957)	木版・紙	府中市美術館
92	灯台のある風景	昭和34年(1959)	木版・紙	府中市美術館
93	山B	昭和34年(1959)	木版・紙	府中市美術館
94	川沿いの家々B	昭和34年(1959)	木版・紙	府中市美術館
95	渡船の客たち	昭和34年(1959)	木版・紙	府中市美術館
96	耕す人たち	昭和36年(1961)	木版・紙	個人蔵
97	老婆	昭和38年(1963)	木版・紙	個人蔵
98	廃船群	昭和40年(1965)	木版・紙	府中市美術館
99	雨の埠頭	昭和41年(1966)	木版・紙	府中市美術館
100	雨の人群	昭和41年(1966)	木版・紙	府中市美術館
101	ラッパ吹き	昭和41年(1966)	木版・紙	府中市美術館
102	エフェシスの雨	昭和42年(1967)	木版・紙	府中市美術館
103	水辺の牛	昭和42年(1967)	木版・紙	個人蔵
104	唄う女	昭和43年(1968)	木版・紙	府中市美術館
105	人形使い	昭和43年(1968)	木版・紙	府中市美術館
106	青年	昭和44年(1969)	木版・紙	個人蔵
107	三人の女たち	昭和44年(1969)	木版・紙	府中市美術館
108	ギター弾き	昭和44年(1969)	木版・紙	個人蔵
109	しゃがむ男	昭和45年(1970)	木版・紙	府中市美術館
110	荷持ちの老人	昭和45年(1970)	木版・紙	府中市美術館
111	水どり	昭和45年(1970)	木版・紙	個人蔵
112	海女	昭和45年(1970)	木版・紙	府中市美術館
113	アコーディオン奏者(アコーディオンを弾く人)	昭和46年(1971)	木版・紙	個人蔵
114	街角	昭和46年(1971)	木版・紙	府中市美術館
115	灯台と車	昭和46年(1971)	木版・紙	個人蔵
116	岬の道	昭和46年(1971)	木版・紙	府中市美術館
117	工夫たちと汽車	昭和46年(1971)	木版・紙	個人蔵
118	花の季節	昭和46年(1971)	木版・紙	個人蔵
119	黄色い鳥と赤い鳥	昭和46年(1971)	木版・紙	個人蔵
120	浅瀬をわたる	昭和46年(1971)	木版・紙	個人蔵
121	耳なし芳一	昭和46年(1971)	木版・紙	府中市美術館
122	朝のあいさつ	昭和47年(1972)	木版・紙	個人蔵
123	矛盾	昭和48年(1973)	木版・紙	府中市美術館
124	父と子	昭和48年(1973)	木版・紙	個人蔵
125	女と虫と鳥(女と鳥と虫と)	昭和48年(1973)	木版・紙	個人蔵
126	バイオリン弾き	昭和48年(1973)	木版・紙	個人蔵
127	絵付けする人	昭和49年(1974)	木版・紙	個人蔵
128	網を打つ人(とあみ)	昭和49年(1974)	木版・紙	府中市美術館
129	赤い鳥	昭和49年(1974)	木版・紙	府中市美術館
130	陶工	昭和49年(1974)	木版・紙	府中市美術館
131	舟人	昭和49年(1974)	木版・紙	個人蔵
132	いろはかるた	昭和49年(1974)	木版・紙、筆彩	個人蔵
133	釣り人	昭和50年(1975)	木版・紙	個人蔵
134	水かがみ	昭和50年(1975)	木版・紙	個人蔵
135	鳴	昭和50年(1975)	木版・紙	個人蔵
136	おんどりとめんどり	昭和51年(1976)	木版・紙	府中市美術館
137	静かな朝	昭和51年(1976)	木版・紙	個人蔵
138	汀	昭和51年(1976)	木版・紙	個人蔵
139	蝸牛	昭和51年(1976)	木版・紙	府中市美術館
140	釣り人たち	昭和51年(1976)	木版・紙	府中市美術館
141	佇む鳥	昭和52年(1977)	木版・紙	府中市美術館
142	猫と鳥	昭和52年(1977)	木版・紙	府中市美術館
143	この顔	昭和52年(1977)	木版・紙	個人蔵
144	池畔	昭和52年(1977)	木版・紙	個人蔵
145	鳥と大地	昭和52年(1977)	木版・紙	府中市美術館
146	ふりむく鳥	昭和53年(1978)	木版・紙	個人蔵
147	食卓の猫	昭和53年(1978)	木版・紙	府中市美術館
148	丘の上のギター弾き	昭和53年(1978)	木版・紙	個人蔵

No.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
149	白い馬	昭和54年(1979)	木版・紙	個人蔵
150	黄色いテーブル	昭和54年(1979)	木版・紙	個人蔵
151	木陰	昭和54年(1979)	木版・紙	個人蔵
152	仮面の裸婦	昭和54年(1979)	木版・紙	個人蔵
153	猫	昭和54年(1979)	木版・紙	府中市美術館
154	馬に乗る女	昭和54年(1979)	木版・紙	府中市美術館
155	女とピアノ	昭和55年(1980)	木版・紙	個人蔵
156	鶏と犬と椅子	昭和55年(1980)	木版・紙	個人蔵
157	わなげ	昭和55年(1980)	木版・紙	個人蔵
158	魚をくわえた鳥	昭和55年(1980)	木版・紙	府中市美術館
159	坂道の鳥	昭和56年(1981)	木版・紙	府中市美術館
160	夜のサキソフォン	昭和56年(1981)	木版・紙	個人蔵
161	ロバに乗った人	昭和56年(1981)	木版・紙	個人蔵
162	あか牛	昭和56年(1981)	木版・紙	府中市美術館
163	岸辺の鳥	昭和57年(1982)	木版・紙	個人蔵
164	青い鳥	昭和57年(1982)	木版・紙	府中市美術館
165	雨上り	昭和57年(1982)	木版・紙	個人蔵
166	曼珠沙華	昭和58年(1983)	木版・紙	個人蔵
167	私が歩いている	昭和58年(1983)	木版・紙	個人蔵
168	老人と犬	昭和58年(1983)	木版・紙	府中市美術館
169	虫を見る少女	昭和59年(1984)	木版・紙	府中市美術館
170	黒い帽子	昭和59年(1984)	木版・紙	個人蔵
171	サーカスの仲間	昭和59年(1984)	木版・紙	個人蔵
172	読む人	昭和59年(1984)	木版・紙	府中市美術館
173	立っている毛物	昭和59年(1984)	木版・紙	府中市美術館
174	黄色い馬	昭和61年(1986)	木版・紙	府中市美術館
175	大きな葉と虫	昭和61年(1986)	木版・紙	個人蔵
176	舟にのる鳥	昭和61年(1986)	木版・紙	府中市美術館
177	蛇足 A	昭和62年(1987)	木版・紙	個人蔵
178	和合	昭和62年(1987)	木版・紙	府中市美術館
179	夏	昭和62年(1987)	木版・紙	個人蔵
180	牛のいる風景	昭和62年(1987)	木版・紙	府中市美術館
181	祭の人	昭和62年(1987)	木版・紙	個人蔵
182	眺め	昭和62年(1987)	木版・紙	個人蔵
183	かがみのおどり	昭和62年(1987)	木版・紙	個人蔵
184	朝	昭和63年(1988)	木版・紙	個人蔵
185	小さなまきば	昭和63年(1988)	木版・紙	個人蔵
186	イメージA	昭和63年(1988)	木版・紙	府中市美術館
187	イメージB	昭和63年(1988)	木版・紙	府中市美術館
188	イメージC	昭和63年(1988)	木版・紙	府中市美術館
189	ちくおんき	平成元年(1989)	木版・紙	個人蔵
190	ラッパ吹く少女	平成元年(1989)	木版・紙	個人蔵
191	ラッパを吹く少年	平成元年(1989)	木版・紙	個人蔵
192	バッテンたち	平成元年(1989)	木版・紙	府中市美術館
193	虫のカップル	平成元年(1989)	木版・紙	個人蔵
194	春の野	平成元年(1989)	木版・紙	個人蔵
195	ぜいろくの唄	平成2年(1990)	木版・紙	個人蔵
196	うきよのうた	平成2年(1990)	木版・紙	個人蔵
197	街角	平成2年(1990)	木版・紙	個人蔵
198	無題E(ジャンケン)	平成3年(1991)	木版・紙	個人蔵
199	迷妄	平成3年(1991)	木版・紙	個人蔵
200	裸のいるイメジ	平成3年(1991)	木版・紙	個人蔵
201	無題(同心円三ツ)	平成3年(1991)	木版・紙	個人蔵
202	ONNA 立姿	平成3年(1991)	木版・紙	個人蔵
203	青頭巾	平成3年(1991)	木版・紙	個人蔵
204	やぐら	平成3年(1991)	木版・紙	個人蔵
205	黒白灰色	平成3年(1991)	木版・紙	個人蔵
206	1992/6/13	平成4年(1992)	グワッシュ・紙	個人蔵
207	1992/6/17	平成4年(1992)	グワッシュ・紙	個人蔵
208	1992/6/21	平成4年(1992)	グワッシュ・紙	個人蔵
209	1992/7/14	平成4年(1992)	グワッシュ・紙	個人蔵
210	1993/7/12-1 ATONIE10	平成5年(1993)	グワッシュ・紙	個人蔵

No.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
211	1993/8/20-1	平成5年(1993)	グワッシュ・紙	個人蔵
212	1993/9/28-1	平成5年(1993)	グワッシュ・紙	個人蔵
213	1993/10/22-2 GUZEN2	平成5年(1993)	グワッシュ・紙	個人蔵
214	1994/FEB	平成6年(1994)	グワッシュ・紙	個人蔵
215	1994/FEB 333	平成6年(1994)	グワッシュ・紙	個人蔵
216	1994/FEB	平成6年(1994)	グワッシュ・紙	個人蔵
217	1994/9/21-2	平成6年(1994)	グワッシュ・紙	個人蔵
218	1996/5/18-2	平成8年(1996)	グワッシュ・紙	個人蔵
特別出品1	ベン・シャーン《リルケ『マルテの手記』より 一行の詩のためには… 禽獣を知らねばならぬ》	1968年	リトグラフ・紙	公益財団法人大川美術館
特別出品2	ベン・シャーン《リルケ『マルテの手記』より 一行の詩のためには… 遠くから近づいてくるのが見える別離》	1968年	リトグラフ・紙	公益財団法人大川美術館
特別出品3	ベン・シャーン《リルケ『マルテの手記』より 一行の詩のためには… 思いがけぬ邂逅》	1968年	リトグラフ・紙	公益財団法人大川美術館
特別出品4	ベン・シャーン《リルケ『マルテの手記』より 一行の詩のためには… 愛にみちた多くの夜の回想》	1968年	リトグラフ・紙	公益財団法人大川美術館
特別出品5	ベン・シャーン《三輪車》	1968年	リトグラフ・紙	公益財団法人大川美術館
*No.165《雨上がり》は、都合により不出品。				

12. ぱれたん動物園

〔平成29年7月15日－8月27日〕

開催主旨：

絵の国の妖精「ぱれたん」の案内で府中市美術館の所蔵品を楽しむ
展覧会。シリーズ8回目の開催となった本展のテーマは「動物園」。「ふれあいいクイズパーク」「しましま動物ゾーン」「むら田の動物研究所」「見ないで描けるかな?」「ライオンバス」のコーナーを設けた。またロビーでは、「おりがみサファリ」や、簡単な工作を楽しむ「すいすいジャングル」を設置した。

観覧料：

一般400円（320円）、高校生・大学生200円（160円）、
小学生・中学生70円（50円）＊（ ）内は20名以上の団体料金

主催：

府中市美術館

入場者数：

13,629名（開催日数:38日間、一日平均359名）

印刷物：

〔パンフレット〕B5判16頁 〔ポスター〕B2判 〔チラシ〕A4判

13. フィンランド独立100周年記念 フィンランド・デザイン展

〔平成29年9月9日－10月22日〕

開催主旨：

マリメッコの生地、イッタラやアラビアの食器、アアルトの家具……フィンランド生まれの日用品は、日本で本当に人気がある。今では日本人の暮らしにとけ込んでいると言ってもよいかもしれない。なかにはフィンランドのものとは知らずに使っている方もおられるだろう。では、なぜ遠く離れた国フィンランドのデザインが、これほど私たちの心をとらえるのだろうか。

フィンランド・デザインの核心にあるもの、それは「人間と自然との調和」の理念である。天然素材を活かすことはもちろん、例えば、木の葉型の木皿《レヘテイ》、しずくをイメージしたガラス器《カステヘルミ》など、デザインの中心には自然がある。極寒の冬や夏の白夜など、時に厳しい環境の中でも、森の恵みを大切にして生きるフィンランドの人々の生き方そのものとも言えるかもしれない。実は、こうした人と自然の調和を重んじる自然観は欧米諸国では珍しく、むしろ私たち日本人の伝統に親しいものであるだろう。

さらに、「すべての人の生活、社会に寄り添うデザイン」を目指した日用品は、流行に左右されることなく人々の日常を彩り、長く愛され続けている。家族とともに年を重ねるアアルトの家具、食卓を楽しく飾るカイ・フランクの食器、赤ちゃんからおばあちゃんまで似合うマリメッコのドレス。私たちは、デザインを通して、目の前の生活、ささやかな幸せを大切にするフィンランドのライフスタイルに触れ、憧れを抱いているのかもしれない。

フィンランド独立100年を記念する本展では、19世紀末の工芸品から今日第一線で活躍するデザイナーまで、フィンランド・デザインの歩みのすべてをご覧いただいた。実際に名作の椅子に座れるコーナー、気軽に参加いただけるミニワークショップなども用意し、緑豊かな都立府中の森公園に立地する美術館で、フィンランドの暮らしを感じていただく機会となった。

観覧料：

一般900円（720円）、高校生・大学生450円（360円）、小学生・中学生200円（160円）＊（ ）内は20名以上の団体料金

主催：

府中市美術館、日本経済新聞社

後援：

フィンランド大使館、フィンランドセンター

特別協力：

フィンランド政府観光局、日本フィンランド協会、アルテック、イッタラ（フィスカース・グループ）、スキャンデックス、タトル・モリ エイジェンシー、マリメッコ社、ルック

協力：

フィンエアー、フィンエアーカーゴ

協賛：

大伸社

企画協力：

キュレイターズ

出品点数：

678点

入場者数：

27,938名（開催日数:38日間、一日平均735名）

印刷物：

〔カタログ〕A4判変型240頁 〔ポスター〕B2判

〔チラシ〕A4判三つ折り6頁

関連記事：

五十嵐英美 「暮らしになじむデザイン 府中市美術館」 毎日新聞
2017年9月30日

「フィンランド独立100周年 フィンランド・デザイン展」 『フローリスト』
2017年10月号

「フィンランド・デザインを存分に」 『FLYING POSTMAN PRESS』

2017年10月号

『『フィンランド・デザイン展』より 北欧デザインが愛される理由』

『時空旅人』2017年10月号

14. 正宗得三郎

〔平成29年11月3日－12月28日〕

開催主旨：

「音楽のように色彩（気韻）で、生き生き（生動）と絵を描きたい!」

正宗得三郎は、昭和37年（1962）79才まで片時も休まず制作を続け、誰も到達できない独自の高みへと至った。

明治16年（1883）に穏やかな瀬戸内海に面する岡山備前市の、文芸を愛する旧家（長兄は小説家正宗白鳥、次兄に国文学者正宗敦夫）に生まれ、はじめは日本画家を、つぎに油彩画家を志し東京美術学校に入学。一学年上の明治の天才画家青木繁から、絵画に対する「情熱」のその激しさを学んだ。卒業後、渡仏し、モネからは、直接出会って「光」を、さらにマティスからは、「色彩」の響きを学んだ。

しかし、第一次大戦では、留学を中断され、中野に建てたアトリエも太平洋戦争の空襲によって、作品は全て焼失。やむなく知人を頼り長野県飯田に疎開。信州の豊かな山河に囲まれ、馴れない畑仕事に汗を流すうちに、季節に輝く山河の彩りと山里の人々の深い温もりに接した。西洋に学び、南画を愛し、山里に暮らしたことで絵に変化が生まれた。戦後から没年まで武蔵野の緑豊かな府中を描き続けたのである。正宗は、最後の文人画家、富岡鉄斎の作品を研究し、日本の風景を、明るく澄んだ色彩で、柔らかな「心」の理想郷として油彩画に描いた。

年下で無名の長谷川利行の絵をどうしても評価しない審査委員に、「この絵は、私たちの先生の絵だ」と激しく主張し、頬を紅潮させた画家。

先人に学び、誰の評価も求めず、ただ一人、我が道を絵に描き、描いた道を歩み続けた画家。

二科会、二紀会の重鎮でありながら、頑として絵と向き合い続けた画家。正宗の戦中の飯田時代、戦後の府中時代の作品約110点を紹介した。

出品作品

No.	作者	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
1	正宗得三郎	海の景色	明治42年(1909)	油彩、板	個人蔵
2	正宗得三郎	波(伊豆白浜)	明治42年(1909)	油彩、キャンバス	個人蔵
3	正宗得三郎	小石川植物園の春	明治43年(1910)	油彩、板	個人蔵
4	正宗得三郎	夕日の反映(秋の山)	明治43年(1910)	油彩、麻布	茅野市教育委員会
5	正宗得三郎	河港	明治44年(1911)頃	油彩、キャンバス	岡山県立美術館
6	正宗得三郎	巴里市の一部	大正3年(1914)	油彩、キャンバス	岡山県立美術館
7	正宗得三郎	パリの公園	大正3年(1914)	油彩、キャンバス	岡山県立美術館
8	正宗得三郎	婦人像(ノリジェヌ)	大正3年(1914)	油彩、キャンバス	岡山県立美術館
9	正宗得三郎	トックの女	大正3年(1914)	油彩、キャンバス	府中市美術館
10	正宗得三郎	ヴェティユの春	大正3年(1914)	油彩、キャンバス	三重県立美術館
11	正宗得三郎	新緑の巴里	大正4年(1915)	油彩、キャンバス	府中市美術館
12	正宗得三郎	ノートルダム寺院	大正4年(1915)	油彩、キャンバス	府中市美術館
13	アンリ・マティス	正宗得三郎の顔	大正5年(1916)	鉛筆、紙	府中市美術館
14	正宗得三郎	室内	大正5年(1916)	油彩、キャンバス	飯田市美術博物館
15	正宗得三郎	郊外(初秋)	大正6年(1917)	油彩、キャンバス	府中市美術館
16	正宗得三郎	山村雪景図	大正6年(1917)	油彩、キャンバス	府中市美術館
17	正宗得三郎	庭前小景	大正8年(1919)	油彩、キャンバス	府中市美術館
18	正宗得三郎	庭前小景	大正8年(1919)頃	油彩、キャンバス	飯田市美術博物館
19	正宗得三郎	早川	大正10年（1921）頃	油彩、キャンバス	飯田市美術博物館
20	正宗得三郎	モレー運河	大正12年(1923)	油彩、キャンバス	飯田市美術博物館
21	正宗得三郎	秋林	大正12年(1923)	油彩、キャンバス	岡山県立美術館
22	正宗得三郎	巴里・顔	制作年不詳	油彩、キャンバス	個人蔵
23	正宗得三郎	ナパリの女	制作年不詳	油彩、キャンバス	岡山県立美術館

観覧料：

一般700円（560円）、高校生・大学生350円（280円）、

小学生・中学生150円（120円）＊（　）内は20名以上の団体料金

主催：

府中市美術館

出品点数：

114点

入場者数：

4,283名（開催日数:48日間、一日平均89名）

印刷物：

〔カタログ〕B5判212頁　〔ポスター〕B2判

〔チラシ〕A4判

関連イベント：

〔日曜スライドトーク〕

志賀秀孝（当館学芸係長）、毎週日曜日、講座室（144名）

関連記事：

小川雪　「油彩画と南画　つながり探る　東京　洋画家・正宗得三郎の

回顧展」　朝日新聞　2017年12月19日

No.	作者	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
24	正宗得三郎	パリのアトリエ	大正12年(1923)	油彩、キャンバス	岡山県立美術館
25	正宗得三郎	静物	制作年不詳	油彩、キャンバス	個人蔵
26	正宗得三郎	静物(スイカ・いちじく・プラム・ぶどう)	制作年不詳	油彩、キャンバス	府中市美術館
27	正宗得三郎	四万温泉	大正14年(1925)	油彩、キャンバス	府中市美術館
28	正宗得三郎	赤い支那服	大正14年(1925)	油彩、キャンバス	府中市美術館
29	正宗得三郎	支那服	大正14年(1925)	油彩、キャンバス	府中市美術館
30	正宗得三郎	野母岬(長崎)	制作年不詳	油彩、キャンバス	個人蔵
31	正宗得三郎	初秋の窓	昭和8年(1933)	油彩、キャンバス	府中市美術館
32	正宗得三郎	静物(南洋土産)	制作年不詳	油彩、キャンバス	飯田市美術博物館
33	正宗得三郎	静物(東中野にて)	昭和12年(1937)	油彩、キャンバス	個人蔵
34	正宗得三郎	黎明　伊豆山	昭和11年(1936)	油彩、キャンバス	飯田市美術博物館
35	正宗得三郎	野川図(於三穂村舎)	制作年不詳	油彩、キャンバス	飯田市美術博物館
36	正宗得三郎	白浜の波	昭和13年(1938)頃	油彩、キャンバス	府中市美術館
37	正宗得三郎	バラ	制作年不詳	油彩、キャンバス	府中市美術館
38	正宗得三郎	しゃらの花(夏椿)	昭和16年(1941)頃	油彩、キャンバス	飯田市美術博物館
39	正宗得三郎	鳳凰堂	昭和16年(1941)	油彩、キャンバス	飯田市美術博物館
40	正宗得三郎	バラ	昭和17年(1942)	油彩、キャンバス	飯田市美術博物館
41	正宗得三郎	神話	昭和18年(1943)	油彩、キャンバス	岡山県立美術館
42	正宗得三郎	森杏奴	昭和18年(1943)	油彩、キャンバス	岡山県立美術館
43	正宗得三郎	椿図	昭和20年(1945)	油彩、キャンバス	岡山県立美術館
44	正宗得三郎	夕映(三穂村)	昭和20年(1945)	油彩、キャンバス	飯田市美術博物館
45	正宗得三郎	三穂村舎	制作年不詳	墨画淡彩、紙本	飯田市美術博物館
46	正宗得三郎	三穂村雪景	昭和22年(1947)頃	油彩、キャンバス	府中市美術館
47	正宗得三郎	(原題不明)	制作年不詳	油彩、キャンバス	個人蔵
48	正宗得三郎	雨後	昭和23年(1948)頃	油彩、キャンバス	飯田市美術博物館
49	正宗得三郎	三穂の月	昭和26年(1951)	油彩、キャンバス	岡山県立美術館
50	正宗得三郎	小菊と硯板	昭和26年(1951)	油彩、キャンバス	個人蔵
51	正宗得三郎	菊	昭和27年(1952)	油彩、キャンバス	飯田市美術博物館
52	正宗得三郎	花祭	昭和27年(1952)	油彩、板	岡山県立美術館
53	正宗得三郎	レンゲ草	昭和28年(1953)	油彩、キャンバス	個人蔵
54	正宗得三郎	大平街道	昭和27年(1952)	油彩、キャンバス	飯田市美術博物館
55	正宗得三郎	大平峠の若葉	昭和27年(1952)	油彩、キャンバス	飯田市美術博物館
56	正宗得三郎	勝沼のぶどう畑(一)	制作年不詳	油彩、キャンバス	府中市美術館
57	正宗得三郎	富岡鉄斎作「天池石壁図(高青丘詩意)」模写	昭和28年(1953)頃	絹本着色	飯田市美術博物館
58	正宗得三郎	富岡鉄斎作「蓬萊仙境図」模写	制作年不詳	紙本着色	府中市美術館
59	正宗得三郎	富岡鉄斎作「壽星図(画幅)」模写	昭和29年(1954)	紙本着色	飯田市美術博物館
60	正宗得三郎	西府にて	昭和28年(1953)	油彩、キャンバス	府中市美術館
61	正宗得三郎	西府村の梅	昭和29年(1954)	油彩、キャンバス	府中市美術館
62	正宗得三郎	ぶどう	昭和29年(1954)	油彩、キャンバス	個人蔵
63	正宗得三郎	府中並木	昭和31年(1956)	油彩、キャンバス	府中市美術館
64	正宗得三郎	櫛並木(府中)	昭和30年(1955)頃	油彩、キャンバス	府中市美術館
65	正宗得三郎	並木若葉(府中)	制作年不詳	油彩、キャンバス	個人蔵
66	正宗得三郎	海景(伊豆の海)	制作年不詳	油彩、キャンバス	府中市美術館
67	正宗得三郎	鎮守の森	昭和29年(1954)	油彩、キャンバス	府中市美術館
68	正宗得三郎	雀島　伊豆風景	昭和30年(1955)	油彩、キャンバス	飯田市美術博物館
69	正宗得三郎	伊豆海岸夕焼	昭和30年(1955)	油彩、キャンバス	飯田市美術博物館
70	正宗得三郎	磯馴松(仏浦)	昭和30年(1955)	油彩、キャンバス	府中市美術館
71	正宗得三郎	蓑掛島(大瀬吉子の浜)	昭和30年(1955)	油彩、キャンバス	岡山県立美術館
72	正宗得三郎	夏山(多摩地方)	制作年不詳	油彩、キャンバス	岡山県立美術館
73	正宗得三郎	江の浦	制作年不詳	油彩、キャンバス	個人蔵
74	正宗得三郎	朝陽　わが家の野道(西府村)	制作年不詳	油彩、キャンバス	個人蔵
75	正宗得三郎	富岡鉄斎作「武陵桃源図」模写	昭和30年(1955)頃	絹本着色	飯田市美術博物館
76	正宗得三郎	近江八景図	制作年不詳	紙本着色	飯田市美術博物館
77	正宗得三郎	富岡鉄斎作「朱描鐘鬼図」模写	昭和31年(1956)	絹本着色	飯田市美術博物館
78	正宗得三郎	富岡鉄斎作「江山」模写	昭和31年(1956)	紙本着色	府中市美術館
79	正宗得三郎	富岡鉄斎作「天保九如」模写	制作年不詳	紙本着色	府中市美術館
80	正宗得三郎	富岡鉄斎作「竹林の図」模写	制作年不詳	紙本着色	府中市美術館
81	正宗得三郎	霊泉図	制作年不詳	紙本着色	飯田市美術博物館
82	正宗得三郎	東海の富士	制作年不詳	油彩、キャンバス	岡山県立美術館
83	正宗得三郎	国上山遠望	制作年不詳	油彩、キャンバス	岡山県立美術館
84	正宗得三郎	府中櫛並木	昭和31年(1956)	油彩、キャンバス	岡山県立美術館
85	正宗得三郎	アトリエと八日月	昭和32年(1957)	油彩、キャンバス	岡山県立美術館

No.	作者	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
86	正宗得三郎	撃壤図(富岡鉄斎作「山居安遇図」の模写)	昭和32年(1957)	絹本著色	個人蔵
87	正宗得三郎	菜の花つみ	制作年不詳	油彩、キャンバス	個人蔵
88	正宗得三郎	(姉妹)	制作年不詳	油彩、キャンバス	個人蔵
89	正宗得三郎	朝鮮あざみ	制作年不詳	油彩、キャンバス	個人蔵
90	正宗得三郎	大あざみ	昭和33年(1958)	油彩、キャンバス	個人蔵
91	正宗得三郎	旧府中駅北	制作年不詳	油彩、板	個人蔵
92	正宗得三郎	千葉海岸遠望	昭和33年(1958)	油彩、キャンバス	飯田市美術博物館
93	正宗得三郎	巖島	制作年不詳	油彩、キャンバス	ひろしま美術館
94	正宗得三郎	旧府中警察	制作年不詳	油彩、キャンバス	府中市美術館
95	正宗得三郎	静物(伊太利壺と柑橘図)	昭和33年(1958)	油彩、キャンバス	個人蔵
96	正宗得三郎	静物と果物(ぶどう、りんご、みかん)	制作年不詳	油彩、キャンバス	個人蔵
97	正宗得三郎	縁側の静物	昭和33年(1958)	油彩、キャンバス	個人蔵
98	正宗得三郎	(秋景)	制作年不詳	油彩、キャンバス	府中市美術館
99	正宗得三郎	八幡宮の山桜(武野車返)	昭和34年(1959)	油彩、キャンバス	府中市美術館
100	正宗得三郎	イラン壺と大菊	昭和35年(1960)頃	油彩、キャンバス	飯田市美術博物館
101	正宗得三郎	巖と蔓バラ	昭和36年(1961)	油彩、キャンバス	飯田市美術博物館
102	正宗得三郎	ヒマラヤ杉のある家	昭和35年(1960)	油彩、キャンバス	府中市美術館
103	正宗得三郎	府中並木街道	昭和36年(1961)	油彩、キャンバス	個人蔵
104	正宗得三郎	府中けやき並木(わが画室のながめ)	制作年不詳	油彩、キャンバス	個人蔵
105	正宗得三郎	雪の日	制作年不詳	油彩、キャンバス	飯田市美術博物館
106	正宗得三郎	しぐれ芙蓉	昭和35年(1960)	油彩、キャンバス	岡山県立美術館
107	正宗得三郎	白い花(雨)	昭和35年(1960)	油彩、キャンバスボード	個人蔵
108	正宗得三郎	立葵	制作年不詳	油彩、キャンバス	岡山県立美術館
109	正宗得三郎	素園小景	昭和35年(1960)	油彩、キャンバス	府中市美術館
110	正宗得三郎	和羹充夕餐	制作年不詳	紙本墨色	飯田市美術博物館
111	正宗得三郎	やつ頭図	制作年不詳	紙本著色	飯田市美術博物館
112	正宗得三郎	いちご図	制作年不詳	紙本著色	飯田市美術博物館
113	有島生馬	画作中の正宗得三郎	大正9年(1920)	油彩、キャンバス	府中市美術館
114	中川紀元	正宗得三郎(デスマスク)	昭和37年(1962)	紙本墨画	府中市美術館

15. 絵画の現在

〔平成30年1月13日－2月25日〕

開催主旨：

府中市美術館は2000年秋の開館以来、展覧会や公開制作プログラムを通して、現代の絵画を積極的に紹介してきた。その成果の継承・発展を目的に、絵画の「いま」を、個性豊かな作品に探る展覧会を開催した。出品作家は今井俊介、木村彩子＋近藤恵介、近藤亜樹、白井美穂、諏訪未知、津上みゆき、福士朋子の7組であった。

会場には、風景に人物、抽象表現に立体が少し、小ぶりのスケッチから体を包み込むような大画面まで、形式も大きさも実に多様な「絵画」が並んだ。鮮やかな色に溺れ、力強いストロークのしぶきを浴び、時に知的なゲームに思いを巡らす。冬の府中にいつとき出現する絵画の海原に、身と心を浸していただく機会となった。

観覧料：

一般700円（560円）、高校生・大学生350円（280円）、

小学生・中学生150円（120円）＊（ ）内は20名以上の団体料金

主催：

府中市美術館

出品点数：

103点

入場者数：

4,957名（開催日数:38日間、一日平均130名）

印刷物：

〔カタログ〕 A4判112頁、別冊 A6判変型20頁

〔ポスター〕 B2判 〔チラシ〕 A4判

関連イベント：

〔アーティスト・トーク〕

近藤亜樹、1月13日、企画展示室（30名）

今井俊介・木村彩子、1月21日、企画展示室（40名）

白井美穂・諏訪未知、2月4日、企画展示室（80名）

津上みゆき・福士朋子、2月11日、企画展示室（40名）

〔絵画をめぐるトーク〕

出品作家、2月25日、講座室（74名）

〔ワークショップ「ほほ津上さん@あなたの府中」〕

津上みゆき、2月17日、創作室（19名）

関連記事：

大西若人 「響き合う抽象と具象 東京で二つの美術展 線を追求・

フィルムも画材 個々の持ち味自然に表現」朝日新聞 2018年2月6日

窪田直子 「目に映るものを描く『絵画の現在』展」日本経済新聞

2018年1月31日

渋谷和彦 「平面の可能性追求『絵画の現在』展」産経新聞

2018年2月1日

出品作品

No.	作者	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
SI-1	今井俊介	untitled	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
SI-2	今井俊介	untitled	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
SI-3	今井俊介	untitled	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
SI-4	今井俊介	untitled	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
SI-5	今井俊介	untitled	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
SK-1	木村彩子	たんぽぽ	2008年	油彩、綿カンバス	作家蔵
SK-2	木村彩子	オトコエシ	2008年	油彩、綿カンバス	作家蔵
SK-3	木村彩子	池のはとり	2011年	油彩、綿カンバス	作家蔵
SK-4	木村彩子	ねこじゃらし	2011年	油彩、綿カンバス	作家蔵
SK-5	木村彩子	雨の日	2015年	油彩、綿カンバス	作家蔵
SK-6	木村彩子	植物5月11日(a)	2017年	油彩、綿カンバス	作家蔵
SK-7	木村彩子	植物5月11日(b)	2017年	油彩、綿カンバス	作家蔵
SK-8	木村彩子	植物9月12日	2017年	油彩、綿カンバス	作家蔵
SK-9	木村彩子	植物9月22日	2017年	油彩、綿カンバス	作家蔵
SK-10	木村彩子	植物9月28日(a)	2017年	油彩、綿カンバス	作家蔵
SK-11	木村彩子	植物9月28日(b)	2017年	油彩、綿カンバス	作家蔵
SK-12	木村彩子	風景9月28日(海)	2017年	油彩、綿カンバス	作家蔵
SK-13	木村彩子	風景(写生)10月12日	2017年	油彩、綿カンバス	作家蔵
SK/ KK-1	木村彩子 ＋近藤恵介	□と□	2015年	油彩、綿カンバス／岩絵の具、水干、膠、墨、鳥の子紙、板、ボールペン、透明白彩	作家蔵
SK/ KK-2	木村彩子 ＋近藤恵介	画家のサイレンスの部分	2017年	シーツ(麻布)に油彩、膠彩、ペン、色鉛筆／木材、クリップ、金具	作家蔵
AK-1	近藤亜樹	はぐをきみのお嬢さんにして。	2012年	油彩、パネル	作家蔵
AK-2	近藤亜樹	アニエス	2013年	油彩、パネル	作家蔵
AK-3	近藤亜樹	おむすび	2013年	油彩、パネル	作家蔵
AK-4	近藤亜樹	Song for Artists	2016年	油彩、パネル	作家蔵

No.	作者	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
AK-5	近藤亜樹	島へ	2017年	アクリル、紙	作家蔵
AK-6	近藤亜樹	アトム	2017年	アクリル、紙	作家蔵
AK-7	近藤亜樹	土左衛門	2017年	アクリル、紙	作家蔵
AK-8	近藤亜樹	無罪	2017年	アクリル、紙	作家蔵
AK-9	近藤亜樹	音楽家の音のない家	2017年	アクリル、紙	作家蔵
AK-10	近藤亜樹	キャッチ	2017年	アクリル、紙	作家蔵
AK-11	近藤亜樹	小屋	2017年	アクリル、紙	作家蔵
AK-12	近藤亜樹	ヨハネ	2017年	アクリル、紙	作家蔵
AK-13	近藤亜樹	音楽室のかた	2017年	アクリル、紙	作家蔵
AK-14	近藤亜樹	ゴリラ	2017年	アクリル、紙	作家蔵
AK-15	近藤亜樹	醤油魔神	2017年	アクリル、紙	作家蔵
AK-16	近藤亜樹	タネ	2017年	アクリル、紙	作家蔵
AK-17	近藤亜樹	タカシ	2017年	アクリル、紙	作家蔵
AK-18	近藤亜樹	叫び	2017年	アクリル、紙	作家蔵
AK-19	近藤亜樹	インフルエンザ	2017年	アクリル、紙	作家蔵
AK-20	近藤亜樹	醤油会館のピアノ	2017年	アクリル、紙	作家蔵
AK-21	近藤亜樹	カチカチヤマ	2017年	アクリル、紙	作家蔵
AK-22	近藤亜樹	23時のラブレター	2017年	アクリル、紙	作家蔵
AK-23	近藤亜樹	パン屋	2017年	アクリル、紙	作家蔵
AK-24	近藤亜樹	盗人	2017年	アクリル、紙	作家蔵
AK-25	近藤亜樹	山の仏さま	2017年	アクリル、紙	作家蔵
MSH-1	白井美穂	Orbit	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
MSH-2	白井美穂	Passage	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
MSH-3	白井美穂	Dry Green Sea	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
MSH-4	白井美穂	Dry Green(タイトル確認)	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
MSH-5	白井美穂	Green Sea(タイトル確認)	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
MSH-6	白井美穂	Spiral - 1 渦を巻く	2017年	木、布、針金、フォーム、アクリル	作家蔵
MSH-7	白井美穂	Spiral - 2 渦を巻く	2017年	木、布、フォーム、アクリル絵具	作家蔵
MSH-8	白井美穂	Spiral - 3 渦を巻く	2017年	木、布、フォーム、アクリル絵具	作家蔵
MSH-9	白井美穂	Cosmicomics (Sandwich Man)	2017年	布、皮、アクリル、木	作家蔵
MSU-1	諏訪未知	かどで揺れる	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
MSU-2	諏訪未知	したかう床	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
MSU-3	諏訪未知	にぎやかな柱	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
MSU-4	諏訪未知	柱(上)	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
MSU-5	諏訪未知	柱(下)	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
MSU-6	諏訪未知	そこ(置き換える)	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
MSU-7	諏訪未知	となりどうし(トリオ)左	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
MSU-8	諏訪未知	となりどうし(トリオ)中	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
MSU-9	諏訪未知	となりどうし(トリオ)右	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
MSU-10	諏訪未知	そこ(前後)	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
MSU-11	諏訪未知	そこ(束ねる)	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
MSU-12	諏訪未知	そこ(支え)	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
MSU-13	諏訪未知	そこ(ロープ)	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
MSU-14	諏訪未知	そこ(棒)	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
MSU-15	諏訪未知	支えている瓶(天板)	2017年	木、アクリル絵具、ガラス瓶	作家蔵
MSU-16	諏訪未知	垂直なたわみ	2017年	木、アクリル絵具	作家蔵
MSU-17	諏訪未知	支えている瓶(棒)	2017年	木、アクリル絵具、ガラス瓶	作家蔵
MT-1	津上みゆき	View on the banks of thames, 4-14 Mar.14	2014年	顔料、アクリル、その他、カンバス	作家蔵
MT-2	津上みゆき	View on the banks of thames, 4-14 Mar.14	2014年	顔料、アクリル、その他、カンバス	個人蔵
MT-3	津上みゆき	View, Tokyo Merry-go-round, Winter, 2017	2017年	顔料、アクリル、リネン	個人蔵
MT-4	津上みゆき	View, Following the flow, 25 Aug. 2017, 10:56am	2017年	顔料、アクリル、その他、カンバス	作家蔵
MT-5	津上みゆき	View, Following the flow, 25 Aug. 2017, 1:42pm	2017年	顔料、アクリル、その他、カンバス	作家蔵
MT-6	津上みゆき	View, Following the flow, 25 Aug. 2017, 3pm	2017年	顔料、アクリル、その他、カンバス	作家蔵
MT-7	津上みゆき	View, Following the flow, 25 Aug. 2017, 5:27pm	2017年	顔料、アクリル、その他、カンバス	作家蔵
MT-8	津上みゆき	(ドローイング)	2016-2017年	—	作家蔵

No.	作者	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
TM-1	福士朋子	床の間 - David	2010年	油性マジック、マグネット、ホワイトボード消し、ホワイトボード	作家蔵
TM-2	福士朋子	黄色い部屋の外	2015年	油性マジック、マグネット、ホワイトボード	作家蔵
TM-3	福士朋子	スベア スベア スベア	2011年	油性マジック、マグネットシート、ホワイトボード	作家蔵
TM-4	福士朋子	着陸と離陸	2011年	油性マジック、ホワイトボード	作家蔵
TM-5	福士朋子	つかんでみた	2011年	油性マジック、マグネットシート、マグネット、ホワイトボード	作家蔵
TM-6	福士朋子	探しもの	2011年	油性マジック、マグネットシート、マグネット、ホワイトボード	作家蔵
TM-7	福士朋子	反転書道	2012年	油性マジック、ホワイトボード	作家蔵
TM-8	福士朋子	景色<旗>	2012年	油性マジック、マグネットシート、ホワイトボード	作家蔵
TM-9	福士朋子	景色<旗>(アイスクャンデー)	2013年	油性マジック、マグネットシート、ホワイトボード	作家蔵
TM-10	福士朋子	ギモン	2012年	油性マジック、マグネットシート、ホワイトボード	作家蔵
TM-11	福士朋子	右翼/左翼	2012年	油性マジック、マグネットシート、ホワイトボード	作家蔵
TM-12	福士朋子	pass	2013年	油性マジック、マグネットシート、マグネット、ホワイトボード	作家蔵
TM-13	福士朋子	put on	2013年	油性マジック、マグネットシート、ホワイトボード	作家蔵
TM-14	福士朋子	put off	2013年	油性マジック、マグネットシート、ホワイトボード	作家蔵
TM-15	福士朋子	天と地と 3	2013年	油性マジック、マグネットシート、ホワイトボード	作家蔵
TM-16	福士朋子	西と東	2013年	油性マジック、ホワイトボード	作家蔵
TM-17	福士朋子	キボウ	2013年	油性マジック、ホワイトボード	作家蔵
TM-18	福士朋子	監視	2015-2017年	油性マジック、マグネットシート、ホワイトボード	作家蔵
TM-19	福士朋子	inside / outside 2	2017年	油性マジック、マグネットシート、マグネット、ホワイトボード	作家蔵
TM-20	福士朋子	虚と実	2017年	油性マジック、マグネットシート、ホワイトボード	作家蔵
TM-21	福士朋子	untitled	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
TM-22	福士朋子	untitled	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
TM-23	福士朋子	untitled	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵
TM-24	福士朋子	untitled	2017年	アクリル、カンバス	作家蔵

16. リアル 最大の奇抜

〔平成30年3月10日－5月6日〕

開催主旨：

リアルに描くことは美術の基本、そう考えている人は少なくない。明治時代の欧化政策を背景に、近代以降、西洋の画法をあらゆる美術の基本とする考え方が日本に定着したからだろう。しかしそれは、言うまでもなく近代の話であり、きわめて限られた「リアル」のあり方である。古くからの日本の絵画を思い浮かべてみると、迫真性にこだわらない、純粋な色や形そのものから醸し出される美しさは、日本絵画の大きな魅力だった。

江戸時代になると、そんな日本の絵画の「美しいものづくり」のうえでは必要とされなかった、あるいは意識外だったことを追及する画家が現れる。その一人が円山応挙である。応挙は、徹底した「リアル」の画家である。目に映るありさまを冷静に分析して画面に表してあらわしてみる、いわば既成の美の手段を破壊した創作者だった。

「画を求めるなら自分に、図を求めるなら円山応挙に頼めばよい」。これは、今日「奇想の画家」と呼ばれる曾我蕭白が語ったと伝えられる言葉である。人気の応挙を向こうに回し、個性で勝負する蕭白の意気を示すものとして、よく知られている。しかし、蕭白といえば、中世以来の禅画の創作精神をも汲む画家である。見方を変えれば、旧来の芸術観をもつ蕭白にとって、科学的な目や技術から新しい絵づくりを試みた応挙の作品は、もはや別世界のものだったのかもしれない。たとえこの言葉が蕭白自身のものではなかったとしても、当時の人々の「リアル」に対する一つのひとつの受け取り方を示す、非常に興味深い内容ではないだろうか。

江戸時代中期以降、応挙や江戸の司馬江漢ら、さまざまな画家たちが、思い思いに手法を考え、迫真的に表すことから生まれる未知の絵画の魅力を探っている。西洋絵画を目標にした明治以降とは違い、彼らの作品は、見た日も技法も多様である。また、それまでの「絵画の美とはこうあるべきだ」という考えや美意識と葛藤する様子、あるいは融合を試みる様子もみられる。

ともすると近代の先駆けとみなされることの多い江戸時代の「リアル」だが、本展ではそのようなことに縛られずに、むしろそれを疑いつつ、作品に向き合うことを主眼とした。未知の領域に挑む画家たちの、濃密で素晴らしい創作の数々をご覧ください。

出品作品

No.	作者	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
1	森狙仙	群獣図巻	19世紀前半	絹本着色	個人蔵
2	森狙仙	萩に鹿図	18世紀後半－19世紀前半	絹本着色	個人蔵
3	呉春	雨中鹿図	18世紀後半－19世紀前半	紙本墨画淡彩	個人蔵
4	森狙仙	紅葉に鹿図	18世紀後半－19世紀前半	絹本着色	個人蔵
5	森狙仙	梅猿図	18世紀後半－19世紀前半	絹本着色	個人蔵
6	呉春	猪図	享和3年(1803)	絹本着色	滋賀県立琵琶湖文化館
7	織田瑟々	異牡丹桜真図	文政11年(1828)	絹本着色	西宮市笹部桜コレクション(白鹿記念酒造博物館寄託)
8	織田瑟々	忠則桜八幡太郎旗桜上野白桜三交図	文化15年(1818)	絹本着色	個人蔵
9	原在中	木蓮二牡丹図	18世紀後半	絹本着色	敦賀市立博物館
10	岸駒	花鳥図	天明元年(1781)	絹本着色	敦賀市立博物館
11	原在中	鶏頭花図	18世紀後半	絹本着色	敦賀市立博物館
12	岸駒	枇杷に蜻蛉図	18世紀後半－19世紀前半	絹本着色	個人蔵
13	土方稲嶺	群鶴図	18世紀後半	絹本着色	府中市美術館
14	岸駒	老松双鶴図	18世紀後半－19世紀前半	絹本着色	個人蔵
15	張月樵	花鳥図	18世紀後半－19世紀前半	絹本着色	敦賀市立博物館

観覧料：

一般700円（560円）、高校生・大学生350円（280円）、

小学生・中学生150円（120円）＊（ ）内は20名以上の団体料金

主催：

府中市美術館

出品点数：

119点

入場者数：

12,145名（開催日数:51日間、一日平均238名）

印刷物：

〔カタログ〕A4判変型240頁　〔ポスター〕B2判

〔チラシ〕A4判二つ折り4頁

関連イベント：

〔20分スライドレクチャー〕

金子信久（当館学芸員）、毎週日曜日、講座室（307名）

〔展覧会講座「リアルー江戸絵画を面白くしたもの」〕

金子信久（当館学芸員）、5月5日、講座室（120名）

〔子ども向けイベント　リアル探検隊!〕

会期中随時（5,060名）

関連記事：

金子信久　「未知の領域に挑む画家たち　春の江戸絵画まつり　リアル最大の奇抜」『美術の窓』　2018年2月号

岩城摂　「太平の世　地方絵師の斬新さ　らせんに泳ぐ鯉＊大きな鼻の美人画…」　読売新聞　2018年4月12日

森本末紀　「江戸絵画　多様に　自由に　写実の趣　西洋・中国から刺激@東京」　朝日新聞

2018年4月24日

「『リアル　最大の奇抜』展　細部と臨場感、そしてー」『いけ花龍生』

697
2018年5月

「『奇想』の日本画と双壁をなす「写生」の魅力　円山応挙による日本式リアリズム」『2018年最強美術展ベストランキング』　2018年1月

No.	作者	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
16	張月樵	長春孔雀図	18世紀後半－19世紀前半	絹本着色	滋賀県立琵琶湖文化館
17	岡岷山	仏法僧図	明和3年(1766)	絹本着色	広島県立美術館
18	鶴亭	芭蕉太湖石図	宝暦6年(1756)	絹本着色	個人蔵
19	沖一峨	芙蓉に群鴨図	19世紀前半	絹本着色	鳥取県立博物館
20	堀江友声	鯉図	安政6年(1859)	絹本着色	個人蔵
21	亜欧堂田善	墨堤観桜図	19世紀前半	絹本油彩	府中市美術館寄託
22	亜欧堂田善	花下遊楽図	19世紀前半	絹本油彩	立花家史料館
23	司馬長瑛子	従武州芝水田町浜望東南図	19世紀前半	絹本油彩	府中市美術館寄託
24	村松以弘	白糸瀑図(静岡県指定文化財)	19世紀前半	紙本着色	掛川市二の丸美術館
25	小泉斐	黒羽城周辺景觀図(栃木県指定文化財)	文政8年(1825)	絹本着色	大田原市黒羽芭蕉の館
26	原在中	天橋立図	19世紀前半	絹本着色	敦賀市立博物館
27	長谷川雪堤	浅草雪景図	19世紀前半	絹本着色	立花家史料館
28	矢野良勝	全国名勝図巻	18世紀後半－19世紀前半	紙本着色	熊本県立美術館
29	森一鳳	鯉図	19世紀	絹本着色	個人蔵
30	宋紫岡	花籠図	19世紀前半	紙本着色	個人蔵
31	岸竹堂	華厳滝図	19世紀	絹本墨画	敦賀市立博物館
32	岸竹堂	月下狸図	万延元年(1860)	絹本着色	広島県立美術館
33	文筌	架鷹図	16世紀後半	紙本着色	個人蔵
34	岡本秋暉	雪中松鷹図	19世紀前半	絹本着色	個人蔵
35	中林竹溪	松鷹図	19世紀	絹本着色	滋賀県立琵琶湖文化館
36	岡田鶴川	亀図	19世紀	絹本着色	個人蔵
37	狩野探信	花卉草虫図	18世紀後半－19世紀前半	絹本着色	個人蔵
38	片山楊谷	蟹気楼図	18世紀後半	紙本墨画淡彩	渡辺美術館
39	土方稲嶺	東方朔図	18世紀後半	紙本着色	個人蔵
40	土方稲嶺	閨羽図	18世紀後半－19世紀前半	紙本着色	渡辺美術館
41	沖探容	浪兔図	19世紀前半	絹本着色	鳥取県立博物館寄託
42	亜欧堂田善	少女愛犬図	19世紀前半	絹本墨画	個人蔵
43	葛陂古馮	閨羽図	19世紀前半	紙本着色	個人蔵
44	太田洞玉	神農図	18世紀後半	絹本着色	府中市美術館
45	亜欧堂田善	遠藤猪右衛門像	19世紀前半	絹本着色	須賀川市立博物館
46	大久保一丘	伝大久保一岳像	嘉永7年(1854)	絹本着色	府中市美術館
47	祇園井特	歌妓恵以路図	18世紀後半－19世紀前半	統本着色	熊本県立美術館(今西コレクション)
48	祇園井特	美人図	18世紀後半－19世紀前半	絹本着色	個人蔵
49	北鼎如蓮	鯉図	19世紀前半	絹本着色	摘水軒記念文化振興財団(府中市美術館寄託)
50	宗処厚印	鯉図	18世紀－19世紀	絹本着色	個人蔵
51	原在中	夏雲多奇峰図	19世紀前半	絹本着色	個人蔵
52	墨江武禅	月下山水図	18世紀後半	絹本墨画	府中市美術館
53	黒田稲皐	竹図	18世紀後半－19世紀前半	紙本墨画淡彩	渡辺美術館
54	菊池容斎	鯉遊之図	慶応3年(1867)	絹本淡彩	滋賀県立琵琶湖文化館
55	亜欧堂田善	海浜アイヌ図	寛政12年(1800)	絹本着色	府中市美術館寄託
56	宋紫岡	鯉図	19世紀前半	絹本着色	個人蔵
57	葛飾北斎	雪中鷺図	天保14年(1843)	紙本着色	摘水軒記念文化振興財団(府中市美術館寄託)
58	安田雷洲	鷹図	安政3年(1856)	絹本着色	摘水軒記念文化振興財団(府中市美術館寄託)
59	葛蛇玉	鯉図	18世紀後半	絹本着色	個人蔵
60	土方稲嶺	清湍登鮎図	18世紀後半	絹本着色	個人蔵
61	黒田稲皐	千匹鯉図	天保5年(1834)	絹本墨画淡彩	鳥取県立博物館
62	黒田稲皐	遊鯉図	天保11年(1840)	絹本着色	鳥取県立博物館
63	小泉斐	鮎図	天保8年(1837)	絹本着色	個人蔵
64	本多猗蘭	蓮鷺図	18世紀	紙本墨画	個人蔵
65	宋紫山	虎図	18世紀後半	絹本着色	府中市美術館寄託
66	片山楊谷	虎図	18世紀後半	絹本着色	個人蔵
67	川又常正	階下遊女図	18世紀	絹本着色	熊本県立美術館(今西コレクション)
68	東燕斎寛志	美人噴焰図	18世紀後半	紙本着色	熊本県立美術館(今西コレクション)
69	英一蝶	返歌之図	17世紀後半－18世紀前半	紙本着色	個人蔵
70	鳥田元旦	紫式部清少納言図	19世紀前半	絹本着色	鳥取県立博物館寄託
71	淵上旭江	真景図帖	18世紀後半－19世紀前半	絹本着色	府中市美術館
72	矢野良勝	肥後瀑布図	18世紀後半－19世紀前半	紙本着色	熊本県立美術館

No.	作者	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
73	米田松洞	北山秋景・西山秋景	安政5年(1776)、天明7年(1787)	紙本着色	熊本県立美術館
74	忍頂寺静村	菊に猫図	天保11年(1840)	絹本着色	個人蔵
75	天竜道人	牡丹に猫図	18世紀後半-19世紀前半	絹本着色	個人蔵
76	垂欧堂田善	陸奥国石川郡大隈滝芭蕉翁碑之図 (『青かい』挿絵)	文化11年(1814)	紙本銅版	府中市美術館
77	宋紫石	柳下白鷄図	明和6年(1769)	絹本着色	広島県立美術館
78	土方稲嶺	軍鶏図	18世紀後半	絹本着色	個人蔵
79	渡辺華山	市河米庵像(重要文化財)	天保8年(1837)	絹本着色	京都国立博物館
80	土方稲嶺	雨竹風竹図	18世紀後半	絹本墨画淡彩	個人蔵
81	土方稲嶺	雪景山水図	18世紀後半	紙本墨画	個人蔵
82	司馬江漢	花鳥草虫図	18世紀後半	絹本着色	府中市美術館寄託
83	司馬江漢	花鳥草虫図	18世紀後半	絹本着色	府中市美術館寄託
84	司馬江漢	生花図	18世紀後半	絹本着色	府中市美術館
85	司馬江漢	湖辺遊禽図	18世紀後半	紙本油彩	長崎歴史文化博物館
86	司馬江漢	西王母図	18世紀後半	絹本着色	個人蔵
87	司馬江漢	円窓唐美人図	18世紀後半	絹本油彩	府中市美術館
88	司馬江漢	異国戦闘図	18世紀後半	紙本油彩	府中市美術館寄託
89	司馬江漢	オランダ馬図	18世紀後半	絹本油彩	府中市美術館寄託
90	司馬江漢	犬に木蓮図	18世紀後半	絹本着色	府中市美術館寄託
91	司馬江漢	猫と蝶図	18世紀後半	絹本着色	府中市美術館
92	司馬江漢	異国風景花鳥図	18世紀後半	絹本着色	府中市美術館寄託
93	司馬江漢	馬入川富士遠望図	18世紀後半	絹本油彩	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
94	司馬江漢	七里ヶ浜図	18世紀後半	絹本油彩	個人蔵
95	司馬江漢	秋景双鳩図	18世紀後半	絹本油彩	府中市美術館寄託
96	司馬江漢	相州江之島児淵図	19世紀前半	紙本墨画淡彩	府中市美術館
97	司馬江漢	相州景島村図	文化5年(1808)	紙本墨画淡彩	個人蔵
98	円山応挙	神農図	18世紀後半	紙本墨画	個人蔵
99	円山応挙	大石良雄図	明和4年(1767)	絹本着色	一般財団法人武井報效会 百耕資料館
100	円山応挙	西王母図	18世紀後半	紙本墨画淡彩	個人蔵
101	円山応挙	西王母・寿老図	安永5年(1776)	絹本着色	敦賀市立博物館
102	円山応挙	松鶴之図	明和3年(1766)	絹本着色	個人蔵
103	円山応挙	鶴図	18世紀後半	絹本着色	個人蔵
104	円山応挙	虎皮写生図	18世紀後半	紙本着色	本間美術館
105	円山応挙	竜虎図	安永7年(1778)	絹本墨画淡彩	個人蔵
106	狩野常信	鍾馗図	17世紀後半-18世紀前半	紙本着色	個人蔵
107	円山応挙	猛虎図	天明2年(1782)	紙本着色	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
108	円山応挙	鼯図(山形県指定文化財)	18世紀後半	紙本着色	本間美術館
109	円山応挙	雪中残柿猿図	安永3年(1774)	絹本着色	個人蔵
110	円山応挙	時雨狗子図	明和4年(1767)	絹本墨画淡彩	府中市美術館
111	円山応挙	湖上清光之図	天明6年(1786)	紙本墨画	個人蔵
112	円山応挙	芭蕉鶏図襖	18世紀後半	紙本着色	白鶴美術館
113	円山応挙	百鬼図	天明4年(1784)	紙本着色	個人蔵
114	円山応挙	相生松図	寛政4年(1792)	絹本着色	敦賀市立博物館
115	円山応挙	松鷹図	寛政5年(1793)	絹本着色	個人蔵
116	円山応挙	雪中鴛鴦図	寛政5年(1793)	絹本着色	個人蔵
117	橘保国	三鯉図	天明8年(1788)	絹本着色	個人蔵
118	円山応挙	鯉魚図	天明元年(1781)	絹本着色	個人蔵
119	円山応挙	竜門図(重要美術品)	寛政5年(1793)	絹本着色	京都国立博物館

3 | 常設展一覧

平成27年度			平成29年度		
第1期	5月16日-8月30日		第1期	5月20日-8月27日	
常設展	「府中・多摩の美術」		常設展	『『ゆかいな』作品たち』	
牛島憲之記念館	「前半期の画業」		牛島憲之記念館	「やわらかな牛島憲之の世界」	
第2期	9月12日-12月20日		第2期	9月9日-12月28日	
常設展	「江戸時代から現代まで」		常設展	「明治・大正・昭和の洋画」	
牛島憲之記念館	「牛島憲之名作選」			「小特集:江戸時代の絵画(前・後期)」	
			牛島憲之記念館	「画風の展開」	
第3期	1月9日-2月28日		第3期	1月13日-2月25日	
常設展	「版画と彫刻」		常設展	「アトリエと美術家」	
牛島憲之記念館	「自然をえがく」		牛島憲之記念館	「牛島憲之と立軌会」	
第4期	3月12日-5月8日		第4期	3月10日-5月6日	
常設展	「明治・大正・昭和の洋画」		常設展	「寺田小太郎コレクションの魅力」	
牛島憲之記念館	「初期から晩年まで」		牛島憲之記念館	「牛島憲之と昭和」	
平成28年度					
第1期	5月21日-7月3日				
常設展	「描かれた水辺の景」				
牛島憲之記念館	「描かれた水辺の景」				
第2期	7月16日-9月11日				
常設展	「特集:燃える東京・多摩-画家・新海覚雄の軌跡」				
牛島憲之記念館	「牛島憲之の写生旅行」				
第3期	10月1日-12月11日				
牛島憲之記念館	「牛島憲之と須田寿」				
第4期	12月23日-2月26日				
常設展	「戦後の美術」				
牛島憲之記念館	「牛島憲之と立軌会」				
第5期	3月11日-5月7日				
常設展	「日本の油彩画の流れ」				
牛島憲之記念館	「牛島憲之名作選」				

2

作品及び資料

1 | 新収蔵作品

・作者自身の命題や適当な来歴名称がなく、当館が便宜的に付けた作品名には*印を付した。

作者	作品名	制作年	材質・技法	サイズ(cm)
■平成27年度購入				
鷹野隆大	F市.2009.(12点中7点)	平成21年(2009)	印画紙、ゼラチンシルバープリント	35.6×27.9
中西利雄	府中競馬場	昭和9年(1934)	キャンバス、水彩	97.0×130.0
中西利雄	武蔵野風景(井之頭公園)	昭和12年(1937)	キャンバス、水彩	72.9×91.0
吉田博	府中	明治32年(1899)頃	紙、水彩	67.2×95.0
渡辺祥益	小金井春景	制作年不詳	絹本着色	49.1×72.2
■平成27年度寄贈				
有島生馬	霧雲	制作年不詳	キャンバス、油彩	29.2×50.0
安藤伸太郎	海景*	明治33年(1900)	キャンバス、油彩	45.0×60.6
井上長三郎	少女	制作年不詳	キャンバス、油彩	33.6×24.2
印藤真楯	子供	明治33年(1900)	紙、水彩	29.0×38.0
大久保作次郎	新緑の谷間	制作年不詳	キャンバス、油彩	52.9×65.3
織田廣喜	恋人たち	平成10年(1998)	ガラス、油彩	13.0×17.0
織田廣喜	風景	平成10年(1998)	ガラス、油彩	13.0×17.0
織田廣喜	裸婦 A	平成10年(1998)	ガラス、油彩	13.0×17.0
織田廣喜	裸婦 B	平成10年(1998)	ガラス、油彩	17.0×13.0
織田廣喜	裸婦Ⅱ	平成10年(1998)	ガラス、油彩	17.0×13.0
織田廣喜	新聞売り	平成10年(1998)	ガラス、油彩	17.0×13.0
織田廣喜	シャンゼリゼの少女	平成10年(1998)	ガラス、油彩	17.0×13.0
織田廣喜	踊り子	平成10年(1998)	ガラス、油彩	17.0×13.0
織田廣喜	川辺の水車	平成10年(1998)	ガラス、油彩	13.0×17.0
織田廣喜	午後のセーヌ河	平成10年(1998)	ガラス、油彩	17.0×13.0
織田廣喜	サン・ドニの少女	平成10年(1998)	ガラス、油彩	13.0×17.0
織田廣喜	モンパルナスの女	平成10年(1998)	ガラス、油彩	17.0×13.0
小山田二郎	顔	制作年不詳	キャンバス、油彩	22.0×27.6
小山田二郎	石置場	昭和36年(1961)頃	紙、水彩	25.6×35.0
小山田二郎	受胎告知	昭和50年(1975)	紙、水彩	24.6×33.3
小山田二郎	笛をふく子供	昭和54年(1979)	紙、水彩	38.2×28.0
小山田二郎	人々	昭和54年(1979)	紙、水彩	38.3×28.4
小山田二郎	無題	昭和54年(1979)	紙、水彩	38.2×28.0
小山田二郎	夜の池	昭和55年(1980)頃	紙、水彩	28.6×38.2
小山田二郎	鳥の散歩	制作年不詳	紙、水彩	28.1×37.8
小山田チカエ	対話	昭和32年(1957)	キャンバス、油彩	117.0×90.7
小山田チカエ	女*	平成20年(2008)	キャンバス、油彩	72.8×60.8
小山田チカエ	小山田二郎像	制作年不詳	キャンバス、油彩	65.0×53.0
P-F.ガッシェ	『12のエッチング』表紙	1897年頃	紙、エッチング	11.3×13.0
P-F.ガッシェ	オーヴェールの洪水(1)	1897年頃	紙、エッチング	7.8×13.0
P-F.ガッシェ	シャラントンの洪水(1)	1897年頃	紙、エッチング	15.3×10.4
P-F.ガッシェ	サイデンホーン教会	1897年頃	紙、エッチング	11.5×13.4
P-F.ガッシェ	ヴェルモントワの雪	1897年頃	紙、エッチング	11.8×14.9
P-F.ガッシェ	海の「堆積」	1897年頃	紙、エッチング	10.0×13.0
P-F.ガッシェ	オーヴェールの洪水(2)	1897年頃	紙、エッチング	10.4×13.5
P-F.ガッシェ	オーヴェールの洪水(3)	1897年頃	紙、エッチング	10.4×13.8
P-F.ガッシェ	シャラントンの洪水(2)	1897年頃	紙、エッチング	17.0×12.0
P-F.ガッシェ	過去	1897年頃	紙、エッチング	10.7×8.9
P-F.ガッシェ	B・D嬢の横顔	1897年頃	紙、エッチング	13.8×11.2
P-F.ガッシェ	題名不詳(女性の顔)	1897年頃	紙、エッチング	11.0×9.1
P-F.ガッシェ	ソネット	1897年頃	紙、エッチング	13.0×10.0
P-F.ガッシェ	自画像	1897年頃	紙、エッチング	13.0×10.0
P-F.ガッシェ	オーヴェールの洪水(4)	1897年頃	紙、エッチング	7.8×13.0
川島理一郎	秋	制作年不詳	キャンバス、油彩	33.4×24.0

作者	作品名	制作年	材質・技法	サイズ(cm)	
木下晋	作品I	平成7年(1995)	紙、鉛筆	103.3×72.8	高橋健司氏寄贈
木下晋	あやちゃん	平成8年(1996)	紙、鉛筆	103.3×72.8	高橋健司氏寄贈
佐藤多持	栗川稲荷参道(上の山温泉)	昭和32年(1957)	キャンバス、油彩	33.0×45.5	佐藤美喜子氏寄贈
須田廻太	果物	制作年不詳	板、油彩	32.0×40.5	山本豊氏寄贈
鷹野隆大	F市.2009.(12点中5点)	平成21年(2009)	印画紙、ゼラチンシルバープリント	35.6×27.9	ユミコチバアソシエイツ寄贈
谷文晁	夏山霽霏図	寛政7年(1795)	紙本墨画淡彩	137.0×54.2	歳原啓太郎氏寄贈
堂本印象	浜の幸	制作年不詳	紙本着色　四曲一隻	122.0×174.0	山本豊氏寄贈
中西利雄	出走前	昭和12年(1937)	紙、水彩	56.0×75.0	中西利一郎氏寄贈
中西利雄	競馬場	昭和12年(1937)	紙、水彩	50.0×63.1	中西利一郎氏寄贈
中村研一	風景	制作年不詳	キャンバス、油彩	45.5×53.0	山本豊氏寄贈
正宗得三郎	府中車返八幡宮	昭和34年(1959)	キャンバス、油彩	50.2×60.5	藪野健氏寄贈
正宗得三郎	府中櫓並木(我が画室の眺め)	制作年不詳	キャンバス、油彩	60.7×72.5	藪野健氏寄贈
正宗得三郎	七日月とアトリエ	制作年不詳	キャンバス、油彩	41.0×52.8	藪野健氏寄贈
正宗得三郎	花*	制作年不詳	キャンバス、油彩	60.8×50.0	藪野健氏寄贈
正宗得三郎	武蔵野の春　於西府	制作年不詳	キャンバス、油彩	53.3×64.8	藪野健氏寄贈
正宗得三郎	府中雪の夕暮	制作年不詳	キャンバス、油彩	50.2×60.5	藪野健氏寄贈
正宗得三郎	旧府中警察	制作年不詳	キャンバス、油彩	44.0×51.5	藪野健氏寄贈
正宗得三郎	秋景*	制作年不詳	キャンバス、油彩	80×65.4	藪野健氏寄贈
間部時雄	模写(ミレー作「落ち葉焼き」)	大正9-14年(1920-25)	板、油彩	34.5×27.0	石川欽一氏寄贈
間部時雄	パリ・モンマルトルにて	大正10年(1924)	キャンバス、油彩	46.0×53.0	石川欽一氏寄贈
間部時雄	雲崗石窟	昭和15年(1940)	キャンバス、油彩　5点組	33.0×126.0	石川欽一氏寄贈
間部時雄	平和なる国境	昭和15年(1940)	紙、銅版　3点組	33.0×82.0	石川欽一氏寄贈
三田村光土里	Beyer	平成14年(2002)	写真ライトボックス、Cタイププリント他		三田村光土里氏寄贈
若林奮	RED FIELD	平成3年(1991)	紙、ドライポイント、焼きなまし銅版　18枚組	100.0×98.0	加山智章氏寄贈
和田三造	海辺の風景	制作年不詳	紙、油彩	37.4×45.3	山本豊氏寄贈
渡邊淳	山の人等	昭和31年(1956)頃	紙、フェルトペン	80.0×109.0	渡邊淳氏寄贈
渡邊淳	親父	昭和35年(1960)	紙、水彩、墨	48.2×33.3	渡邊淳氏寄贈
渡邊淳	炭焼き二人	昭和35年(1960)	セメント袋、クレヨン	73.5×51.0	渡邊淳氏寄贈
渡邊淳	ランプの詩	昭和47年(1972)	キャンバス、油彩	45.5×53.2	渡邊淳氏寄贈

■平成28年度寄贈					
瑛九	眠りの理由(カルトン)	昭和11年(1936)	印画紙、ゼラチンシルバープリント、カルトン	27.5×22.5	北尾恒子氏寄贈
瑛九	眠りの理由(1)	昭和11年(1936)	印画紙、ゼラチンシルバープリント	21.5×26.5	北尾恒子氏寄贈
瑛九	眠りの理由(2)	昭和11年(1936)	印画紙、ゼラチンシルバープリント	21.5×26.5	北尾恒子氏寄贈
瑛九	眠りの理由(3)	昭和11年(1936)	印画紙、ゼラチンシルバープリント	26.5×21.5	北尾恒子氏寄贈
瑛九	眠りの理由(4)	昭和11年(1936)	印画紙、ゼラチンシルバープリント	21.5×26.5	北尾恒子氏寄贈
瑛九	眠りの理由(5)	昭和11年(1936)	印画紙、ゼラチンシルバープリント	21.5×26.5	北尾恒子氏寄贈
瑛九	眠りの理由(6)	昭和11年(1936)	印画紙、ゼラチンシルバープリント	26.5×21.5	北尾恒子氏寄贈
瑛九	眠りの理由(7)	昭和11年(1936)	印画紙、ゼラチンシルバープリント	21.5×26.5	北尾恒子氏寄贈
瑛九	眠りの理由(8)	昭和11年(1936)	印画紙、ゼラチンシルバープリント	26.5×21.5	北尾恒子氏寄贈
瑛九	眠りの理由(9)	昭和11年(1936)	印画紙、ゼラチンシルバープリント	21.5×26.5	北尾恒子氏寄贈
瑛九	眠りの理由(10)	昭和11年(1936)	印画紙、ゼラチンシルバープリント	21.5×26.5	北尾恒子氏寄贈
小山田二郎	日蝕	昭和38年(1963)	キャンバス、油彩	72.7×90.9	夫馬豊治氏寄贈
須田寿	夏童	昭和17年(1942)	キャンバス、油彩	100.0×100.0	須田乾一氏寄贈
須田寿	壺の路	平成5年(1993)	キャンバス、油彩	90.0×120.0	須田乾一氏寄贈
須田寿	絶筆*	平成15年(2003)	キャンバス、油彩	90.0×100.0	須田乾一氏寄贈
須田寿	御堂の中の佛たち	制作年不詳	キャンバス、油彩	100.0×150.0	須田乾一氏寄贈
戸嶋靖昌	林(調布・虎狛神社)	昭和47年(1972)	キャンバス、油彩	60.0×50.0	地域美術寄贈
都鳥英喜	稲架	明治35年(1902)	キャンバス、油彩	23.3×32.9	都鳥進一氏寄贈
都鳥英喜	樹	明治40年(1907)頃	板、油彩	33.0×23.0	都鳥進一氏寄贈
都鳥英喜	河岸(グレー)	大正9年(1920)	キャンバス、油彩	45.5×38.0	都鳥進一氏寄贈
都鳥英喜	晩秋	大正13年(1924)	キャンバス、油彩	79.5×65.0	都鳥進一氏寄贈
都鳥英喜	水辺の樹々	昭和9年(1934)	キャンバス、油彩	44.5×55.0	都鳥進一氏寄贈
都鳥英喜	晩秋の山	制作年不詳	キャンバス、油彩	38.0×45.4	都鳥進一氏寄贈
若林奮	〔ドローイング　1990.03.28-024〕	平成2年(1990)	紙、鉛筆	30.0×23.3	淀井彩子氏寄贈
若林奮	〔ドローイング　1994.04.21-088〕	平成6年(1994)	紙、水彩、鉛筆	25.5×36.0	淀井彩子氏寄贈
若林奮	〔ドローイング　1994.07.20-024〕	平成6年(1994)	紙、水彩、色鉛筆、鉛筆	25.5×21.0	淀井彩子氏寄贈
若林奮	〔ドローイング　1994.07.20-026〕	平成6年(1994)	紙、水彩、鉛筆	25.5×21.0	淀井彩子氏寄贈
若林奮	〔ドローイング　1994.07.30-113〕	平成6年(1994)	紙、水彩、鉛筆	37.5×26.5	淀井彩子氏寄贈
若林奮	〔ドローイング　1996.02.08-169〕	平成8年(1996)	紙、水彩、色鉛筆、鉛筆	21.5×19.5	淀井彩子氏寄贈
若林奮	〔ドローイング　1996.06.04-014〕	平成8年(1996)	紙、鉛筆、インク	27.3×23.0	淀井彩子氏寄贈
若林奮	〔ドローイング　1996.12.21-103〕	平成8年(1996)	紙、水彩、色鉛筆、鉛筆	22.5×23.0	淀井彩子氏寄贈

作者	作品名	制作年	材質・技法	サイズ(cm)	
若林奮	『トローイング 1998.05.25-104』	平成10年(1998)	紙、鉛筆、色鉛筆	30.0×20.8	淀井彩子氏寄贈
若林奮	『トローイング 1998.06.09-114』	平成10年(1998)	紙、鉛筆、色鉛筆、水彩	17.5×15.5	淀井彩子氏寄贈
若林奮	『トローイング 1998.11.24-230』	平成10年(1998)	紙、鉛筆、色鉛筆、水彩	18.0×16.9	淀井彩子氏寄贈
若林奮	『トローイング 1998.12.22-262』	平成10年(1998)	紙、鉛筆、水彩、インク	24.2×14.5	淀井彩子氏寄贈
若林奮	『トローイング 2000.01.04-004』	平成12年(2000)	紙、鉛筆、インク、水彩	27.0×19.5	淀井彩子氏寄贈
若林奮	『トローイング 2001.06.26-141』	平成13年(2001)	紙、鉛筆	21.0×29.5	淀井彩子氏寄贈
若林奮	『トローイング 2001.7.26』	平成13年(2001)	紙、鉛筆	35.7×25.7	淀井彩子氏寄贈
若林奮	『トローイング 2001.7.26』	平成13年(2001)	紙、鉛筆	36.4×25.7	淀井彩子氏寄贈
若林奮	『トローイング 2001.8.8』	平成13年(2001)	紙、鉛筆	36.2×25.7	淀井彩子氏寄贈
若林奮	『トローイング 2001.8.8』	平成13年(2001)	紙、鉛筆	25.7×36.4	淀井彩子氏寄贈
若林奮	『トローイング 2001.8.9』	平成13年(2001)	紙、鉛筆	36.5×25.7	淀井彩子氏寄贈
若林奮	『トローイング 2001.8.9』	平成13年(2001)	紙、鉛筆	36.0×25.7	淀井彩子氏寄贈
若林奮	『トローイング 2001.8.9』	平成13年(2001)	紙、ボールペン	29.7×21.0	淀井彩子氏寄贈
若林奮	『トローイング 2001.8.9』	平成13年(2001)	紙、鉛筆	36.2×25.7	淀井彩子氏寄贈
若林奮	『トローイング 2001.8.9』	平成13年(2001)	紙、鉛筆	36.4×25.7	淀井彩子氏寄贈
若林奮	『トローイング 2001.8.9』	平成13年(2001)	紙、鉛筆	36.4×25.8	淀井彩子氏寄贈
若林奮	『トローイング 2001.8.9』	平成13年(2001)	紙、鉛筆	36.4×25.7	淀井彩子氏寄贈
若林奮	『トローイング 2001.10.31』	平成13年(2001)	紙、鉛筆	36.4×25.7	淀井彩子氏寄贈
若林奮	『トローイング 2001.10.31』	平成13年(2001)	紙、鉛筆	36.3×25.8	淀井彩子氏寄贈
若林奮	『トローイング 2001.10.31』	平成13年(2001)	紙、鉛筆、色鉛筆	36.3×25.8	淀井彩子氏寄贈
若林奮	『トローイング 2002.1.27』	平成14年(2002)	紙、鉛筆	36.4×25.7	淀井彩子氏寄贈

■平成29年度寄贈

浅野竹二	イスタンブール(「西洋所々」シリーズより)	昭和41年(1966)	紙、木版	26.5×40.0	清水隆三氏寄贈
浅野竹二	メキシコ市(「西洋所々」シリーズより)	昭和41年(1966)	紙、木版	26.5×39.8	清水隆三氏寄贈
浅野竹二	ローマ(「西洋所々」シリーズより)	昭和41年(1966)	紙、木版	26.7×39.5	清水隆三氏寄贈
浅野竹二	トルコイズミル(「西洋所々」シリーズより)	昭和41年(1966)	紙、木版	26.5×39.5	清水隆三氏寄贈
浅野竹二	いろはかるた	昭和49年(1974)	紙、木版、手彩色 24枚組	22.7×19.3	清水隆三氏寄贈
浅野竹二	1992/6/13	平成4年(1992)	紙、グワッシュ	46.7×31.7	清水隆三氏寄贈
浅野竹二	1992/6/21	平成4年(1992)	紙、グワッシュ	46.7×31.5	清水隆三氏寄贈
浅野竹二	1993/9/28-1	平成5年(1993)	紙、グワッシュ	31.6×46.5	清水隆三氏寄贈
浅野竹二	1994/9/21-2	平成6年(1994)	紙、グワッシュ	53.4×41.5	清水隆三氏寄贈
安藤伸太郎	芍薬	制作年不詳	キャンバス、油彩	47.8×39.2	児嶋画廊寄贈
呉亜沙	discoverer	平成19年(2007)	ミクストメディア	直径110.0 高さ150.0	大西洋氏寄贈
児島善三郎	婦人像*	昭和2年(1927)	紙、コンテ	35.2×23.8	児嶋画廊寄贈
二木直巳	無題 7706	昭和52年(1977)	粘着テープ、厚紙	28.3×19.6	二木直巳氏寄贈
二木直巳	パティオのためのプラン 83-No.15	昭和58年(1983)	方眼紙、鉛筆、色鉛筆	25.0×34.0	二木直巳氏寄贈
二木直巳	パティオのためのプラン 83-No.14	昭和58年(1983)	方眼紙、鉛筆、色鉛筆	25.0×34.0	二木直巳氏寄贈
二木直巳	パティオのためのプラン 85-No.8	昭和60年(1985)	方眼紙、鉛筆、色鉛筆	19.0×28.0	二木直巳氏寄贈
二木直巳	パティオのためのプラン 85-No.10	昭和60年(1985)	方眼紙、鉛筆、色鉛筆	19.0×28.0	二木直巳氏寄贈
二木直巳	見晴らし台のためのスケッチ 01-2	平成13年(2001)	紙、鉛筆、ボールペン	12.0×8.7	二木直巳氏寄贈
二木直巳	見晴らし台のためのスケッチ 01-4	平成13年(2001)	紙、鉛筆、ボールペン	12.0×8.5	二木直巳氏寄贈
二木直巳	見晴らし台のためのスケッチ 03-7	平成15年(2003)	紙、鉛筆	21.3×13.7	二木直巳氏寄贈
二木直巳	見晴らし台のためのスケッチ 03-1	平成15年(2003)	紙、鉛筆、色鉛筆	21.3×13.7	二木直巳氏寄贈
二木直巳	見晴らし台のためのプラン	平成17年(2005)	方眼紙、鉛筆	25.7×34.4	二木直巳氏寄贈

2 | 美術資料の修復

2 | 美術資料の修復

平成27年度 中西利雄 《競馬場》 山田正亮 《Still Life no.3》 山田正亮 《Still Life no.95》 山田正亮 《Still Life no.101》 山田正亮 《Landscape no.8》	平成28年度 山田正亮 《Still Life no.26》 平成29年度 高木紗恵子 《Untitled》
--	---

*額装を除く

3 | 作品貸出状況

展覧会名	「没後100年五姓田義松—最後の天才」
会場 会期	神奈川県立歴史博物館 平成27年9月19日-11月8日
貸出作品	五姓田義松《ハワの風景》 五姓田義松《修善寺風景》

平成27年度

「絵の始まり 絵の終わり—下絵と本画の物語—」 武蔵野美術大学美術館 平成27年5月25日-8月16日 宮本十久一《老婆図画稿》 宮本十久一《四国路》 宮本十久一《四国路画稿》	「笑いのかたち」 和泉市久保塚記念美術館 平成27年10月10日-11月29日 円山応挙《時雨狗子図》
「旅」と藝術—発見・驚異・夢想— 埼玉県立近代美術館 平成27年11月14日-平成28年1月31日 アルフレッド・イースト《富士山》	「笑いのかたち」 和泉市久保塚記念美術館 平成27年10月10日-11月29日 円山応挙《時雨狗子図》

「伝説の洋画家たち 二科100年展」 東京都美術館 平成27年7月18日-9月6日 大阪市立美術館 平成27年9月12日-11月1日 石橋美術館 平成27年11月7日-12月27日 正宗得三郎《トックの女》	「北斎と富嶽」 北斎館 平成27年12月18日-平成28年3月29日 司馬江漢《馬入川富士遠望図》(寄託) 月岡雪斎《不二図屏風》(寄託)
--	---

「第21回秘蔵の名品アートコレクション展 美の宴—琳派から 栖鳳、大観、松園まで」 ホテルオークラ東京 平成27年8月3日-8月20日 清水登之《チャイルド洋食店》	「恩地孝四郎展」 東京国立近代美術館 平成28年1月13日-2月28日 和歌山県立近代美術館 平成29年4月29日-6月12日 恩地孝四郎《「ポーズ」の内 憩》 恩地孝四郎《「氷島」の作者 荻原朔太郎》 恩地孝四郎《黒布の林檎》 恩地孝四郎《死せる鳩》
--	---

国立民族学博物館 平成28年2月25日-4月19日
亜欧堂田善《海浜アイヌ図》(寄託)

「嶋田しづ・磯見輝夫展 色彩とモノクローム」
横須賀美術館 平成28年2月6日-4月10日
磯見輝夫《樹の下の闇-I》

「生誕180年記念　富岡鉄斎―近代への架け橋―」
兵庫県立美術館　平成28年3月12日-5月8日
正宗得三郎《白浜の波》
正宗得三郎《三穗村雪景》
正宗得三郎《撃攘図》

平成28年度

「北斎とその弟子たち―北斎DNAの継承―」
北斎館　平成28年4月3日-6月28日
北鼎如蓮《鯉図》(寄託)
北鼎如蓮《水辺に立つ芸妓図》(寄託)
卍斎一昇《狼の図》(寄託)

「生誕140年　吉田博展」
千葉市美術館　平成28年4月9日-5月22日
郡山市立美術館　平成28年6月4日-7月24日
久留米市美術館　平成29年2月4日-3月20日
上田市立美術館　平成29年4月29日-6月18日
東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館
平成29年7月8日-8月27日
吉田博《中神》
吉田博《是政》
吉田博《御岳、奥の院》
吉田博《石橋》
吉田博《雨上がりの少年のいる風景》
吉田博《高原の池》
吉田博《フワテプールの舞踏場》

「日本近代美術の巨匠　和田英作展」
刈谷市美術館　平成28年4月23日-6月5日
佐野美術館　平成28年6月11日-8月7日
神戸市立小磯記念美術館　平成28年8月20日-10月10日
都城市立美術館　平成28年10月22日-11月27日
和田英作《富士》
和田英作《三保の松原》

「新居浜の美術　昨日・今日・明日Ⅲ　光風会を中心に」
新居浜市美術館　平成28年4月29日-6月12日
ラファエル・コラン《フロリアル》
ラファエル・コラン《田園恋愛詩》
黒田清輝《大磯風景》
三宅克己《風景》

「柏市民ギャラリー新装開館記念　滴水軒記念文化振興財団
所蔵作品展」
柏市民ギャラリー　平成28年5月14日-6月16日
司馬江漢《月下柴門美人図》(寄託)
谷文晁《駱駝図》(寄託)
司馬江漢《獅子図》(寄託)
葛飾北斎《雪中鷺図》(寄託)

長沢蘆雪《月下仔犬図》(寄託)
円山応挙《猛虎図》(寄託)
安田雷州《鷹図》(寄託)
吉川一溪《白狐図》(寄託)
有馬一純《松に兎図》(寄託)
黒田稲皐《子母牛図》(寄託)
与謝蕪村《虎図》(寄託)
董九如《喜休思波図》(寄託)
狩野山雪《松に小禽・梟図》(寄託)
長谷川等彝《洋犬図》(寄託)
韓葆純《百鳥図》(寄託)

「岡崎信吾展」
岡山県立美術館　平成28年7月15日-8月28日
岡崎信吾《彼方へ》

「日本におけるキュビズム―ピカソ・インパクト」
鳥取県立博物館　平成28年10月1日-11月13日
埼玉県立近代美術館　平成28年11月23日-平成29年1月29日
高知県立美術館　平成29年2月12日-3月26日
小山田二郎《顔》
小山田二郎《鳥女》
山田正亮《Still Life no.62》

「月―夜を彩る清けき光」
渋谷区立松濤美術館　平成28年10月8日-11月20日
司馬江漢《月下柴門美人図》(寄託)
岡本秋暉《波間月痕図》(寄託)

「亜欧堂田善　江戸時代の銅版画と油彩画」
須賀川市立博物館　平成28年10月21日-11月27日
亜欧堂田善《甲州猿橋之眺望》

「endless 山田正亮の絵画」
東京国立近代美術館　平成28年12月6日-平成29年2月12日
京都国立近代美術館　平成29年3月1日-4月9日
山田正亮《Still Life no.8》　山田正亮《Still Life A no.11》
山田正亮《Still Life no.15》　山田正亮《Still Life no.26》
山田正亮《Still Life no.58》　山田正亮《Still Life no.83》
山田正亮《Still Life no.95》　山田正亮《Work B.112》
山田正亮《Work B.163》　山田正亮《Work B.205》
山田正亮《Work C.105》　山田正亮《Work D.170》
山田正亮《Work D.277》　山田正亮《Work C.p 2》
山田正亮《Work C.p 11》　山田正亮《Work D.p 264》

平成29年度

「武者小路実篤の出版事業―『白樺』『大調和』を中心に―」
武者小路実篤記念館　平成29年4月29日-6月4日
「田中松太郎旧蔵　半七製版印刷所顧客名簿」

「美術でめぐる日本の海」
横須賀美術館　平成29年7月8日-8月27日
青木繁《海景》
牛島憲之《貝焼場(午後)》

「Jiro Takamatsu: The Temperature of Sculpture」
ヘンリー・ムーア・インスティテュート　平成29年7月13日-10月22日
高松次郎《No.162》

「葛飾北斎とその時代(第60回我孫子市民文化祭記念事業)」
あびこ市民プラザ　平成29年7月15日-7月31日
葛飾北斎《糸瓜に雀図》(寄託)
葛飾北斎《雪中鷺図》(寄託)

「フェリーチェ・ベアトの写真」
DIC川村記念美術館　平成29年9月9日-12月3日
渡辺文三郎《富士遠望》
佐久間文吾《長房村風景》
本多錦吉郎《景色》
チャールズ・ワーグマン《三味線を弾く女》

「日本近代洋画の醸成と発展」
国立台北教育大学北師美術館　平成29年10月6日-平成30年1月7日
石川欽一郎《八瀬にて》
石井柏亭《並蔵》
鹿子木孟郎《水汲み》
鹿子木孟郎《水車小屋》

鹿子木孟郎《本郷区根津》
鹿子木孟郎《上野清水堂》
大下藤次郎《尾瀬》
丸山晚霞《川のある風景》
三宅克己《信州木崎湖の初夏》
山本鼎《仏蘭西風景》
吉田博《雨上がりの少年のいる風景》
吉田ふじを《少女と網を持つ少年》
吉田ふじを《桜の門前》
梅原龍三郎《台湾風景》
清水登之《チャイルド洋食店》

「長沢芦雪展」
愛知県美術館　平成29年10月6日-11月19日
円山応挙《猛虎図》(寄託)

「武蔵野の四季と共生　児島善三郎の国分寺時代」
小金井市立はけの森美術館　平成29年11月4日-12月17日
児島善三郎《国分寺冬田》
児島善三郎《水温む》

「横堀角次郎と仲間たち」
アーツ前橋　平成30年3月17日-5月29日
木村莊八《寺子屋三種の内　車とどまる》
三岸好太郎《六甲風景》
倉田三郎《果物図》
倉田三郎《風景》

4 | 図書及びその他の資料

美術図書室

府中市美術館には、全国的に見ても美術専門図書室としては有数の規模を誇る、美術に関する資料を集めた図書室がある。ここでは、国内外の古い雑誌のバックナンバーや展覧会カタログを含めた、主に近・現代の美術を中心とする文献資料や情報を収蔵しており、無料で公開している。

蔵書一覧

		平成26年度以前	平成27年度	平成28年度	平成29年度	蔵書数
受入数(冊)		59,382	1,575	1,467	1,470	63,894
内訳	書籍	39,234	1,134	1,192	1,068	42,628
	雑誌	20,109	441	273	402	21,225
	その他(DVD、複製本など)	39	0	2	0	41

3 | 教育普及事業

1 | 公開制作

公開制作は、美術各分野の専門家を招聘し、公開制作室を中心に作品制作をしてもらい、そのプロセスとテクニックを公開する事業である。芸術家と市民が直接ふれあう機会をつくり、一般的な講座等では得られない創造性を媒介とした、生きた学習の場を提供する。多岐にわたる美術ジャンル、すぐれた美術作家の中から、教育的な観点、現代的な話題性などを考慮し、ふさわしい作家を紹介している。各作家は、府中に一定期間滞在するか、または

平成27年度

公開制作64 タイポグラフィの実験室 4/25-7/5

公開制作65 パルコキノシタ「スウィート・ヒアアフター」7/18-11/3

公開制作66 高山陽介 11/21-2/28

公開制作アーカイブ 3/12-4/10

平成28年度

公開制作67 西本良太「PLAYING ON A SURFACE」4/23-7/3

公開制作68 谷山恭子「なぜその風景が面白いのか」7/16-10/13

公開制作69 風間サチコ「たゆまぬほくら」11/12-2/26

公開制作アーカイブ 3/11-4/9

公開制作 64

「タイポグラフィの実験室」

アーティスト:西館朋央、バンドウジロウ

会期:平成27年4月25日(土)-7月5日(日)

制作日(西館朋央):4月25日(土)、26日(日)、5月2日(土)、3日(日)

完成作品展示(西館朋央):5月16日(土)-31日(日)

制作日(バンドウジロウ):6月6日(土)、7日(日)、13日(土)、14日(日)

完成作品展示(バンドウジロウ):6月20日(土)-7月5日(日)

制作場所:公開制作室

協力:共同印刷所、福永紙工/かみの工作所、トップアート鎌倉、日本通運株式会社

関連イベント:

「ワークショップ」「素材発見!自分発見!オリジナルネームプレートを作る」西館朋央 5月23日(土)(15名)

「ワークショップ」「名は体を表す?イニシャル入りのトートバッグを作る」バンドウジロウ 6月21日(土)(8名)

「トークショー」西館朋央、バンドウジロウ、山村仁志(東京都美術館学芸課長) 7月5日(日)(30名)

通って制作を行う。期間中、作家によってはアーティストトークやワークショップなど、観客が参加できるイベントを交え、現代の美術表現の紹介とともに教育普及活動としての複合的効果もねらっている。また「公開制作アーカイブ」は、公開制作の記録を整理し、過去の資料とあわせて公開するものである。1プログラム(作家)ごとに、写真、映像、印刷物、書類等をまとめ、美術館活動の記録とするとともに、現代の作品制作の基礎資料の形成を目指している。

平成29年度

公開制作70 狩野哲郎「すべての部分が固有の形になる」4/15-7/2

公開制作71 原倫太郎「回転から、はじまる」7/15-10/22

公開制作72 大小島真木「万物の眠り、大地の血管」11/3-2/25

公開制作アーカイブ 3/10-4/8



制作内容:

西館朋央は、不要になったモノを作品素材として捉え直しコラージュを作ってきた。今回も制作に先立って、印刷工場で生まれる端材や美術品の額装や梱包の廃材を企業各社から提供いただき、西館自身が美術館まわりの公園で木切れなどを集めた。既にある形や色、構造を出発点に、さまざまに切り取り、組み合わせて立体作品、レリーフ状のコラージュを完成させた。当初の機能や用途、私たちの意識から解放されたモノたちが、新たな輝きをまとった。

バンドウジロウは数年前から、人類の英知として残る聖者、賢者のことばを選び出し、オリジナルのタイポグラフィで表現してきた。今回は、基本的人権に関する憲法の一文を、そうしたことばのひとつとして捉え、大きな旗の上にオリジナルのタイポグラフィで描いた。まず鉛筆と紙を用い、フリーハンドで文字を書き下図を作る。それを帆布にプロジェクターで拡大投影し輪郭をなぞり、赤い染料で色をつけた。制作室の中央に掲げた旗は、空調機の送風を受けて静かにたなびき、来場者を迎えた。

ワークショップ:

2作家が講師となり2回ワークショップを行った。西館朋央は、「素材発見!自分発見!オリジナルネームプレートを作る」として、廃材などを組み合わせて、コラージュによるネームプレートを作った。

バンドウジロウは「名は体を表す?イニシャル入りのトートバッグを作る」として、参加者が自分のイニシャルの文字をデザインし、プリントしてオリジナルの

公開制作 65

「スウィート・ヒアアフター」

アーティスト:パルコキノシタ

会期:平成27年7月18日(土)-11月3日(火・祝)

制作日:7月18日(土)、25日(土)、30日(木)、8月4日(火)、6日(木)、11日(火)、12日(水)、15日(土)、16日(日)、18日(火)、20日(木)、30日(日)、9月23日(火・祝)、10月4日(日)、11日(日)、12日(月・祝)、14日(水)、28日(水)、11月3日(火・祝)

制作場所:公開制作室

協力:新宿眼科画廊

関連イベント:

「ワークショップ」「トンネル閉じて開かれる夢の世界を見てみよう!」パルコキノシタ 9月13日(日)(33名)

「アーティストトーク」「スウィート・ヒアアフターをめぐって」パルコキノシタ 10月25日(日)(18名)

制作内容:

パルコキノシタは、2011年の東日本大震災以後、石巻や女川などの被災地へおもむいて支援活動を行い、震災にあった子どもからお年寄りまで、全ての方々とワークショップを通じて交流する活動が続けてきた。

「スウィート・ヒアアフター」は甘い来世を意味し、過酷な体験が忘却され、ファンタジーとなって私たちの記憶が変えられていくプロセスへの抵抗が込められている。ファンタジーの中にリアルを残すことが、アーティストの仕事という。



バッグを作った。公開制作の軸となる「廃品によるコラージュ」「オリジナルのタイポグラフィ」を追体験する内容となった。

トークショー:

2作家が活動紹介および公開制作の振り返りを行った。美術とデザインの関係について詳しいゲストが2作家の領域横断的な活動の可能性について話した。



ときに奇抜でありながらも、ペーソスのあるユーモアを失わず、逆説的にしか示せない社会の隠された真実を浮かび上がらせるパルコキノシタ。震災から5年目の夏、私たちが生きる「いま」を静かに問いかけた。

制作プロセス:

壁に震災をモチーフにした作品をかけ、床に女川のワークショップで使ったランドセルを展示した。ランドセルには白いアクリル絵の具を塗って絵を描いた。部屋の中央にキャンバスを広げて制作が始まった。助手が手伝ってキャンバスの下地作りを進める。キャンバスは下地材の塗ってあるもので、薄い紙を貼りつけ、刷毛を使って薄い紙をジェルメディウムで二重に貼り込む。その

上から、さらにジェツソを塗る。乾くとざらついた肌合いが生まれる。下地作りが終わると、作画に入った。

構想を練り、紙にアイデアを描きとめる。大きな画面に、鉛筆で大まかに形を描いていく。集中力のいる作業で、鉛筆で下図を描く。全体の構図をとりながら、人物を描き込む。助手にポーズしてもらい、具体的な人間の形をスケッチしたりした。下描きがだんだん細密に、リアルになっていく。画面右下の波の描写部分に、筆を使ってアクリル絵の具での着色も始まる。波の間に、いくつかの少女の顔が描かれる。油性ペンを使って太い輪郭線も描かれる。空の部分に薄く黒い色を塗ることで、全体の着色が進んできた。

鉛筆で下描きした細部の輪郭線を油性ペンで強調していく。人物の形などが少しずつリアルになっていく。波濤や少女の顔だけでなく、岸には鬼神のような姿も描かれ始める。細かい人物像がたくさん描かれる。暗い色が使われ、荒々しい雰囲気が生み出される。烈しく押し寄せる黒々とした力強い波と、画面中央にはたくさんの無言に向き合う人々の姿を描く。部分を付け加えたりして最後の仕上げで、黒々とした迫力ある画面になる。完成した作品はそのまま床に置いたままの展示とし、タイトルを決めた。

公開制作 66

高山陽介

アーティスト: 高山陽介

会期: 平成 27 年 11 月 21 日(土)–平成 28 年 2 月 28 日(日)

制作日: 11 月 21 日(土)、22 日(日)、12 月 5 日(土)、6 日(日)、1 月 9 日(土)、10 日(日)、23 日(土)、24 日(日)、2 月 6 日(土)、7 日(日)、13 日(土)、14 日(日)

完成作品展示: 2 月 19 日(金)–28 日(日)

制作場所: 公開制作室

協力: ハシモトアートオフィス、武蔵野美術大学芸術文化学科

関連イベント:

[アーティストトーク] 高山陽介 2 月 28 日(日) (26 名)

制作内容:

高山陽介は11月半ばから年末にかけて、床を補強し長さ2メートルほどの楠(くすのき)の板2枚をパイプに固定する作業に時間をかけて取り組んだ。1月の半ば頃、高山は楠の表面に最初の彫りを入れた。たちどころに楠のスパイシーな香りが部屋に満ちる。楠は防虫効果を持つ巨木であるため、造船や家具製作、仏像の材に用いられてきた。こうした木の特性と私たちの生活文化との関わりが、素材を彫刻に加工する過程によって開示されていくようであった。並行して、制作中の自身の姿をとらえた木版画が2点と、頭像2点(1

完成作品:

《スウィート・ヒアアフター》2015 年、アクリル・ペン・鉛筆・紙・キャンバス、150×546cm

ワークショップ:

市民ギャラリーで、小学生とその家族らが参加し、大量の段ボールを組み立て、長いトンネルを作り、色紙を貼ったり、水性ペイントを塗ったりして完成させ、最後に中をくぐって自由に遊んだ。

アーティストトーク:

プロジェクターでたくさんの写真を投影しながら、作家自身が今日までの仕事の歩みについて語った。1980 年末から現在まで、時代と呼应しながら制作してきたことがわかった。



点は未完)が削り出されていた。

高山は楠の正面を部屋の入口と反対に向けて配置していた。入口側からは、作品の正面も、作業する姿も、大きな楠に隠れて見えない。掘り進める音と木くずの香りが来場者の気を引いて、部屋の中へと足を運ばせていた。

2月の終わりに作品が完成し、楠は180度回転して再度固定され、私たちにその姿を現した。

公開制作 67

「PLAYING ON A SURFACE」

アーティスト: 西本良太

会期: 平成 28 年 4 月 23 日(土)–7 月 3 日(日)

制作日: 4 月 23 日(土)、30 日(土)、5 月 7 日(土)、21 日(土)、6 月 3 日(金)、11 日(土)、18 日(土)、26 日(日)

完成作品展示: 6 月 28 日(火)–7 月 3 日(日)

制作場所: 公開制作室

関連イベント:

[ワークショップ]「木製オリジナルコースターづくり」西本良太 5 月 28 日(土) (11 名)

[アーティストトーク] 西本良太、須山悠里(デザイナー) 7 月 2 日(土) (24 名)

制作内容:

西本良太は家具製作会社に勤務後独立し、木やプラスチックなどを使って、オリジナルの家具やオブジェ、アクセサリーなどを制作している。初めての公開制作に西本は少しとまどいながら、定期的に美術館を訪れて作業を進め、徐々に場所に馴染んでいった。日頃から気になっていた材料や部材、農業用ネットや土木作業用材を持ち込んで部屋との相性をはかり、逆に部屋からアイデアを得て、素材を新たに探し追加していた。公開制作室の壁、棚、床、ガラス、ホワイトボード等の表面に対して、物を足したり引いたり、入れ替えたりといった工程を試みていった。その姿は、内装施工の作業をしているようにも、修理をしているようにも見えたことだろう。西本は、背筋のピンと伸びた大きな体を動かして、まるで体操をするように、制作を進めていった。

公開制作 68

「なぜその風景が面白いのか」

アーティスト: 谷山恭子

会期: 平成 28 年 7 月 16 日(土)–10 月 30 日(日)

制作日: 8 月 16 日(火)、17 日(水)、21 日(日)、23 日(火)、27 日(土)、28 日(日)、9 月 3 日(土)、4 日(日)、10 日(土)、11 日(日)

完成作品展示: 10 月 1 日(土)–30 日(日)

制作場所: 公開制作室

関連イベント:

[ワークショップ]「お気に入りの風景を集めて、手のひらに乗せてみよう」

谷山恭子 10 月 10 日(月・祝) (18 名)

[アーティストトーク] 谷山恭子 10 月 30 日(日) (24 名)

制作内容:

公開制作に先立つ2016年5月に谷山は、府中市の住民に地域を案内してもらい、市内を探索して気になった風景を写真に収めた。写真には、谷山が感応したどこか懐かしい色や形、素材が散りばめられている。そしてその



最後には、公開制作室の隅々まで西本の手仕事が行き渡った。作品を見つけて喜んだり、くすりと笑ったり、そこそこで小さな歓声が聞こえる、発見の楽しさに満ちた部屋が生まれていた。

ワークショップ:

「木製オリジナルコースターづくり」では、西本良太が用意した木製のコースターに、ベンチやネジなど日用品を型に用い、ハンダゴテで焼き目を作り模様を入れた。

アーティストトーク:

ゲストにデザイナーの須山悠里を迎え、西本良太の発想源や、世界の見方を問い直させる作品の魅力について意見を交わした。



写真を元に、気になった部分を抽出するようにドローイングし、ゆっくりと風景を咀嚼していった。

8月中旬から始まった公開制作では、描きためたドローイングから、建物や景観の部分を4つ取り出し、それぞれ立体に作り直して、制作室内に配置した。作家の感性を通してスケールや素材を変えて生まれたのは、懐かしいよう

な、初めて見るような、近くて遠いところにある風景であった。

ワークショップ:

「お気に入りの風景を集めて、手のひらに乗せてみよう」では、参加者が気になる風景の写真を持ち寄り、谷山がなぜ好きなのか、どこが魅力なのかを聞き取っていった。その後、写真をもとに、画用紙や粘土など自由に素材を用

公開制作 69

「たゆまぬほくら」

アーティスト: 風間サチコ

会期: 平成28年11月12日(土)~平成29年2月26日(日)

制作日: 11月12日(土)、13日(日)、20日(日)、27日(日)、12月4日(日)、11日(日)、25日(日)、1月8日(日)、15日(日)、22日(日)、29日(日)、2月2日(木)、3日(金)、4日(土)、5日(日)、10日(金)

制作場所: 公開制作室

協力: 無人島プロダクション

関連イベント:

[ワークショップ]「木版画で参加!夢りんぴっく」風間サチコ 2月12日(日) (9名)
[アーティストトーク]「たゆまぬほくら」風間サチコ、野老朝雄(アーティスト、東京2020大会エンブレム制作者) 2月19日(日) (50名)

制作内容:

風間サチコは、浮世絵など民衆の伝統をもつ木版画の技術を用い、現代日本のマンガ文化から多くの養分を得つつも、社会に対する深い洞察を込めた、空想的でアイロニカルな独自のイメージ世界を創造する作家である。版画ではあっても一点しか制作しないモノタイプを基本とし、大型作品も手がけるなど迫力ある作風と、シリアスな社会的主題の中にも独特のユーモアと笑いを含んだ表現が注目を集めている。

「たゆまぬほくら」は、東京オリンピック・パラリンピック開催を控え、日本におけるスポーツ文化、学校での体育教育にあふれる、精神論的な健康至上主義をテーマとしている。選手らが語る「錬成すれば勝てる」「夢は実現できる」といった考え方の根底に、戦前から続く近代合理主義の徹底がある。公開制作では、戦前の歴史に取材した銀屏風を制作しつつ、近代オリンピックと聖戦のシンボル像「近代五種麿」に挑戦した。

制作プロセス:

あらかじめスケッチしたものも持参したが、現場でも部分のイメージをシャープペンシルで描く。それらを切り抜いて貼りあわせ、一つの画面に構成し、絵画としての力強いイメージを練りあげていく。スケッチを構成した下絵ができると、それにトレーシングペーパーを当てて、ペンで清書していく。歴史の本の図版などを参考にしながら、細部もしっかりと描き込む。下絵の清書も進み、本作の原画ができあがる。銀屏風は外して床に寝かせ、原画で確認しながら、トレースした線にそって黒いペンで塗る作業を、同時並行で進めた。

清書の完了した下絵を、版木の大きさに拡大コピーする。薄墨を塗った版木に大きなカーボン紙をはさんで当て、下絵の上から青いボールペンで精密にトレースしていく。トレースの完了した版木を、下絵を参考にしながら、彫刻

いて、手のひらサイズの立体作品を作った。小学生から一般まで幅広い年齢の参加者が、集中して造形活動に取り組んでいた。ことばと造形活動の両方から、自分の外側の世界と特別な関係をつくるワークショップとなった。

アーティストトーク:

約20年間の作家活動を紹介、また今回の公開制作を振り返った。



刀で彫り始める。トレースした線に沿いながらも、絵の力強さが出るように、彫り跡に独自の表情をつけていく。複数の彫刻刀を選びながら、版木を慎重に彫り進める。4つに分かれている版木のうち、左上のパーツをまず彫り終えた。版の彫りを進めつつ、大きな下図を床に広げて、銀屏風にも戦車などを描き進めた。

彫りあがった4分の1の版木から摺りを開始することにした。版木にローラーでインクをのせ、紙の裏にノレンを当てて擦り、紙へのインクの付き具合を確認しながら摺る。力を込めて万遍なくノレンを当て、念入りに摺る。4枚目が摺り上がり、版画の摺りが終わった。摺りあがった作品を床に並べて組み合わせると、画面全体の力強さが伝わってくる。摺り上がった4枚の版画を、一つずつ1枚の木製パネルに貼り込んでいく。版画は木製パネルへの貼り込みを終えて仕上げ、銀屏風も描き込みが完了した。本作を正面の壁面にかけて、銀屏風は右側の壁面に移動して立てかけて展示した。

完成作品:

《決闘!硫黄島(近代五種麿参上)》2017年、木版画(パネル・和紙・油性インク)、1210×1830mm
《人間富嶽》2017年、水性顔料ペン・油性ラッカー・アルミ箔・襖、1770×3370mm

ワークショップ:

参加者が自画像を木版で摺り、作品をピラミッド型に貼り合わせて、組体操の大作に仕上げた。

アーティストトーク:

ゲストがパソコンで写真を映しながら、今回の公開制作のテーマについて語り合あった。

公開制作 70

「すべての部分が固有の形になる」

アーティスト: 狩野哲郎

会期: 平成29年4月15日(土)~7月2日(日)

制作日: 4月15日(土)、16日(日)、23日(日)、29日(土・祝)、30日(日)、5月7日(日)、20日(土)、21日(日)、27日(土)、28日(日)

完成作品展示: 6月1日(木)~7月2日(日)

制作場所: 公開制作室

関連イベント:

[アーティストトーク]狩野哲郎、今井俊介(美術作家) 4月22日(土) (13名)
[アーティストトーク]狩野哲郎、青田真也(美術作家) 6月3日(土) (24名)

制作内容:

狩野哲郎は、既製品や種子・果実といった植物を組み合わせ、新しい「風景」を造り出してきた。公開制作にあたっては、三鷹のスタジオから材料や道具や書籍、また狩野の美術品コレクションである同世代作家たちのドローイングやオブジェを大量に持ち込んだ。

狩野は、部屋の中央に置いた直径2メートルのガラステーブルの上とその周囲にこれらの物たちを配していった。その際に物を分類し直し、置き替えた。その分類の方向は、一部の機能や形の類似性に注目して、同じ性質を持つ物だけを集め束ね重ねる、といったものだ。逆に異なる物どうしを組み合わせる場合もある。機能や形が唐突に切り離され、新たに継ぎ足される。こうして狩野による、物の概念を軽やかに転倒させ、物の世界を静かに攪乱す

公開制作 71

「回転から、はじまる」

アーティスト: 原倫太郎

会期: 平成29年7月15日(土)~10月22日(日)

制作日: 7月16日(日)、17日(月・祝)、23日(日)、29日(日)、8月6日(日)、12日(土)、13日(日)、15日(火)、18日(金)、20日(日)、22日(火)、24日(木)、27日(日)、9月9日(土)、10日(日)、12日(火)、13日(水)

制作場所: 公開制作室

関連イベント:

[ワークショップ]「ファンタスマゴリア」原倫太郎 9月24日(日) (20名)
[アーティストトーク]「動きと変換」原倫太郎 10月15日(日) (30名)

制作内容:

原倫太郎は、「動く」作品を作っている。空間の中でモノが回転したり、反復したりといった単純な運動をくり返すことで、作品は光と影によって微妙な表情を見せる。近年は、室内に張りめぐらしたテグス糸の上を、複数の球がゆっくりと同時に転がり、重力によって下降していく繊細な作品を発表している。白い壁のギャラリーだけでなく、民家などに設置することもあり、三次元空



る制作方法が明らかになっていった。作品となる前、作品となることを待っている物と、それらが作品へと変化する途中の状態、あるいは変化を終えた物たちが、同時に同空間に存在していた。

アーティストトーク:

公開制作前期と後期2回にわたり、トークを開催した。第1回ははためく布に似た抽象絵画を制作している今井俊介、第2回は物の表面を削り変容させる立体作品を作っている青田真也をゲストに迎え、それぞれの制作環境(スタジオ)とその様子を中心に語ってもらった。創造の環境と制作の過程との関係を考える機会となった。



間の特性を引き出す。動く物体とすでにある環境が響きあい、ユニークなインスタレーションの体験が生まれるのだ。原の作品はモーターなど電氣的動力を用いるため、20世紀に盛んとなったキネティック・アート(動く美術)の系譜を引き、今日でいうメディア・アート(電子機器等の先端テクノロジーを用いた芸術)に含めて考えることもできる。原はコンピュータによる作品も手がけるが、機械によってモノが動き、空間が変容することへの素朴な驚きが大きな魅力

となっている。公開制作によって空間がどのように変わるのかを楽しむ。

制作プロセス:

部屋をメジャーで測りながら、床にテープで印をつけ、図を描いていく。壁の高い位置に器具を取り付け、テグス糸を張り始める。壁に自作の器具を取り付け、テグス糸を張る。透明なテグス糸が、部屋に広がっていく。壁に折り返しの器具を取り付ける。白板にポイントをチェックする。部屋を横断するテグス糸のレールが増えていく。木材を適当な高さに切断し、ベルトに球を乗せて上方に運ぶリフトを製作した。

制作が進み、部屋中に糸が張り巡らされてくる。ときどき、球を転がして見せてみる。壁にリフトの器具を取り付ける。張り巡らした糸の上で球を転がす。2つのルートがほぼ完成し、球が転がり続ける。天井から木杵や車輪などを吊り下げて不思議な空間ができる。テグス糸の振動を拾い、音が聞こえるようにスピーカーも設置する。近寄って見に来るお客さんも増えてくる。木杵をカラーセロファンで装飾する。さまざまな仕掛けが空間中に作られ、その中をカラフルな球が駆け巡る。中央の台や床に引かれた糸が取り除かれ、さまざまな仕掛けが出来てきた。

室内にボール以外のさまざまな動く作品を設置する。部屋の床面中央には吊るされたパステルが回転する台が作られた。パステルの動きが風を送る

公開制作 72

アーティスト: 大小島真木

会期: 平成 29 年 11 月 3 日 (金・祝) - 平成 30 年 2 月 25 日 (日)

制作日: 11 月 3 日 (金・祝)、5 日 (日)、12 日 (日)、19 日 (日)、26 日 (日)、12 月 3 日 (日)、9 日 (土)、17 日 (日)、1 月 13 日 (土)、14 日 (日)

制作場所: 公開制作室

関連イベント:

「ワークショップ」「Growing drawing 育つドローイング」大小島真木

12 月 10 日 (日) (27 名)

「アーティストトーク」「絵の進化は、螺旋の如く」大小島真木

2 月 18 日 (日) (60 名)

制作内容:

眠る生き物たちから、新たな生命が芽生え、新しい生態系を生み出していく。鳥や獣、草や木をつなげて描き足していくことによって、生命が無限に連鎖する森羅万象を描き出す。あたかも「描く」という行為を通して、動物や植物たちに魂を吹き込んでいるかのようだ。

画家の大小島真木は、生きとし生けるものたちの世界をテーマに、複雑に絡み合う自然界の姿を縦横無尽に描く。その想像力は、ときに画面を飛び出して宇宙にまで広がり、人智を超えた壮大な自然の歴史を紡ぐ。大小島は、既成の絵画の枠に取まらず、壁や床、天井を使った作品も発表してきた。

一つの絵画から、複数のイメージが成長し、増殖し続ける絵画を「はみ出し壁画」と呼ぶ。公開制作では、人間たちが眠りについた時間、巨大な植物が爆発的に覚醒し、繁茂する様を綴る。たとえ人類が消滅しても、力強く成長し続ける生命の営みが、画家の手わざによって部屋いっぱい広がる。

ファンのスイッチを入れて、フィルムを揺らし、その振動を増幅してスピーカーで流す仕組みなどを作っていく。視覚だけでなく聴覚にも訴える作品へと発展する。ガラス戸の外に人が近づいたときに作品が動き出すようにするため、ロビー側にセンサーを取り付けた。上下するチェーンの床に鏡を設置した。作品の最終調整を行い、観客が見守る中で仕上げが完了した。

完成作品:

《回転から、はじまる》2017 年 インスタレーション スチロールボール、テグス、モーター、木材、鏡、プラスチック・チェーン、カラーフィルム、車輪、ミキサー、コンタクトマイク、アンプ

ワークショップ:

自分の身体や絵を影絵にして回転させて楽しむ。電球の光と熱を利用して絵が回転する灯籠を各自が作る。紙に穴をあけて内側から光らせ、暗くした講座室に運んで鑑賞した。

アーティストトーク:

作家自身が公開制作作品を解説し、過去作品を写真や映像で紹介し、これまでの歩みについてレクチャーした。



私たちを産み出す母なる大地の物語である。

制作プロセス:

壁面にケント紙を貼り、床には白く塗装したシナベニヤを敷き詰め、真っ白な空間を準備する。床面に小さな作品や物を星座のようにおいていく。その一つから、鉛筆や水彩絵の具を使って描き始めた。小さな作品から絵が空間へと広がりが始める。空間全体に下書きのような線が広がる。巨人の肋骨のようなものが現れ、壁と床をつなぐように背骨が描かれる。色鉛筆や水彩絵の具に加えて、スプレーも使う。

眠るヤマネコの絵と頭蓋骨の絵がつながる。背骨と肋骨から腕の骨格が伸びていく。巨人が横たわっているように見える。お客さんも近づいて作品をのぞき込んだりする。人体の胸骨、肋骨がはっきり見えてくる。床に全体のエスキースを広げ、一人黙々と制作を続ける。床の描き込みが広がってきて、途中で子どもが中に入って遊ぶ。絵の中に置かれた石なども増えて、床面に

アクリル絵の具を使って絵が広がっていく。奥の壁面などに手を入れていく。高い部分も脚立を使って描き加える。

床の絵には石やサンゴがおかれ、空間全体の描き込みが進み、いよいよ追い込みとなる。さまざまな岩石やサンゴなどをおいていく。子どもたちが中に入って遊んだり、お客さんが多く訪れたりするが、来場者のいる中でも描き続ける。最後の制作を行い、作品として完成した。人間の姿がよりはっきり浮かび上がってきた。奥の壁に手が描かれて、大きな人の姿が見える。自然からできている人類を暗示しているようだ。

完成作品:《万物の眠り、大地の血管》2018 年、絵画によるインスタレーション 板・紙・布・ラッカー・アクリル・油性色鉛筆・石・珊瑚・貝・米粉、稲穂ほか、277×548×458cm

2 | アートスタジオ

アートスタジオは平成 19 年度から、子どもから若者までの成長期にある 10 代の青少年を主な対象に、美術の学習を支援するプログラムとして、ティーンズスタジオの名称でスタートした。土曜日の午後を中心に、若手アーティストによる講師の指導と、ボランティアスタッフの援助により、さまざまな表現活動を楽しむとともに、学芸員のミニ・レクチャーや展覧会を鑑賞する活動も行った。平成 24 年度からは、主な対象者を 10 代にとどめずに大きく広げ、定期的に開催するワークショップ・シリーズとして、アートスタジオへと改称した。平成 21 年度からすでに第一土曜日は、だれでも手軽に体験できるオープンプログラムが始まっていたが、平成 24 年度からは最終土曜日に鑑賞を通して美術の理論を学ぶトークプログラムが新たにスタートした。中旬には、アートスタジオの基本となる、展覧会などと連動した通常プログラムを開催している。

平成 27 年度

■アートスタジオ

- 「笑う狗子のプローチを作ろう!」
4 月 5 日 高校生以上 16 名
馬場稔郎 (彫刻家)
内容: 桂材を彫刻刀で彫り、円山応挙《時雨狗子図》の子犬のプローチを作る。「動物絵画の 250 年」展関連ワークショップ。
- 「夏休み自由工房 in ばれたんリポート (1) なぞの未確認生物 (UMA) を作ろう!」
7 月 25 日 小学生以上 23 名
馬場稔郎 (彫刻家)
内容: 木材や好きな材料を使って、不思議な生き物を作る。
- 「夏休み自由工房 in ばれたんリポート (2) 未来の楽しい乗り物を作ろう!」
8 月 22 日 小学生以上 19 名
下角宗範 (彫刻家)
内容: 木材や好きな材料を使って、未来の乗り物を作る。

ワークショップ:

“眠る生き物たち”に植物を生やし育てる絵を描くワークショップ。作家によるレクチャーのあと、都立府中の森公園に出かけて自然をスケッチ、創作室で画用紙に動物の絵や写真をコラージュして自分の作品を作った。親子も多く、お互いに完成作品を見せ合った。

アーティストトーク:

海洋探査船での体験など世界を旅する多面的な活動も含め、これまでの歩みを作品の画像や動画とともに紹介し、公開制作の意図、自然と関わる自らの創作の基軸について語った。最後に聴講者の前でアーティストブック『ウオールド』を読み聞かせした。

- 「夏休みスペシャル 空飛ぶアートプーマン!」
7 月 29 日、8 月 1 日、5 日、8 日、12 日、15 日 911 名
山口健児 (画家)ほか
内容: 厚紙を切り抜いて絵を描き、自分だけのプーマンを作って遊ぶ。
- 「かざろう☆なかよしクロッキー」
10 月 17 日 小学 3 年生以上 8 名
丸山宏 (画家)
内容: 親子や兄弟、友人など、二人一組でお互いの姿を描き、特別な額を作って飾る。
- 「コースターにスクラッチ! かわいい森の生き物を描こう」
11 月 14 日、21 日 小学生以上 21 名
フクシマチヒロ (画家)
内容: 透明なアクリル板に絵の具を塗って削り取る「ジェッソスクラッチ」の技法で、かわいい森の生き物のコースターを作る。
- 「コラージュでつくるクリスマスカード」
12 月 12 日、19 日 小学生以上 17 名
玉木直子 (画家)
内容: 水彩とコラージュの技法で、ブック型やスタンド型など、いろいろな形のクリスマスカードを作る。
- 「あき缶むげん空間!」
1 月 16 日、23 日 22 名
下角宗範 (彫刻家)
内容: 持ち寄った缶の中に、粘土で作ったものや好きなものを入れて、思い出や夢、想像の空間を作る。
- 「影のかたち 在ることと無いこと」
2 月 20 日、21 日 小学生以上 17 名
桃田ちひろ (美術家)
内容: 色々な物体に光を当て、影の形を写し取ったり分解したりして、「もの」の存在について考える作品を制作する。

- ・「はじめての油絵」
3月26日　小学生以上22名
平丸陽子(画家)
内容:油絵の具の基本的な使い方を体験し、小さなキャンバスに作品を描く。

■アートスタジオ　オープンプログラム

- ・「飛べ!バードカイト」
4月4日　83名
杉浦藍(彫刻家)
内容:竹ひごを組み立て、透明なビニール袋に着色して、鳥の形をした風を作る。
- ・「風車のお花畑をつくろう!」
5月2日　77名
山口健児(画家)
内容:紙コップに切り込みを入れて色をつけ、花の形をした風車を作る。
- ・「卵のカラでモザイク画を作ろう」
6月6日　142名
丸山宏(画家)
内容:卵殻をアクリル絵の具で着彩し、紙に貼りつけて好きなものを描く。
- ・「べったん☆流れ星」
7月4日　140名
玉木直子(画家)
内容:紙で立体の星を作り、手作りスタンプなどで飾る。
- ・「葉っぱのキロク★森のブックマーク」
10月3日　129名
馬場稔郎(彫刻家)
内容:本物の葉を紙に色鉛筆でフロッタージュし、ラミネート加工してしおりを作る。
- ・「カリンバを作ろう!」
11月7日　119名
杉浦藍(彫刻家)
内容:親指で弾いて音を奏でるアフリカの楽器を作る。
- ・「すごろく判子をつくろう」
12月5日　92名
丸山宏(画家)
内容:コルクにスポンジで数字をつけたサイコロを作り、絵の具をのせて紙に転がす。
- ・「節分!小鬼の版画」
2月6日　113名
玉木直子(画家)
内容:段ボール、毛糸、プチプチなど手触りに特徴のある素材を並べて版を作り、紙に刷る。

■アートスタジオ　トークプログラム

- 「1940年代の美術」5月30日　15名
- 「1950年代の美術」6月27日　21名
- 「1960年代の美術」9月26日　18名
- 「1970年代の美術」10月31日　12名
- 「1980年代の美術」11月28日　18名
- 「1990年代の美術」1月30日　20名
- 「2000年代の美術」2月27日　13名

- 武居利史(当館学芸員)
内容:「戦後70年の日本美術」をテーマとした、鑑賞を通して美術の理論を学ぶワークショップ。

平成28年度

■アートスタジオ

- ・「ファンタスティック!江戸絵画から生まれる不思議手ぬぐい」
4月16日　30名
林瑠璃(テキスタイルデザイナー)
内容:紙版画のスタンプをぺたぺた押して、江戸絵画の不思議な世界をイメージした手ぬぐいを作る。「ファンタスティック」展関連ワークショップ。
- ・「平面は、立体に、そして空間へ　イメージを彫刻する」
6月11日　15名
森豪男(デザイナー、武蔵野美術大学名誉教授)
内容:音楽を聴いて生まれ出た何気ないイメージを講師との対話を通じ、自由に実体化する。
- ・「細密画に挑戦!(水彩画編)」
6月18日　高校生以上22名
立石雅夫(女子美術大学名誉教授)
内容:水彩画で細密画に挑戦する。立石鐵臣展関連ワークショップ。
- ・「細密画に挑戦!(アクリル画編)」
6月25日　高校生以上22名
石田淳一(画家)
内容:アクリル絵具で細密画に挑戦する。立石鐵臣展関連ワークショップ。
- ・「夏休みスペシャル　輪ゴムギターを作ろう!」
7月27日、30日、8月3日、6日、10日、13日　610名
馬場稔郎(彫刻家)
内容:段ボールや輪ゴム、紙皿などの身近な材料を使って、好きなデザイン of ギターを作る。
- ・「夏休み自由工房　トントンとことん!ゆめのしろ」
8月20日、21日　小中学生42名
下角宗範(彫刻家)、馬場稔郎(彫刻家)
内容:木材や好きな材料で木工具などを用い、形や大きさも自由に夢のおしろを作る。
- ・「秋色に染めよう!和紙染め表紙のアコーディオンアルバム」
11月12日　小学5年生以上7名
吉池さとみ(画家)
内容:和紙折り染めで表紙を作り、絵葉書や写真を貼り込めるアコーディオンアルバムの製本を体験する。
- ・「透明アクリルでコースターを作ろう」
1月14日　小学生以上21名
フクシマチヒロ(画家)
内容:透明なアクリル板に絵の具を塗り、引っかけて絵を描く「ジェッソスクラッチ」の技法で、ガラス絵風のコースターを作る。「ガラス絵　幻惑の200年史」展関連ワークショップ。
- ・「ガラス絵を描く」
2月11日、18日　小学5年生以上22名
藪野健(画家、当館館長)
内容:2週連続講座で、ガラス絵の制作を体験する。「ガラス絵　幻惑の200年史」展関連ワークショップ。

■アートスタジオ　オープンプログラム

- ・「きらきら絵具で何を描く?」
4月2日　169名
山口健児(画家)
内容:日本画材である水干雲母や水干絵具を膠で溶いて色紙に夢などを描く。
- ・「でんでん太鼓をつくろう!」
5月7日　150名
杉浦藍(彫刻家)
内容:回転させると玉が当たって音の出る太鼓を厚紙などで作る。
- ・「発見!?世界で1匹の虫!!」
6月4日　170名
山口健児(画家)
内容:厚紙を二つ折りにして切り出し、折り紙やキラキラテープなどを好きな形に切って貼ってオリジナルの虫をデザインする。
- ・「アニマルモデルを描こう!」
7月2日　138名
馬場稔郎(彫刻家)
協力:東京農工大学のたつと〜人と動物を結ぶ会
内容:東京農工大学で飼育されているヤギやラットをモデルに、その動きを生き生きと描く。
- ・「大好きな人はどんな顔?肖像画スタンド」
9月3日　31名
山口健児(画家)
内容:色画用紙に家族や友だちなど大切な人の、その人らしい顔や姿を描いて自立式の額をつける。
- ・「きらきら回る小さな世界　万華鏡を作ろう」
10月1日　138名
竹中美幸(画家)
内容:ミラーテープと小さな筒を使って万華鏡を作る。
- ・「のぞいてプラネタリウム☆自分だけの星空を作ろう!」
11月5日　84名
杉浦藍(彫刻家)
内容:黒い厚紙に星座のように穴を開けてのぞいて見られるプラネタリウムを作る。
- ・「ペーパードールを作ろう!」
12月3日　85名
馬場稔郎(彫刻家)
内容:厚紙に好きな絵を描いて、はさみで切り抜き、手足などが動くペーパードールを作る。
- ・「描き初め!滲みの中に何が見える?」
1月7日　92名
山口健児(画家)
内容:色紙に膠で溶いた水干絵の具を、水でにじませて、その中に見えてくるものを墨の線で描く。
- ・「羽ばたく鳥モビール」
2月4日　123名
杉浦藍(彫刻家)
内容:厚紙を切って着色して糸と輪ゴムで吊るし、鳥の形をしたモビールを作る。

■アートスタジオ　トークプログラム

- 「コンセプチュアル・アート」10月29日　10名
- 「ビデオ・アート」11月19日　9名
- 「リレーショナル・アート」12月10日　10名
- 「メディア・アート」1月21日　19名
- 「グラフィティ・アート」2月25日　6名
- 「ソーシャル・アート」3月25日　12名
- 武居利史(当館学芸員)、勝俣涼(美術批評)
内容:「3.11以後の日本のアート」をテーマとした、鑑賞を通して美術の理論を学ぶワークショップ。

平成29年度

■アートスタジオ

- ・「夏休み自由工房　うごく動物彫刻を作ろう!」
7月22日、23日、8月19日、20日　小学生以上45名
下角宗範(彫刻家)、馬場稔郎(彫刻家)
内容:木材や好きな材料を使い、1日かけて一部が動く仕組みを取り入れた動物の彫刻を作る。
- ・「夏休みスペシャル　どうぶつ手ぬぐい〜象と白牛の物語〜」
7月26日、29日、8月2日、5日、9日、12日　867名
林瑠璃(テキスタイルデザイナー)ほか
内容:切り抜いた紙型で布にプリントして動物柄の手ぬぐいを作る。象と白牛の葉を作った川崎平右衛門没後250年にちなんだ企画。
- ・「プチ遠足〜写真でポストカード作り」
9月23日　13名
ニシガキヒロミ(アーティスト)
内容:都立野川公園に出かけて写真撮影し、プリントした写真に絵を描いてオリジナル・ポストカードを作る。
- ・「アウトリーチ(出張企画)　未来想像スタジアム　こころの目で描こう!」
10月28日　50名
馬場稔郎(彫刻家)
府中市市民活動センタープラッツ・オープンスペース
内容:目を閉じて想像して自分の夢や未来を描く。東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた1,000日前イベント。

■アートスタジオ　オープンプログラム

- ・「桜の花を墨で描こう!」
4月1日　48名
山口健児(画家)
内容:墨や淡墨などを使って和紙に桜の花や木を描く。
- ・「みんなで作ろう!ねんどZoo」
5月6日　152名
馬場稔郎(彫刻家)
内容:カラフルな小麦粉粘土で、好きな動物を作り、みんなで動物園を作る。
- ・「ポップアップ☆絵本」
6月3日　121名
山口健児(画家)
内容:画用紙を切り貼りして折り紙やマジックで色をつけ、二つ折りの台紙を開くと飛び出す絵本を作る。

- ・「たなばた＊ミルキウエイ」
7月1日　108名
馬場稔郎(彫刻家)
内容:折り紙とスズランテープなどの素材を組み合わせて、風にそよぐ七夕飾りを作る。
- ・「トートバッグにプリントしよう」
10月7日　188名
林瑠璃(テキスタイルデザイナー)
内容:用意されたトートバッグのほか、持参の好きな布に、シルクスクリーンでさまざまな柄をプリントする。
- ・「窓辺にぴったりのピンをつくろう」
11月4日　110名

3 | ワークショップ

府中市教育委員会・府中市立小中学校長会・府中市立小中学校教育研究会との共催により、府中市立小中学校の児童第4-6学年、同中学校の生徒第1学年を対象に、美術館の展示作品（および美術館の建築と館内の諸施設）を鑑賞する学習プログラムである。

ワークショップは、専門家の講師による指導を受けながら、受講者が集まり、体験を共有しながら学習するプログラムである。開館以来、絵画、彫刻、工芸から現代美術、デザインまで幅広い内容をとりあげてきた。また、レベルも中級から上級者向きのものまで多彩なプログラムを用意し、子ども向けの企画等も積極的に開催してきたものである。平成24年度から、ティーンズスタジオに代わって、定期的なワークショップ・シリーズであるアートスタジオがスタートした。そのため、単独企画によるワークショップの開催回数は少なくなったが、公開制作などに関連したもの、市民団体との連携によるものなどは継続されることになり、多様な事業・団体との連携を図りながら開催を続けている。

平成27年度

- ・「公開制作関連ワークショップ　素材発見!自分発見!オリジナルネームプレートを作る」
5月23日　幼児以上15名
西館朋央(アーティスト)
内容:廃材や持参したお気に入りの物を組み合わせて、ネームプレートを作る。
- ・「公開制作関連ワークショップ　名は体を表す？イニシャル入りのトートバッグを作る」
6月21日　中学生以上8名
バンドウジロウ(アーティスト)
内容:自分のイニシャルをデザインし、プリントしてオリジナルのバッグを作る。
- ・「公開制作関連ワークショップ　トンネル閉じて開かれる夢の世界を見てみよう!」
9月13日　小学生以上33名
パルコキノシタ(アーティスト)
市民ギャラリー
内容:段ボールで秘密のトンネルを作り、自由に遊ぶ。
- ・「みず絵とすみ絵のおもしろワークショップ」
10月11日　66名
石川咲登子
内容:「市民文化の日」で、水彩画と水墨画を体験する。

- 久保萌菜(画家)
内容:透明シートをいろいろな形に切って貼り、窓辺に飾るときれいなピンを作る。
- ・「紙粘土でクリスマス・ランプシェード」
12月2日　114名
山口健児(画家)
内容:プラスチックコップに紙粘土を貼りつけて光り輝くランプシェードを作る。
- ・「ポップینگ・ペインティング」
2月3日　88名
久保萌菜(画家)
内容:雑誌などからまるくくり抜いた色とりどりの紙を、パネルに貼って絵を完成させる。

府中市教育委員会・府中市立小中学校長会・府中市立小中学校教育研究会との共催により、府中市立小中学校の児童第4-6学年、同中学校の生徒第1学年を対象に、美術館の展示作品（および美術館の建築と館内の諸施設）を鑑賞する学習プログラムである。

府中市教育委員会・府中市立小中学校長会・府中市立小中学校教育研究会との共催により、府中市立小中学校の児童第4-6学年、同中学校の生徒第1学年を対象に、美術館の展示作品（および美術館の建築と館内の諸施設）を鑑賞する学習プログラムである。小学校は「展示作品の鑑賞を通して、美術作品のよさや美しさ、表し方への関心を高め、豊かな情操を養うとともに、自らが主体的に意欲や興味をもって鑑賞する態度を育てる」ことを目的としている。おおむね、小学校は学年単位の団体鑑賞（図工教員と教育普及担当学芸員が事前に打合せをし、学芸員がギャラリートークを行い、授業内容の向上を図っている）、中学校は各校の鑑賞計画にもとづいて生徒の個別鑑賞によってとりくんでいる。

平成28年度

- ・「公開制作関連ワークショップ　木製オリジナルコースターづくり」
5月28日　小学4年生以上11名
西本良太(木工作家)
内容:身近な型を使いハンダゴテで木製コースターに模様を入れる。
- ・「企画展関連ワークショップ　つくって、かぶって、なりきり体験」
8月28日　小学生以上11名
海老沢一仁(アトリエこえび代表)
内容:展示作品をまねた「かぶりもの」を作り、作品に対面する鑑賞体験を行う。
- ・「みず絵とすみ絵のおもしろワークショップ」
10月9日　129名
地域美術
内容:「市民文化の日」で、水彩画と水墨画を体験する。
- ・「公開制作関連ワークショップ　お気にいりの風景を集めて、手のひらに乗せてみよう」
10月10日　小学4年生以上18名
谷山恭子(アーティスト)
内容:自分の気になる風景の写真を持ち寄り、その風景がなぜ好きなのかを考える。写真から気になる色と形を取り出し、手のひらサイズの立体作品を作る。
- ・「公開制作関連ワークショップ　木版画で参加!夢りんぴっく」
2月12日　小学5年生以上9名
風間サチコ(美術家)
内容:木版による共同制作を行う。

平成29年度

- ・「公開制作関連ワークショップ　ファンタスマゴリア」
9月24日　小学生以上20名
原倫太郎(美術家)
内容:自分の身体や絵を影絵にして回転させて楽しむ。

- ・「みず絵とすみ絵のおもしろワークショップ」
10月8日　203名
地域美術
内容:「市民文化の日」で、水彩画と水墨画を体験する。
- ・「公開制作関連ワークショップ　Growing drawing　育つドローイング」
12月10日　27名

府中市教育委員会・府中市立小中学校長会・府中市立小中学校教育研究会との共催により、府中市立小中学校の児童第4-6学年、同中学校の生徒第1学年を対象に、美術館の展示作品（および美術館の建築と館内の諸施設）を鑑賞する学習プログラムである。

4 | 美術鑑賞教室

府中市教育委員会・府中市立小中学校長会・府中市立小中学校教育研究会との共催により、府中市立小中学校の児童第4-6学年、同中学校の生徒第1学年を対象に、美術館の展示作品（および美術館の建築と館内の諸施設）を鑑賞する学習プログラムである。

府中市教育委員会・府中市立小中学校長会・府中市立小中学校教育研究会との共催により、府中市立小中学校の児童第4-6学年、同中学校の生徒第1学年を対象に、美術館の展示作品（および美術館の建築と館内の諸施設）を鑑賞する学習プログラムである。小学校は「展示作品の鑑賞を通して、美術作品のよさや美しさ、表し方への関心を高め、豊かな情操を養うとともに、自らが主体的に意欲や興味をもって鑑賞する態度を育てる」ことを目的としている。おおむね、小学校は学年単位の団体鑑賞（図工教員と教育普及担当学芸員が事前に打合せをし、学芸員がギャラリートークを行い、授業内容の向上を図っている）、中学校は各校の鑑賞計画にもとづいて生徒の個別鑑賞によってとりくんでいる。

府中市教育委員会・府中市立小中学校長会・府中市立小中学校教育研究会との共催により、府中市立小中学校の児童第4-6学年、同中学校の生徒第1学年を対象に、美術館の展示作品（および美術館の建築と館内の諸施設）を鑑賞する学習プログラムである。

5 | 教員研修会

府中市教育委員会・府中市立小中学校長会・府中市立小中学校教育研究会との共催により、府中市立小中学校の児童第4-6学年、同中学校の生徒第1学年を対象に、美術館の展示作品（および美術館の建築と館内の諸施設）を鑑賞する学習プログラムである。

学校教員を対象にした図工・美術に関する研修会や研究会を開催している。美術館には、本物の美術作品があり、生きた鑑賞学習を体験することが可能であるとともに、関係する作家などの人的な資源や、美術に関する情報も集積しており、地域の図工・美術教育の研修や研究に貢献している。単独主催のものほかに、教育委員会や教員の自主的な研究団体との共催によるものなどがあり、美術館が活発に利用されている。また、研究団体による大規模な大会の会場ともなっており、府中市内のみならず東京都や全国の図工・美術教育の学校教員とも連携を図っている。

平成27年度

- ・「府中市立小中学校教育研究会図工美術部　中学生のためのギャラリートツアー」
武居利史(当館学芸員)
7月31日　府中市立中学校美術科教諭11名、中学生100名
- ・「稲城市教育研究会図工美術部　教員向け美術館研修」
武居利史(当館学芸員)
8月25日　稲城市立小中学校図工美術教諭17名
- ・「調布市教育研究会　美術鑑賞学習研修」
武居利史(当館学芸員)

- 大小島真木(画家)
内容:“眠る生き物たち”に植物を生やし育てる絵を描く。
- ・「企画展関連ワークショップ　ほぼ津上さん@あなたの府中」
2月17日　小学生以上19名
津上みゆき(画家)
内容:風景を描くことを通して、自然にじっくりと向き合う。

府中市教育委員会・府中市立小中学校長会・府中市立小中学校教育研究会との共催により、府中市立小中学校の児童第4-6学年、同中学校の生徒第1学年を対象に、美術館の展示作品（および美術館の建築と館内の諸施設）を鑑賞する学習プログラムである。

府中市教育委員会・府中市立小中学校長会・府中市立小中学校教育研究会との共催により、府中市立小中学校の児童第4-6学年、同中学校の生徒第1学年を対象に、美術館の展示作品（および美術館の建築と館内の諸施設）を鑑賞する学習プログラムである。

府中市教育委員会・府中市立小中学校長会・府中市立小中学校教育研究会との共催により、府中市立小中学校の児童第4-6学年、同中学校の生徒第1学年を対象に、美術館の展示作品（および美術館の建築と館内の諸施設）を鑑賞する学習プログラムである。

平成27年度

- 府中市立小学校美術鑑賞教室　小学生2,060名、引率者119名
- 府中市立中学校美術鑑賞教室　中学生1,732名

平成28年度

- 府中市立小学校美術鑑賞教室　小学生2,099名、引率者124名
- 府中市立中学校美術鑑賞教室　中学生1,577名

平成29年度

- 府中市立小学校美術鑑賞教室　小学生2,122名、引率者130名
- 府中市立中学校美術鑑賞教室　中学生1,688名

府中市教育委員会・府中市立小中学校長会・府中市立小中学校教育研究会との共催により、府中市立小中学校の児童第4-6学年、同中学校の生徒第1学年を対象に、美術館の展示作品（および美術館の建築と館内の諸施設）を鑑賞する学習プログラムである。

府中市教育委員会・府中市立小中学校長会・府中市立小中学校教育研究会との共催により、府中市立小中学校の児童第4-6学年、同中学校の生徒第1学年を対象に、美術館の展示作品（および美術館の建築と館内の諸施設）を鑑賞する学習プログラムである。

府中市教育委員会・府中市立小中学校長会・府中市立小中学校教育研究会との共催により、府中市立小中学校の児童第4-6学年、同中学校の生徒第1学年を対象に、美術館の展示作品（および美術館の建築と館内の諸施設）を鑑賞する学習プログラムである。

- 11月11日　調布市立小中学校教諭18名
- ・「多摩地区図画工作教育研究会　冬期授業指導研究会」
武居利史(当館学芸員)
12月17日　多摩地区小学校図工教諭ほか87名

平成28年度

- ・「府中市立小中学校教育研究会図工美術部　中学生のためのギャラリートツアー」
武居利史(当館学芸員)
7月30日、31日　府中市立中学校美術科教諭18名、中学生90名
- ・「社会体験研修(10年経験者研修)」
武居利史(当館学芸員)
8月20日、21日、23日　東京都公立中学校教諭1名
- ・「多摩地区図画工作教育研究会　鑑賞公開授業・研修会」
武居利史(当館学芸員)
3月14日　多摩地区小学校図工教諭ほか79名

平成29年度

- 「多摩市小学校教育研究会図画工作部」
武居利史(当館学芸員)

6月21日	多摩市立小学校図工教諭20名	中村一哉（前府中市立府中第五中学校校長）
・「杉並区教育研究会図工部」		8月7日　東京都公立中学校教諭100名
志賀秀孝（当館副館長補佐）		・「府中市教育研究会　美術館研修（東京都美術館）」
6月22日　杉並区立小学校図工教諭19名		美術館研修（東京都美術館）
・「東京都教職員研修センター　専門性向上研修『美術館を活用した対話による鑑賞の指導』」		8月23日　府中市立小中学校図工美術教諭20名

6 | 団体鑑賞支援

団体鑑賞支援は、府中市立小中学校の鑑賞教室をのぞく、学校教育や社会教育の団体・機関による鑑賞を、学芸員等が解説や指導にあたることで支援する活動を指す。府中市立小中学校において、美術鑑賞教室以外にも学校独自の活動として鑑賞の授業や見学が行われている。またPTAや私立の学校、市外の学校による鑑賞活動もある。幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校など、さまざまな校種において美術館の利用を推進している。

平成27年度

- 「府中市適応指導教室　けやき教室」
- 志賀秀孝、音ゆみ子（当館学芸員）
- 6月10日、10月20日、2月9日　31名
- ・「調布市立八雲台小学校4年生団体鑑賞」
- 小林真結（当館学芸員）
- 8月27日　小学4年生90名、引率者5名
- ・「府中市立府中第四中学校特別支援学級宿泊学習」
- 武居利史（当館学芸員）
- 11月12日　中学生19名、引率者7名
- ・「府中市立若松小学校3年生団体鑑賞」
- 武居利史（当館学芸員）、多摩地区図画工作教育研究会
- 12月17日　小学3年生131名

平成28年度

- ・「府中市適応指導教室　けやき教室」
- 小林真結、音ゆみ子（当館学芸員）
- 6月14日、10月18日　23名
- ・「調布市立神代中学校1年生団体鑑賞」
- 小林真結（当館学芸員）
- 5月2日　中学1年生247名、引率者17名
- ・「府中市立第三小学校3年生団体鑑賞」
- 武居利史（当館学芸員）
- 6月3日　小学3年生143名、引率者7名
- ・「調布市立富士見台小学校4年生団体鑑賞」
- 武居利史（当館学芸員）
- 6月17日　小学4年生66名、引率者6名
- ・「武蔵村山市立第九小学校5年生団体鑑賞」
- 小林真結（当館学芸員）、志賀秀孝（当館学芸係長）

- 6月28日　小学5年生49名、引率者5名
- ・「府中市立若松小学校6年生」
- 武居利史（当館学芸員）、多摩地区図画工作教育研究会
- 3月14日　小学6年生104名

平成29年度

- ・「東村山市立萩山小学校6年生団体鑑賞」
- 武居利史（当館学芸員）
- 5月30日　47名
- ・「清瀬市郷土博物館友の会団体鑑賞」
- 小林真結（当館学芸員）
- 6月1日　23名
- ・「東京学芸大学附属小金井小学校団体鑑賞」
- 小林真結（当館学芸員）
- 6月2日　105名
- ・「府中市適応指導教室　けやき教室」
- 志賀秀孝（当館副館長補佐）
- 6月13日　11名
- ・「武蔵村山市立第九小学校5年生団体鑑賞」
- 小林真結（当館学芸員）
- 6月27日　51名
- ・「天神一団・三団団体鑑賞」
- 武居利史（当館学芸員）
- 7月15日　21名
- ・「六小団団体鑑賞」
- 音ゆみ子（当館学芸員）
- 7月20日　20名

7 | 大学等連携事業

●博物館実習

府中市美術館では平成13年度から博物館実習生を受け入れている。多くの大学からの要望に公平に応えられるよう、毎年、各大学より1名ずつ受け入れている。

平成27年度

実習生11名　7月28日-8月7日(8日間、土日月を除く)

平成28年度

実習生16名　7月26日-8月5日(8日間、土日月を除く)

平成29年度

実習生10名　7月25日-8月4日(8日間、土日月を除く)

〔受け入れ大学名〕
桜美林大学、共立女子大学、実践女子大学、上智大学、女子美術大学、成城大学、清泉女子大学、大正大学、大東文化大学、多摩美術大学、帝京大学、東京学芸大学、東京工芸大学、東京女子大学、東京造形大学、東洋大学、日本大学、日本女子大学、一橋大学、武蔵大学、武蔵野音楽大学、武蔵野美術大学、明治学院大学、明星大学、目白大学、立教大学、和光大学

●大学連携事業

平成27年度

- ・「彫刻と対話法」
- 6月16日-28日
- 主催:武蔵野美術大学彫刻学科研究室・府中市美術館
- 会場:市民ギャラリー
- 内容:武蔵野美術大学大学院彫刻コース2年生9名の作品展示と、公開講評を行った。美術館を専門教育の場として活用し、また学内での発表が多い学生の作品を美術館で紹介する機会とした。
- 出品者:佐藤瑞穂、鈴木恵里、高橋美帆、寺田藍、永井天陽、保坂涼子、細川ひかる、松下沙織、山田耕太郎
- 入場者数 :671名(1日平均56名)
- 関連企画:
 - トークイベント「彫刻はどこへゆくのか」6月16日　岡崎乾二郎、三沢厚彦、松下沙織、山村仁志(25名)
 - トークイベント「イメージとの対話」6月21日　遠藤利克、伊藤誠、黒川弘毅、細川ひかる、武居利史(25名)
 - トークイベント「思考と彫刻」6月27日　戸谷茂雄、高柳恵理、佐藤瑞穂、神山亮子(50名)
- ・「武蔵野美術大学芸術文化学科アーツプロジェクト」
- 神山亮子（当館学芸員）9月-1月　4名
- ・「首都大学東京システムデザイン学部美術博物館実習」
- 武居利史（当館学芸員）

- 10月3日　5名
- ・「千葉大学博物館学芸員資格取得コース」
- 武居利史（当館学芸員）
- 10月18日　15名

平成28年度

- ・「彫刻と対話法II　＜作家＞から見た世界」
- 6月28日-7月3日
- 主催:武蔵野美術大学大学院彫刻コース/芸術文化政策コース・府中市美術館
- 会場:市民ギャラリー
- 内容:武蔵野美術大学大学院彫刻コース2年生10名の作品展示。全体の空間構成をゲスト作家である狩野哲郎が行った。同大学院芸術文化政策コースの学生が作品解説リーフレットの執筆・編集等を通して批評の実践を試みた。また広報活動など展覧会運営も担った。
- 出品者:荒木勝貴、稲葉庸介、大野陽生、オノラ・ルイジ、李赫奕、狩野哲郎（ゲスト作家）、申圭恒、中川智香子、中山裕斗、森崎里菜、渡辺早代
- 入場者数:748名
- 関連企画:
 - トークイェント「他者の視点」7月3日　講座室　高島直之、狩野哲郎、富井大裕、参加学生、武居利史（司会）(45名)
- ・「武蔵野美術大学芸術文化学科アーツプロジェクト」
- 神山亮子、武居利史（当館学芸員）
- 9月-12月　7名
- ・「千葉大学博物館学芸員資格取得コース」
- 武居利史（当館学芸員）
- 9月3日　23名
- ・「首都大学東京システムデザイン学部美術博物館実習」
- 武居利史（当館学芸員）
- 10月8日　12名
- ・「東京学芸大学大学院見学」
- 武居利史（当館学芸員）
- 1月28日　10名

平成29年度

- ・「彫刻と対話法III　思い通りにする、をするか」
- 6月13日-25日
- 主催:武蔵野美術大学大学院彫刻コース/芸術文化政策コース・府中市美術館
- 会場:市民ギャラリー
- 内容:武蔵野美術大学大学院彫刻コース2年生11名の作品展示。同大学院芸術文化政策コースの学生が作品解説リーフレットの執筆・編集等を通して批評の実践を試みた。市内小学校の連携授業では、学生（出品作家）が講師となって作品の制作意図や素材、技術について説明し、子

子どもたちの質問に応えるとともに、造形活動を行った。 出品作家:李旭、細井えみか、黄相求、趙許偲、竹内美澄、高橋基、高橋萌、曾現芳、鄭恵弁、亀元円、大石一貫 入場者:637名 関連企画: 「公開講評会」6月18日　彫刻科・芸術文化学科教員(26名) 「トークイベント　思い通りにする、をしたか」6月18日　講座室　和田昌宏、出品者(32名) 「府中市立若松小学校連携授業」6月15日、22日　6年生3クラス(106名) ・「千葉大学博物館学芸員資格取得コース」 武居利史(当館学芸員) 9月26日　15名 ・「首都大学東京システムデザイン学部美術博物館実習」 武居利史(当館学芸員) 9月26日　10名

●保育連携事業

平成27年度

- 子育てひろば「はじめてアート」
- 保育支援課地域子育て支援担当保育士、武居利史・小林真結ほか(当館学芸員)
- 4月22日、6月23日、8月19日、11月10日、2月23日　0歳児と保護者81組162名

平成28年度

- 子育てひろば「はじめてアート」
- 保育支援課地域子育て支援担当保育士、武居利史・小林真結ほか(当館学芸員)
- 4月20日、6月23日、8月23日、11月15日、2月22日　0歳児と保護者73組146名

平成29年度

- 子育てひろば「はじめてアート」
- 保育支援課地域子育て支援担当保育士、武居利史・小林真結ほか(当館学芸員)
- 4月19日、6月23日、8月22日、11月14日、2月15日　0歳児と保護者64組128名

●市民協働事業

平成27年度

- 「オーケストラ探検コンサート　ウィーンの森の物語」
- 日本サロンコンサート協会
- 1月31日　88名

平成28年度

- 「ミュージアム・マジックショー　とことん!モンちゃんパワー〜♪」
- モンブラン(マジシャン)
- 8月11日　295名
- 「地図作りから見てくるもの、できることーアートマップ編」
- 10月9日

- 主催:府中市美術館
- 協力:アーティスト・コレクティヴ・フチュウ(ACF)
- 講師:三星安澄(グラフィックデザイナー)、ヨネザワエリカ(ライター)
- 内容:地図を通して地域の魅力を発見し、地図をつかって地域に関わる、そんな地図の力を味方につけ、府中のアートシーンを「見える化」する可能性を探る講演会。荻窪と墨田で地図作り、街の魅力作りにたずさわる講師が、具体的な経験やノウハウを話した。

- 「ミーティング・ポイント2016ー金田実生、坂田峰夫、木村俊幸、箕輪亜希子」
- 「フェット・プロジェクト2016」
- 12月7日-12月11日
- 主催:府中市美術館
- 会場:市民ギャラリー

- 内容:「フェット　FUCHU TOKYO 2016」との連動企画として共催展示ほかを実施。「フェット　FUCHU TOKYO 2016」は、府中市在住の作家と関係者による団体(アーティスト・コレクティブ・フチュウ)が、市内の創作と発表の活動拠点を可視化し、市民の芸術活動の振興を目的として実施した芸術祭(28年度府中市市民提案型市民活動支援事業)。美術館は、マップ作りと告知活動への協力(館内での配布)を行い、また会期中はインフォメーションセンターの機能を担い、マップ配布と案内を行った。市民ギャラリーでは、「ミーティング・ポイント2016ー金田実生、坂田峰夫、木村俊幸、箕輪亜希子」として、府中市在住の現代美術家4人による絵画、写真、ミクストメディア、映像作品を展示。「フェット・プロジェクト2016」は、市内のアートのスペースであるLOOP HOLE、GALLERY HIREMINE TOKYO推薦による美術家7名(村上綾、岡野智史、大久保具視、小野冬黄、上村洋一、鈴木知佳、新井李奈)によるグループ展。
- 入場者:694名

平成29年度

- 「星降る夜の公園&美術館」
- 都立府中の森公園
- 12月16日　300名
- 「ふれあいこどもまつり　おもしろパフォーマンス『Nightで何とクラウン笑Time』」
- TOTTA(クラウンパラダイス)
- 12月16日　150名
- 「『本を、つくってみた』展トークイベント『それぞれの視点からの本』」
- 「本を、つくってみた」展出品作家ほか
- 1月21日　50名

4ボランティア活動

- 開館以来、ボランティア活動は企画展や公開制作などの事業の際にそのつど募集して実施してきた。平成18年度からは、市民との協働を推進するため、地域で活動するNPOと連携したボランティアスタッフ育成事業に着手し、年間を通じた登録制ボランティアとして「府中市美術館サポートスタッフ」を発足させた。平成21年度には「府中市美術館ボランティア」に改称した。ボラン

平成27年度

- 館長講演会「記憶と表現」メンバーシップ&ボランティア説明会
- 4月29日　40名
- 藪野健(当館館長)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
ボランティア登録者数	199	210	221
参加者数	610	505	471

5市民文化の日

- 開館5周年となる平成17年度以降、府中市美術館では毎年10月に開館記念日を設定し、常設展及び企画展の観覧料を無料とすることで、利用者の拡大、広報啓発活動の推進を図ってきた。平成21年度からは、近隣に位置する府中市生涯学習センター、府中の森芸術劇場、そして都立府中の森公園を加えた4施設の共同企画による「府中の森文化まつり」を開催し、無料観覧のほか様々なイベントを開催してきた。

- さらに平成26年度、府中市は10月の第2日曜日を「市民文化の日」として

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
開催日	10月11日	10月9日	10月8日
参加者数	3,026	2,893	4,784

- ティアスタッフには、ミーティングや研修を通じて資質の向上を図ってもらいながら、アートスタジオやワークショップの補助、彫刻メンテナンス、来館者への情報サービスや広報宣伝、そしてイベント時の案内などの活動を行っていたいている。また随時ボランティア説明会等を開催している。

- 館長講演会「バリエを歩く」メンバーシップ&ボランティア説明会
- 10月12日　50名
- 藪野健(当館館長)

6 | 市民ギャラリー

1 | 利用一覧

No. 期間	展覧会名
平成 27 年度	
1 4.2(木)~4.5(日)	三多摩盆栽会盆栽展
2 4.7(火)~4.12(日)	第28回府中油絵同好会
3 4.14(火)~4.19(日)	日本水彩画東京西支部展
4 4.22(水)~4.26(日)	第8回水彩画サークルばれっと展示会
5 4.28(火)~5.6(日)	府中の文化財展
6 5.19(火)~5.20(水)	陶器展I
7 5.26(火)~6.7(日)	木版画がつなぐ心とココロ 少年たちの共同制作と棟方末華&井上勝江
8 6.9(火)~6.14(日)	中島仁司写真展2015~層
9 6.16(火)~6.28(日)	彫刻と対話法
10 6.30(火)~7.5(日)	第6回多摩アンデパンダン展
11 8.5(水)~8.9(日)	第65回はたらく消防の写生会入賞作品展
12 8.11(火)~8.23(日)	ばれたんのおたんじょうび会
13 8.25(火)~8.30(日)	追悼 清水正夫油絵展
14 9.13(日)~9.13(日)	公開制作ワークショップ
15 9.15(火)~9.20(日)	第51回府中市民芸術文化祭(彫刻展)
16 9.29(火)~10.4(日)	第51回府中市民芸術文化祭(写真展)
17 10.6(火)~10.11(日)	第51回府中市民芸術文化祭(日本画展)
18 10.12(月・祝)~10.18(日)	第51回府中市民芸術文化祭(版画展)
19 10.20(火)~10.25(日)	第51回府中市民芸術文化祭(工芸展)
20 10.27(火)~11.1(日)	第51回府中市民芸術文化祭(洋画展)
21 11.5(木)~11.8(日)	玄樸会書展
22 11.17(火)~11.22(日)	第7回牛の会
23 11.23(月・祝)~11.29(日)	角木綿子パッチワークキルトサークル展
24 12.15(火)~12.20(日)	多摩のともだち展
25 1.9(土)~1.17(火)	第60回北多摩公立中学校美術展
26 1.22(金)~2.2(火)	府中市小中学校連合書写展
27 2.3(水)~2.14(日)	第19回府中市小中学校連合図工美術展
28 2.16(火)~2.28(日)	府中市市民美術展2016
29 3.21(月・祝)~3.27(日)	日本水彩画会東京西支部展
30 3.31(木)~3.31(木)	第14回三多摩盆栽展

平成 28 年度	
1 4.1(金)~4.3(日)	第14回三多摩盆栽展
2 4.5(火)~4.10(日)	第29回府中油絵同好会展
3 4.13(水)~4.17(日)	第9回水彩画サークルばれっと展示会
4 4.19(火)~4.24(日)	花・花樹 宮本和郎日本画展 「丹青会」彩墨日本画展
5 5.24(火)~5.29(日)	府中植物画の会 さつき会合同展
6 5.31(火)~6.5(日)	第8回府中※銅楽展
7 6.7(火)~6.12(日)	中島仁司写真展2016~余韻~
8 6.21(火)~6.26(日)	第7回多摩アンデパンダン展
9 6.28(火)~7.3(日)	彫刻と対話法Ⅱ 〈作家〉から見た世界
10 7.26(火)~7.31(日)	第66回はたらく消防の写生会入賞作品展
11 8.9(火)~8.21(日)	府中市平和都市宣言30周年記念 平和を願うー市民画家長沢和子展ー

No. 期間	展覧会名
12 8.30(火)~9.4(日)	府中の森カラクリ展
13 9.6(火)~9.11(日)	地球漫步自悠人のアート展
14 10.4(火)~10.9(日)	第52回府中市民芸術文化祭(彫刻展)
15 10.11(火)~10.16(日)	第52回府中市民芸術文化祭(版画展)
16 10.18(火)~10.23(日)	第52回府中市民芸術文化祭(写真展)
17 10.25(火)~10.30(日)	第52回府中市民芸術文化祭(工芸展)
18 11.1(火)~11.6(日)	第52回府中市民芸術文化祭(日本画展)
19 11.8(火)~11.13(日)	第52回府中市民芸術文化祭(洋画展)
20 11.15(火)~11.20(日)	武蔵野台絵画サークル くる・めくるアート展
21 11.22(火)~11.27(日)	2016 成果報告展示 がじゅくてん
22 11.29(火)~12.4(日)	第8回 牛の会
23 12.6(火)~12.11(日)	ミーティング・ポイント 2016
24 1.14(土)~1.22(日)	第61回北多摩公立中学校美術展
25 2.14(火)~2.26(日)	府中市市民美術展2017
26 3.11(土)~3.12(日)	復興への道2
27 3.16(木)~3.19(日)	都立府中西高校美術部作品展 "WabiSabi"
28 3.20(月・祝)~3.26(日)	香雪喜寿記念展
29 3.30(木)~3.31(金)	三多摩支部連合会盆栽展

平成 29 年度	
1 4.1(土)~4.2(日)	第15回三多摩盆栽展
2 4.4(火)~4.9(日)	日本水彩画会東京西支部展
3 4.11(火)~4.16(日)	第30回府中油絵同好会展
4 4.19(水)~4.23(日)	水彩画サークルばれっと第11回展示会
5 6.6(火)~6.11(日)	長峰弘子 個展
6 6.13(火)~6.25(日)	彫刻と対話法Ⅲ 思い通りにする、をするか
7 6.27(火)~7.2(日)	第8回多摩アンデパンダン展
8 7.27(木)~7.30(日)	第67回はたらく消防の写生会入賞作品展
9 8.17(木)~8.20(日)	光る自分の影と踊ろう!
10 8.22(火)~8.27(日)	日韓美術交流展
11 9.18(月・祝)~9.24(日)	第53回府中市民芸術文化祭(彫刻展)
12 10.3(火)~10.8(日)	第53回府中市民芸術文化祭(洋画展)
15 10.10(火)~10.15(日)	第53回府中市民芸術文化祭(版画展)
16 10.17(火)~10.22(日)	第53回府中市民芸術文化祭(写真展)
17 11.7(火)~11.12(日)	第53回府中市民芸術文化祭(日本画展)
18 11.14(火)~11.19(日)	第53回府中市民芸術文化祭(工芸展)
19 11.21(火)~11.25(土)	角木綿子パッチワークキルトサークル会
20 11.28(火)~12.3(日)	第9回牛の会展
21 12.5(火)~12.10(日)	2017 成果報告展示 がじゅくてん
22 12.23(土・祝)~1.14(日)	第62回北多摩地区中学校美術展
23 1.19(金)~1.30(火)	府中市連合書写展
24 2.2(金)~2.12(月・祝)	第20回連合図工美術展
25 2.14(水)~2.25(日)	府中市市民美術展2018
26 3.10(土)~3.11(日)	防災フェスタ関連展示
28 3.20(火)~3.25(日)	日本水彩画会東京西支部展
30 3.29(木)~3.31(土)	第16回三多摩盆栽展

2 | 市民ギャラリーにおける主催・共催事業

名称
会期・入場者数
内容

平成 27 年度
・「木版画がつなぐ心とココロ 少年たちの共同制作と棟方末華&井上勝江」 5月26日(火)~6月7日(日) 893名 関東医療少年院の少年たちが作成したカレンダー版画とその指導者2人の作品を展示した。
・「彫刻と対話法」 6月16日(火)~28日(日) 671名 武蔵野美術大学彫刻学科研究室、府中市美術館の主催により、武蔵野美術大学大学院彫刻コース2年生9名の作品展示と、公開講評を行った。
・「ばれたんのおたんじょうび会」 8月11日(火)~23日(日) 4,000名 「ばれたんリポート」展関連企画として、ばれたんとむら田のぬりえコーナーを設置し、参加者の作品を展示した。
・「多摩のともだち展」 12月15日(火)~20日(日) たまとも展実行委員会の共催、多摩地区図画工作教育研究会の協力により、小中学生の作品を展示した。
・「府中市市民美術展2016」 2月16日(火)~28日(日) 市内で活動する絵画グループの推薦作品を展示した。

平成 28 年度
・「彫刻と対話法Ⅱ <作家>から見た世界」 6月28日(火)~7月3日(日) 748名 武蔵野美術大学大学院彫刻コース・芸術文化政策コース、府中市美術館の主催により、同彫刻コース2年生10名の作品展示を行った。 また同大学院芸術文化政策コースの学生が作品解説リーフレットの執筆、編集、広報活動など展覧会運営を行った。
・「府中市平和都市宣言30周年記念 平和を願うー市民画家 長沢和子展ー」 8月9日(火)~21日(日) 1,645名 府中市在住の洋画家、長沢和子氏の画業を紹介した。
・「ミーティング・ポイント2016」 12月6日(火)~11日(日) 694名 「フェット FUCHU TOKYO 2016」との連動企画として、共催展示ほかを実施した。
・「府中市市民美術展2017」 2月14日(火)~26日(日) 1,782名 市内で活動する絵画グループの推薦作品を展示した。
・「復興への道2」 3月11日(土)~12日(日) 351名 府中市在住の写真家、中島仁司氏が東日本大震災被災地等で撮影した写真を展示した。

平成 29 年度
・「彫刻と対話法Ⅲ 思い通りにする、をするか」 6月13日(火)~25日(日) 637名 武蔵野美術大学大学院彫刻コース・芸術文化政策コース、府中市美術館の主催により、同彫刻コース2年生11名の作品展示を行った。 また同大学院芸術文化政策コースの学生が作品解説リーフレットの執筆、編集、広報活動など展覧会運営を行った。
・「光る自分の影と踊ろう」 8月17日(木)~20日(日) 288名 早稲田大学創造理工学部 三輪研究室主催、府中市美術館共催により、「影」を使った工学的装置を公開した。
・「府中市市民美術展2018」 2月14日(水)~25日(日) 1,414名 市内で活動する絵画グループの推薦作品を展示した。
・「防災フェスタ関連展示」 3月10日(土)~11日(日) 都立府中の森公園と協力し、防災に関する展示を行った。

1 | 出版物

【展覧会図録】

武蔵府中・炎の油画家5人展－反町博彦・大森朔衛・高森明・戸嶋靖昌・保多棟人 1,900円

マリー・ローランサン 1,800円*

若林奮 飛葉と振動 2,300円

ファンタスティック 江戸絵画の夢と空想 2,400円*

麗しき故郷「台湾」に捧ぐー立石鐵臣展 2,400円*

とことん!夏のびじゅつ(じ)かん スモールワールド 200円

生誕130年記念 藤田嗣治展－東と西を結ぶ絵画－ 2,300円*

ガラス絵 幻惑の200年史 2,200円

歌川国芳 21世紀の絵画力 2,808円(一般書籍)

歌川国芳 21世紀の絵画力 バイリンガルリーフレット 200円

浅野竹二の木版世界 900円

フィンランド独立100周年記念 フィンランド・デザイン展 2,500円*

正宗得三郎画文集 1,900円

絵画の現在 1,800円

絵画の現在別冊 200円

リアル 最大の奇抜 2,300円*

*印は、既に在庫がありません。(平成31年3月現在)

【公開制作リーフレット】

公開制作のコンセプトや制作状況を記録したリーフレット。(A4判6頁)各50円

公開制作64 タイポグラフィの実験室

公開制作65 パルコキノシタ「スウィート・ヒアアフター」

公開制作66 高山陽介

公開制作67 西本良太「PLAYING ON A SURFACE」

公開制作68 谷山恭子「なぜその風景が面白いのか」

公開制作69 風間サチコ「たゆまぬぼくら」

公開制作70 狩野哲郎「すべての部分が固有の形になる」

公開制作71 原倫太郎「回転から、はじまる」

公開制作72 大小島真木「万物の眠り、大地の血管」

【府中市美術館だより】

展覧会などの紹介や関連記事を掲載した小冊子。(B5判6-8頁 年2-3回発行)既刊1-47号 1-26号各100円、27号以降無償配布

【府中市美術館研究紀要】

学芸員による研究報告集。(A4判 年1回発行)既刊1-21号 各1,000円

2 | ホームページ

開館に合わせて、独自にホームページを開設。企画展、常設展、牛島憲之記念館、公開制作、ワークショップ、その他イベントなどの告知を行うと同時に、収蔵品の紹介、市民ギャラリー案内、出版物一覧などを掲載。平成20年4月に府中市ホームページに統合した。

ホームページアドレス

<http://www.city.fuchu.tokyo.jp/art/>

【府中市美術館研究紀要 所収論考一覧】

第20号(平成27年度)

神山亮子「若林奮《地下のデイズ》の階段を降りる」

武居利史「中村宏《タプロオ機械・Ⅲ》」

第21号(平成28年度)

金子信久「司馬江漢の群花図について」

音ゆみ子「歌川国芳とアルチンボルド」

(1) 展覧会入場者数

	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	回数	入場者数	回数	入場者数	回数	入場者数
常設展	5	59,975	5	82,430	6	82,328
企画展・所蔵品展	5	58,100	5	80,102	6	81,195
合計	10	118,075	10	162,532	12	163,523

(2) 教育普及事業参加者数

	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	回数	入場者数	回数	入場者数	回数	入場者数
公開制作	3	35,361	3	54,787	3	34,773
アートスタジオ	33	2,088	31	2,037	20	1,947
ワークショップ	4	122	5	178	4	269
美術鑑賞教室	38	3,911	39	3,800	39	3,940
講座・講演会	52	1,901	50	2,846	30	1,461
ギャラリートーク	3	122	9	416		
企画展関連イベント	15	12,551	31	9,448	51	10,013
公開制作関連イベント	3	74	3	98	4	127
団体鑑賞支援	6	283	7	667	7	278
教員研修会	4	133	3	98	4	159
大学等連携事業	15	385	14	554	18	825
ボランティア活動	131	610	52	505	67	471
合計	307	57,541	247	75,434	247	54,263

(3) 市民ギャラリー利用者数

	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	回数	入場者数	回数	入場者数	回数	入場者数
利用者数	30	28,304	29	23,662	30	29,186

(4) 図書室利用者数

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
利用者数	9,815	9,865	8,665

(5) 全体利用者数

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
(1)～(4)の合計	213,735	271,493	255,637

10 | 関係法規等

1 | 関係法規

府中市美術館条例

平成 11 年9月30日

条例第 17 号

（目的）

第1条 この条例は、市民の心豊かな文化的生活の享受に寄与するとともに、地域社会における美術教育・美術文化の振興を図るため、美術館を設置し、その管理及び運営について必要な事項を定めることを目的とする。

（名称及び位置）

第2条 美術館の名称及び位置は、次のとおりとする。
府中市美術館 府中市浅間町1丁目3番地

（施設）

第3条 府中市美術館（以下「美術館」という。）には、次の各号に掲げる施設を設ける。

- （1） 常設展示室（牛島憲之作品の展示を含む。）
- （2） 企画展示室
- （3） こども造形室
- （4） 公開制作室
- （5） 市民ギャラリー
- （6） その他必要な施設

（事業）

第4条 美術館は、次の各号に掲げる事業を行う。

- （1） 美術作品及び美術に関する資料（以下「美術作品等」という。）の収集、保管、展示及び利用に関すること。
- （2） 美術に関する調査及び研究に関すること。
- （3） 美術に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
- （4） 美術に関する指導、助言及び相談に関すること。
- （5） 美術館の施設及び設備の使用に関すること。
- （6） 前各号に掲げるもののほか、府中市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が必要と認める事業

（休館日）

第5条 美術館の休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。

- （1） 月曜日（月曜日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「国民の祝日」という。）に当たるときを除く。）
- （2） 国民の祝日の翌日（その日が日曜日、土曜日又は国民の祝日に当たるときを除く。）
- （3） 1月1日から1月3日まで及び12月29日から12月31日まで

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要と認めるときは、これを変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。

（平14条例15・一部改正）

（開館時間）

第6条 美術館の開館時間は、午前10時から午後5時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めるときは、これを変更することができる。

（観覧）

第7条 常設展示室及び企画展示室に展示されている美術作品等を観覧しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

- 2 前項の許可を受けた者は、別表第1に定める観覧料を納入しなければならない。

（特別観覧）

第8条 美術館に収蔵されている美術作品等について学術研究等のため模写、撮影等（以下「特別観覧」という。）をしようとする者は、あらかじめ教育委員会の許可を受けなければならない。

- 2 前項の許可を受けた者は、別表第2に定める特別観覧料を納入しなければならない。

（使用許可）

第9条 美術館の施設のうち市民ギャラリーを使用しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

- 2 前項の許可を受けた者は、別表第3に定める使用料を納入しなければならない。

（条件の付与）

第10条 教育委員会は、第7条第1項に規定する観覧の許可、第8条第1項に規定する特別観覧の許可又は前条第1項に規定する市民ギャラリーの使用の許可（以下「観覧等の許可」という。）に際して、必要な条件を付けることができる。

（観覧等の許可の制限）

第11条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、観覧等の許可をしない。

- （1） 公益を害し、又は風俗を乱すおそれがあるとき。
- （2） 施設又は付属する器具等を損傷するおそれがあるとき。
- （3） その他管理上支障があるとき。

（観覧等の許可の取消し等）

第12条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、観覧等の許可に係る条件を変更し、又は当該許可を取り消すことができる。

- （1） 観覧等の許可を受けた者が、この条例又はこれに基づく規則に違反したとき。
- （2） 観覧等の許可を受けた目的又は観覧等の許可に係る条件に違反したとき。
- （3） 災害その他の事故により、施設を使用することができなくなったとき。
- （4） その他公益上特に必要があるとき。

（観覧料等の納入時期）

第13条 第7条第2項に規定する観覧料、第8条第2項に規定する特別観覧料及び第9条第2項に規定する市民ギャラリーの使用料（以下

「観覧料等」という。）は、その観覧等の許可を受けた際に納入しなければならない。ただし、市長が相当の理由があると認めるときは、後納することができる。

（平30条例12・一部改正）

（観覧料等の減免）

第14条 市長は、特別の理由があると認めるときは、観覧料等を減額し、又は免除することができる。

（平30条例12・一部改正）

（観覧料等の不還付）

第15条 既に納入した観覧料等は還付しない。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、その一部又は全部を還付することができる。

（平30条例12・一部改正）

（特別の設備等の使用）

第16条 第9条第1項の規定に基づき市民ギャラリーの使用の許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、当該施設に特別の設備をし、又は付属する器具以外の器具を使用しようとするときは、教育委員会の許可を受けなければならない。

（使用权の譲渡禁止）

第17条 使用者は、使用する権利を譲渡し、又は転貸してはならない。

（原状回復の義務）

第18条 使用者は、市民ギャラリーの使用を終了したとき、又は第12条第1号若しくは第2号の規定に該当して使用の許可を取り消されたときは、直ちに原状に回復しなければならない。

（損害賠償の義務）

第19条 美術館の施設若しくは設備又は美術作品等を損傷し、又は滅失した者は、これにより生じた損害額を賠償しなければならない。ただし、市長がやむを得ない理由があると認めたときは、その額を減額し、又は免除することができる。

（平30条例12・一部改正）

（入館の制限等）

第20条 教育委員会は、美術館の秩序を乱し、若しくは乱すおそれのある者の入館を禁止し、又はその者に対して退館を命ずることができる。

（販売又は営業行為の禁止）

第21条 美術館内においては、教育委員会の許可を受けないで美術館の入館者に物品を販売し、又は営業行為をしてはならない。

（運営協議会の設置）

第22条 博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第1項の規定に基づき、府中市美術館運営協議会（以下「運営協議会」という。）を美術館に置く。

- 2 運営協議会は、委員12人以内をもって組織する。
- 3 委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が委嘱する。
 - （1） 学校教育及び社会教育の関係者
 - （2） 家庭教育の向上に資する活動を行う者
 - （3） 学識経験を有する者
- 4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 運営協議会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

（平24条例4・一部改正）

（選定委員会の設置）

第23条 美術作品等の収集及び評価について審議するため、府中市美

術品収集選定委員会（以下「選定委員会」という。）を美術館に置く。

- 2 選定委員会は、教育委員会が委嘱する学識経験を有する委員6人以内をもって組織する。
- 3 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 選定委員会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

（委任）

第24条 この条例の施行について必要な事項は、教育委員会が別に定める。

付 則

（施行期日）

1 この条例は、公布の日から施行する。

（美術館の供用開始）

2 美術館の供用開始の日は、教育委員会規則で定める。

付 則（平成14年6月26日条例第15号）

この条例は、公布の日から施行する。

付 則（平成24年3月30日条例第4号）

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

付 則（平成30年3月13日条例第12号）

（施行期日）

- 1 この条例は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める日から施行する。
 - （1） 第13条ただし書、第14条、第15条ただし書、第19条及び別表第1の改正規定 公布の日
 - （2） 別表第3の改正規定及び次項の規定 平成30年7月1日

（経過措置）

- 2 この条例による改正後の府中市美術館条例の規定は、平成31年3月16日（以下「適用日」という。）以後の使用について適用し、適用日前の使用及び平成30年7月1日前に使用の許可の申込みがされている適用日以後の使用については、なお従前の例による。

別表第1（第7条）

（平30条例12・一部改正）

●美術館観覧料

区分		1人1回につき	
		個人	団体（20人以上）
常設展	一般	200円	150円
	高校生・大学生	100円	80円
	小学生・中学生	50円	30円
企画展		企画展が行われる都度市長が定める額	

備考

- 1 常設展とは、常設展示室における美術館の収蔵する美術作品等の展示をいう。
- 2 企画展とは、常設展以外の特別な企画に基づく展示をいう。
- 3 高校生・大学生とは、高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者をいう。
- 4 小学生・中学生とは、小学校の児童及び中学校の生徒並びにこれらに準ずる者をいう。
- 5 学齢に達しない者の観覧料は、無料とする。
- 6 企画展の観覧料を納入した者は、常設展の観覧料は、無料とする。

別表第2(第8条)

●特別観覧料

利用区分	料金
模写・模造	1点1日につき 1,000円
撮影	1点1日につき 3,000円
熟覧	1点1日につき 300円
原板使用	1点1日につき 2,000円

別表第3(第9条)

(平30条例12・一部改正)

●市民ギャラリー使用料

区分		使用料
市内に居住している者	全面使用	20,000円
	2分の1使用	10,000円
市外に居住している者	全面使用	40,000円
	2分の1使用	20,000円

備考

- この使用料は、午前10時から午後5時までの全日使用料とする。
- 使用の延長は、美術館の開館時間が延長されている場合に限り認めるものとし、その使用料は、1時間につき全日使用料の20パーセントの額とする。この場合において、100円未満の端数が生じたときは、その端数金額を切り捨てるものとする。

府中市美術館条例施行規則

平成11年11月1日

教育委員会規則第4号

(趣旨)

- 第1条 この規則は、府中市美術館条例(平成11年9月府中市条例第17号。以下「条例」という。)の施行について必要な事項を定めるものとする。

(観覧券の交付)

- 第2条 府中市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、府中市美術館(以下「美術館」という。)の常設展又は企画展を観覧しようとする者に観覧料と引換えに観覧券(第1号様式)を交付する。
- 2 観覧券の発券時間は、午前10時から午後4時30分までとする。ただし、教育委員会が開館時間外に観覧券の交付を必要と認める場合は、これを変更することができる。

(使用の申込み)

- 第3条 条例第3条第5号に規定する市民ギャラリー(以下「市民ギャラリー」という。)を使用しようとする者(以下「使用者」という。)は、府中市美術館市民ギャラリー使用申込書(第2号様式)を教育委員会に提出しなければならない。
- 2 市民ギャラリーの申込期間は、次表のとおりとする。

区分	申込期間
市内に居住する者	使用日の12月前から前日まで
市外に居住する者	使用日の6月前から前日まで

(使用期間)

- 第4条 市民ギャラリーの使用期間は、原則として1週間を1単位とし、引続き使用する場合は、4週間を限度とする。

(使用の許可)

- 第5条 教育委員会は、第3条の規定による申込みについて適当と認めるときは、府中市美術館市民ギャラリー使用許可書(第3号様式)を

交付する。

(使用の範囲)

- 第6条 教育委員会は、使用者が美術に関する展覧会等を開催する場合に限り、市民ギャラリーの使用を許可するものとする。ただし、当該展覧会等の開催が収益を目的としているときは、使用を許可しない。

(使用の変更等の届出)

- 第7条 使用者が市民ギャラリーの使用を変更し、又は取り消そうとするときは、府中市美術館市民ギャラリー使用変更・取消申出書(第4号様式)を教育委員会に提出しなければならない。
- 2 市民ギャラリーの使用の変更に係る前項の申出は、使用日の3月前までに行わなければならない。
- 3 市民ギャラリーの使用の変更は、教育委員会が相当の理由があると認める場合に限り、許可するものとする。

(観覧料等の減免)

- 第8条 条例第14条の規定により美術館の観覧料等を免除することができる場合は、次に掲げるとおりとする。
- (1) 市内の中学生以下の者が常設展又は企画展を観覧する場合
- (2) 次に掲げる者が常設展又は企画展を観覧する場合
- ア 身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第15条に規定する身体障害者手帳の交付を受けている者
- イ 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)第45条に規定する精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者
- ウ 戦傷病者特別援護法(昭和38年法律第168号)第4条に規定する戦傷病者手帳の交付を受けている者
- エ 原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律(平成6年法律第117号)第2条に規定する被爆者手帳の交付を受けている者
- オ 東京都愛の手帳交付要綱(昭和42年民児精発第58号)第1条に規定する愛の手帳(これに類する療育手帳等を含む。)の交付を受けている者
- カ アからオまでに掲げる者のほか、障害者基本法(昭和45年法律第84号)第2条第1号に規定する障害者であることを明らかにすることができる書類を有する者

- (3) 前号の場合において介助者が同行する場合(介助者が複数で同行する場合における観覧料の免除対象人数は1人とする。)
- (4) 市内に居住する70歳以上の者が常設展を観覧する場合
- (5) 市又は教育委員会が主催し、又は共催する事業で市民ギャラリーを使用する場合
- (6) 府中市立学校若しくは市内の幼稚園の教育活動で又は市内の保育所の保育活動で市民ギャラリーを使用する場合

- 2 前項に定めるもののほか、教育委員会が特に必要があると認めるときは、美術館の観覧料等を減額し、又は免除することができる。
- 3 条例第14条の規定による観覧料の減額又は免除を受けようとする者は、観覧しようとする際に、減額又は免除の対象であることを示すことにより教育委員会に申し込み、承認を得なければならない。ただし、教育委員会が特に理由があると認める場合は、この限りでない。

- 4 条例第14条の規定による市民ギャラリーの使用料又は特別観

覧料の減額又は免除を受けようする者は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定めるときに、府中市美術館使用料等減額・免除申込書(第5号様式)により教育委員会に申込みをしなければならない。

- (1) 市民ギャラリー使用料 第3条第1項の規定による申込みのとき。
- (2) 特別観覧料 第10条第1項の規定による申請のとき。
- 5 教育委員会は、前項に規定する申込みについて承認するときは、府中市美術館使用料等減額・免除承認書(第6号様式)を交付する。
- (平30教委規則18・全改)

(観覧料等の還付)

- 第9条 条例第15条ただし書により還付する額は、別表に定めるとおりとする。

(特別観覧の申請)

- 第10条 条例第8条に規定する特別観覧をしようとする者は、あらかじめ府中市美術館特別観覧許可申請書(第7号様式)により教育委員会に申請しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項に規定する申請について適当と認めるときは、府中市美術館特別観覧許可書(第8号様式)を交付する。

(特別観覧の場所)

- 第11条 特別観覧は、教育委員会が指定する場所において行わなければならない。

(図書等の館内閲覧等)

- 第12条 美術館に所蔵されている図書、文献その他資料の閲覧等は、図書室その他の美術館内の所定の場所で行うものとする。

(遵守事項)

- 第13条 美術館の入館者は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。
- (1)美術作品等に触れないこと。
- (2)美術作品等の近くでインク等を使用しないこと。
- (3)所定の場所以外で喫煙又は飲食をしないこと。
- (4)危険物を持ち込まないこと。
- (5)畜類を伴い入れないこと。
- (6)他の入館者に迷惑をかけないこと。
- (7)その他館長が必要と認めて指示する事項

(運営協議会の運営等)

- 第14条 条例第22条に規定する府中市美術館運営協議会(以下「運営協議会」という。)は、美術館の運営について、館長の諮問に応じ審議し、答申するほか、館長に対し意見を述べる。
- 2 運営協議会に会長及び副会長を置く。
- 3 会長及び副会長は、委員の互選による。
- 4 会長は会務を総理し、運営協議会を代表する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

別表(第9条)

市民ギャラリー使用料還付表

使用者の責任でない理由によって使用することができないとき。	公益上又は市の特別の必要により使用許可を取り消すとき。	使用日の3月前までに使用の取消しを申請し、教育委員会が相当の理由があると認めるとき。	使用日の2月前までに使用の取消しを申請し、教育委員会が相当の理由があると認めるとき。	使用日の1月前までに使用の取消しを申請し、教育委員会が相当の理由があると認めるとき。
使用料の100%			使用料の50%	使用料の25%

(運営協議会の会議)

- 第15条 運営協議会の会議は、会長が招集し、その議長となる。

- 2 運営協議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 運営協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 会議は公開を原則とする。ただし、会長が必要があると認めるときは、これを非公開とすることができる。

(選定委員会の運営等)

- 第16条 条例第23条に規定する府中市美術品収集選定委員会(以下「選定委員会」という。)は、美術館における美術作品等の収集について、館長の諮問に応じ審議し、答申する。
- 2 選定委員会に委員長及び副委員長を置く。
- 3 委員長及び副委員長は、委員の互選による。
- 4 委員長は会務を総理し、選定委員会を代表する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(選定委員会の会議)

- 第17条 選定委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 選定委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 選定委員長は、会議において関係職員に対し説明又は資料の提出を求めることができる。
- 4 会議は、非公開とする。

(雑則)

- 第18条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

付 則

この規則は、公布の日から施行する。

付 則(平成15年4月1日教委規則第3号)

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

付 則(平成30年4月24日教委規則第18号)

(施行期日)

- 1 この規則は、公布の日から施行する。

(適用区分)

- 2 この規則による改正後の第8条第1項第5号及び第6号、同条第4項並びに第5項の規定は、平成31年3月16日以後の府中市美術館の市民ギャラリーの使用について適用し、同日前の府中市美術館の市民ギャラリーの使用については、なお従前の例による。

(経過措置)

- 3 この規則の施行の際、この規則による改正前の府中市美術館条例施行規則第5号様式及び第6号様式による用紙で、現に残存するものは、所要の修正を加え、なお使用することができる。

府中市美術館運営規程

平成12年8月30日

教育委員会規程第2号

府中市美術館運営規程(平成11年10月教育委員会規程第3号)の全部を改正する。

(目的)

第1条 この規程は、府中市美術館(以下「美術館」という。)の運営に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(職の設置)

第2条 美術館に館長及び副館長を置く。

(職務)

第3条 館長は教育委員会の指揮を受け、美術館の業務を統理し、美術館を代表する。
(平20教委規程4・一部改正)

第4条 副館長は、府中市職務権限規程(昭和45年7月府中市訓令第8号)に定めるもののほか、府中市教育委員会事務局職務権限規程(昭和52年11月教育委員会規程第15号)の例により職務を行い、権限を行使するほか、館長を補佐し、館長に事故あるときはその職務を代行する。
(平20教委規程4・全改)

(権限行使の基準)

第5条 この規程に定めのない事項については、府中市教育委員会事務局の例による。

付 則

この規程は、平成12年9月1日から施行する。

付 則(平成20年3月21日教委規程第4号)

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

2 | 組織(平成30年3月現在)

府中市—文化スポーツ部—美術館

館長(囑託)	藪野 健	平成27年4月—
副館長	山村仁志	平成23年4月—平成27年6月
	須恵正之	平成27年7月—平成30年3月
副館長補佐	志賀秀孝	平成29年4月—

管理係

係長	堀 隆幸	平成26年4月—平成28年3月
	尾崎伸雄	平成28年4月—
事務職員	豊田真樹	平成24年4月—平成29年3月
	原田亜紀子	平成26年4月—
	古田ちひろ	平成29年4月—

学芸係

係長	志賀秀孝	平成20年4月—
学芸員(事務職員)	金子信久	平成12年10月—
	神山亮子	平成12年10月—
	音ゆみ子	平成17年4月—
	小林真結	平成24年4月—

教育普及担当

学芸員(主査)	武居利史	平成18年4月—
---------	------	----------

〈加盟団体〉

日本博物館協会	登録	平成12年2月24日
全国美術館会議	加盟	平成9年6月19日
美術館連絡協議会	加盟	平成13年4月

3 | 各種委員会(名簿)

■府中市美術館運営協議会(任期2年)

平成26年9月1日—平成28年8月31日

会長	薩摩雅登
副会長	谷矢哲夫
委員	大杉 健
	隠岐由紀子
	金津道子
	西郷美絵
	佐藤静夫
	清水正人
	中村一哉
	堀江一男
	吉田裕子
	米谷一志

平成28年9月1日—平成30年8月31日

会長	薩摩雅登
副会長	谷矢哲夫
委員	畔上洋一
	石田和男
	大杉 健
	隠岐由紀子
	清水正人
	馬場一記
	堀江一男
	吉田裕子
	米谷一志
	鷲尾 仁

■府中市美術品収集選定委員会(任期2年)

平成26年11月1日—平成28年10月31日

委員長	塩田純一
副委員長	草薙奈津子
委員	児島 薫
	佐川美智子
	薩摩雅登
	田中晴久

平成28年11月1日—平成30年10月31日

委員長	草薙奈津子
副委員長	薩摩雅登
委員	児島 薫
	佐川美智子
	田中晴久
	永井龍之介

11 | 利用案内

1 | 開館時間、休館日、観覧料など

■開館時間

午前10時から午後5時まで(展示室への最終入場は午後4時30分まで)

■休館日

月曜日(祝日の場合は翌日)

国民の祝日の翌日(平日の場合)

年末年始、展示替えの期間

■観覧料(1人につき)

		個人	団体(20名以上)
常設展	一般	200円	150円
	高校生・大学生	100円	80円
	小学生・中学生	50円	30円
企画展	展覧会ごとに定める		

*未就学児及び障害者手帳等をお持ちの方は無料。

■府中っ子学びのパスポート

府中市在住、在学の小・中学生は、「府中っ子学びのパスポート」を提示すると、いずれの展覧会も無料で観覧可能。

■府中市美術館メンバーシップ

入会から一年間、何度でも全ての展覧会を無料で観覧できるほか、「府中市美術館だより」(年2回発行)のお届け、館内カフェ、ショップにおいて割引きなどの特典がある。

[会費]

一般 2,500円

高校生・大学生 1,500円

小学生・中学生 800円

[団体会費]

一般 2,000円

高校生・大学生 1,200円

小学生・中学生 640円

[賛助会員会費]

個人 5,000円

団体・企業 30,000円

大学 50,000円

2 | 館内設備

・バリアフリー対応(車椅子)

展示室をはじめ、館内の全ての設備を車椅子で利用可能。

・だれでもトイレ

1階と2階に1カ所ずつ。おむつ替えシートを完備。

・貸出し物

ベビーカー(2台)、車椅子(4台)

・駐車場

身体障害者用の駐車スペースあり(美術館地下)

3 | 交通案内

■電車利用の場合

・京王線府中駅から

- ちゅうバス(多磨町行き)「府中市美術館」下車すぐ
府中駅バスターミナル7番乗り場より、8時から毎時30分間隔で運行。
- 京王バス武蔵小金井駅南口行き(一本木経由)「天神町二丁目」下車すぐ
- 京王バス武蔵小金井駅南口行き(学園通り経由)「天神町幼稚園」下車徒歩8分
- 京王バス国分寺駅南口行き(東八道路経由)「天神町幼稚園」下車徒歩8分

・京王線東府中駅北口から

- 徒歩17分
- ちゅうバス(府中駅行き)「府中市美術館」下車すぐ
8時5分から毎時30分間隔で運行。

・JR中央線武蔵小金井駅南口から

- 京王バス府中駅行き(一本木経由)「一本木」下車すぐ
- 京王バス府中駅行き(学園通り経由)「天神町幼稚園」下車徒歩8分

・JR中央線国分寺駅南口から

- 京王バス府中駅行き(東八道路経由)「天神町幼稚園」下車徒歩8分

■自動車をご利用の場合

・中央自動車道調布インターチェンジから約3.5キロメートル

・中央自動車道国立・府中インターチェンジから約4.4キロメートル

・八王子方面からのアクセスは、府中スマートインターチェンジをご利用いただけます。ETC搭載車のみ通行可能です。

4 | 所在地

〒183-0001 東京都府中市浅間町1の3 都立府中の森公園内

TEL：042-336-3371（代表）

FAX: 042-335-7576

ハローダイヤル: 03-5777-8600

ホームページ: <http://www.city.fuchu.tokyo.jp/art/>

府中市美術館年報
平成 27-29 年度

編集
府中市美術館

印刷
株式会社オフィスエンズ

発行
府中市美術館 ©2019
東京都府中市浅間町 1-3

発行日
平成 31 年 3 月

ANNUAL REPORTS OF FUCHU ART MUSEUM
April 2015-March 2018

Edited by
Fuchu Art Museum

Printed by
office ens Co., Ltd.

Published by
Fuchu Art Museum ©2019
1-3 Sengen-cho, Fuchu-shi, Tokyo, Japan

Published in
March 2019